



### ジョン・A・ダニエルの著書

1. 服従（神の権威の経路と唯一の神の王国への道）。
2. 終わりまでのキリスト教の競争（王位継承資格）。
3. キリストの影としての幕屋。
4. 終末時代の霊的な祈り方（即座に結果をもたらす契約の祈り）。
5. イエス・キリスト、人類に対する神の特別な恵み。

著作権 2003 年 5 月 John A. Daniel。

聖書の引用は欽定訳聖書より引用されています。

この本は神の特別な恵みにより無料で与えられた贈り物であり、販売されるべきではありません。

## 導入

キリスト教世界の人々の90パーセント以上(90%)は、この地球とそこにあるすべてのものの創造、続いて神のイメージに似せて人間が創造され、子孫を生め、増えよ、地に満ちよ、地を従わせよ、そして他のすべての生き物を支配するようという大いなる使命が、神がその命令によって制定した契約によって行われたことを知りません。また、キリスト教徒の大多数は雲の中に虹が現れるたびにそれを見て感嘆しますが、それが何を意味するのか説明できません。なぜ神はイザヤ書51章2節でイスラエルと教会に、あなたの父アブラハムとあなたを産んだサラに目を向けるように言い、アブラハムの先祖であるだけでなく神と共に歩んだセツ、メトセラ、ノアのような人々を省いたのでしょうか。モーセは死ぬ直前、モアブの地でイスラエルに訓戒を与え、彼らが行うすべてのことにおいて繁栄するためには神との契約を守るように強く勧めた。

続けて彼は言った。「部族の長老、長老、役人、イスラエルのすべての男、子供たち、妻、宿営にいる寄留者、薪を切る者、水を汲む者、皆、今日、あなたの神、主の前に立ちなさい。」驚くべきことに、モーセは、まだ薪を切る者、水を汲む者とされていた宿営にいる寄留者について、そのようなことは何もなかったのに、どのようにしてそのことについて言及する靈感を得たのでしょうか。多くのクリスチャンを含む多くの人々は、結婚が神と男と女の契約であることを知りません。そのため、彼らは結婚を、どちらか一方が興味を失えば簡単に解消できる二人の関係に限定しています。離婚は悪魔が人間を用いて始めたものであり、それゆえに神の前に大罪であることをご存知ですか。この無知、あるいはこの尊い契約制度を軽蔑する行為は、多くの家庭を破壊し、多くの子供たちを片親に育てるだけでなく、麻薬中毒者、客引き、犯罪者、売春婦などへと導いてきました。イエスが世界のために祈るのではなく、契約の兄弟たちと、彼らを通して福音を受け入れる人々のために祈っていると、一体誰が信じるのでしょうか。奇妙に聞こえるかもしれませんが、それは真実です。

さて、神は聖霊の導きによって、これらの神秘を解き明かし、それを書き留めるように私に指示されました。そして、この「契約」と呼ばれる8文字の言葉に秘められた神の秘密のいのちを、クリスチャンの家族全体、そして広く世界に示します。この本を読んで、あなた自身の目で、あなたを驚かせ、無知な人類全体がどこへ向かっているのかを思い起こさせるであろう神秘を確かめてください。

ジョン・A・ダニエル

## 謝辞

---

本書の執筆・出版のみならず、このミニストリーと聖書養成学校の成功に向けてご支援くださった、以下の方々に深く感謝申し上げます。まず第一に、愛する妻メアリー・ブレッシングス・ダニエルに心から感謝申し上げます。彼女は私のかけがえのない宝石であり、私たちを結びつけるという神の御心、すなわち私の助け手、そして聖約のパートナーとしての役割を真に果たしてくださっています。また、愛らしく従順な子供たち、ティモシー・ジョン・ダニエル、ベンジャミン・サミュエル・ダニエル、そしてデイビッド・ジョセフ・ダニエルにも感謝いたします。彼らの間の王国との戦いの祈りと精神的な支えは、常に私にとって大きなインスピレーションの源となっています。

モーセのもとで主に忠実に仕えた聖書のヨシュアのように、私のもとで忠実に主に従ってくれた我が子、ジョシュア・N・サミュエルにも感謝します。また、このミニストリーに携わるすべての牧師と兄弟たち、特にモーセ・P・アモスとその家族、イスラエル・アーロンとその家族、ジェームズ・ダニエル、ジョセフ・アグ姉妹、そしてアメリカ合衆国ニュージャージー州在住のルース・ンディディアマカ・フィリップス姉妹から受けた揺るぎない支えも決して忘れません。

最後に、ジョン・O・オコリ王子夫妻とご家族、ソゴジ・ジェーン・オコリ夫人とご家族、ロタナ・オコリ氏とご家族、オケジー・ダニエル・アソムガ氏とご家族、法廷弁護士（退役軍人法務顧問）のご家族からいただいた精神的なサポート、関心、そして愛に神に感謝します。

ジョン・オコンクオとご家族の皆様。「汝を祝福する者を我は祝福する」と仰せの慈しみ深い主よ、この器たちのあらゆる努力を祝福し、彼ら全員が真の回心を得て永遠の命を受け継ぐことができるよう、心からお祈り申し上げます。イエスの力強い御名によって。アーメン。

## コンテンツ

1. 契約は神が生きる命であり、神が話す言語です。
2. 人間的または水平的な神の契約のいくつか  
接続されました。
3. 契約ヤコブとその息子たちとの関係  
シェケム人と共に造られたもの、イスラエル人がギベオン人と共に造ったもの。
4. 神によって保護された、あるいは罰せられた、いくつかの人間のまたは水平的な契約。
5. 秘密協定を結んだ結果  
カルトや社会、あるいは神の意志や解決策の外にあるもの。
6. 神とイスラエル、そして彼らの二番目で最後の王であるダビデとの契約。
7. 夫婦間の結婚の契約  
遺言者としての神。
8. 結婚の契約における夫と妻の互いに対する義務。
9. 契約は知識への扉を開きます。
10. 我らの主イエス・キリストとその教会との契約。
11. 私たちの主イエス・キリストとの契約関係にある弟子や聖徒たちの互いに対する責任。
12. コイノニア、契約パートナー間で光の中で働くことの利点。

## 第1章

### 神の命と神の語る言語としての契約

主の御名を呼び求める者は、だれでも救われるからです。信じたことのない方を、どうして呼び求めることができましょうか。聞いたことのない方を、どうして信じることができましょうか。宣べ伝える者がいなければ、どうして聞くことができましょうか。遣わされなければ、どうして宣べ伝えることができましょうか。「平和の福音を宣べ伝え、良い知らせを告げ知らせる者の足は、なんと麗しいことか。」(ローマ10:13-15)と書いてあるとおりです。

これは使徒パウロがローマ人への手紙の中で、民イスラエルの霊的な状態を描写した際に述べた言葉、あるいは教えです。なぜイスラエルが例として用いられたのでしょうか。それは、当時世界の他の地域の教会、つまり異邦人の教会が、イスラエルを神を知るだけでなく、霊と真理をもって神を礼拝する民と見なしていたからです。

しかし、ユダヤ人であり、異邦人の使徒として神に用いられ、ユダヤ人と異邦人の間の霊的な溝を埋めたパウロは、異邦人教会に手紙を書き、イスラエルは神に対して大きな熱意を持っていたものの（パウロは同章1-3節でそのことを証しています）、それは知識によるものではないと告げました。パウロが語っていたのはどのような知識だったのでしょうか。それは、モーセの律法を固く信じていたために、彼らが従ってこなかった神の義に関する知識のことです。同じように、私はヨハネによる福音書4章にある主イエスとサマリア人の女性との会話を通して、世界中の信者たちの霊的な状態の悪さを描写したいと思います。

イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫を呼んで、ここに来なさい。」女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは彼女に言われた。「『夫がいません』とあなたが言ったのはもっともです。あなたには五人の夫がいましたが、今一緒にいる男はあなたの夫ではありません。その言葉は真実です。」(ヨハネ4:16-18)

このサマリアの女は、キリスト教世界の中の偽りの崇拝者たちを霊的に表しています。なぜそう言ったのか？答えは簡単です。サマリアは、イスラエルの十二部族のうち十部族の首都であり、列王記上第11章と第12章に登場する預言者アヒヤの預言を通して、ソロモン王の従者ネバトの子ヤロブアムに神から統治の地として与えられたのです。彼らの王ヤロブアムは、イスラエルに偶像崇拝を持ち込んだだけでなく、神の契約を破らせました。当時エルサレムを真の礼拝の地としていたユダの王レハブアムに追随者を奪われまいと、イスラエルに偽りの礼拝所を二つ建てたのです。一つはベテルに、もう一つはダンに建てられました。ヤロブアムは、それらの場所でレビの子孫ではない最も身分の低い人々を祭司として奉仕させました。これは、今日の大多数の神の牧師たちが行っていることです。改宗者を失わないように、あるいは会員を増やすために、多くの支部を設立し、経験の浅い牧師を任命して運営させています。そして、これらの無知な牧師たちは油注ぎを受けていないため、魂を地獄へと導き続けています。サマリアという名前は見張りの山という意味でもあり、女性は霊的に教会を表しています。これは、本来神の子らが主を見守る山であるはずが、今では偶像に犠牲を捧げる山と化していることを示しています。だからこそイエスは、今こそそこの礼拝をやめるべきだと言ったのです。5人の夫を持ち、現在の6人目の夫がその夫ではないということは、この女性が重大な姦婦であり、また契約違反者であることを示しています。12部族からなる国家において、12部族のうち10部族がサタン、つまり偽りの支配下にあるという事実は、今日のキリスト教界に蔓延する欺瞞、あるいはサタンの影響の程度を示しています。これをパーセンテージに換算すると、約83.3%となります。6

エルサレムに残っている16.7%の人々は真の礼拝に身を置いていると言えるかもしれませんが、そのうちわずか10%だけが神の契約に心を向けています。これはイザヤ書6章11-13節とアモス書5章3節に記されているように、神の民の多数のうち十分の一だけが滅ぼされないと神は語っています。残りの6.7%は依然として偽りや欺瞞に加担するでしょう。なぜなら、彼らも83.3%、つまり合計90%の信者と同様に、神との契約関係に入っていないからです。もし入ったとしても、それを破るか、守っていないかのどちらかです。これは、6番目の男と関係を持っていたにもかかわらず、姦淫によって夫婦関係における真の愛の感触を失ってしまったサマリアの女のように、世界中の大多数の信者も、ある宗派から別の宗派に移り住んだにもかかわらず、真の礼拝とは何なのかを完全に見失っているからです。ヨハネによる福音書4章23-24節で主イエスがサマリアの女に語られたように、神が求めているのは霊と真理をもって神を礼拝することです。それは、神との契約を結んでいるだけでなく、それを守っている人々によってのみ行われます。世界中のキリスト教共同体が抱える問題は、大多数の牧師たちが、改宗の有無にかかわらず、多くの人々を教会や奉仕活動に集めることにしか関心がなく、会衆に真の礼拝とは何かを教えていないことです。しかし、パウロが言うように、これらの牧師や説教者の多くは、実際には神から違わされたものではありません。なぜなら、彼らは神との契約関係になく、新しい契約が何を語っているのかを知らない人々に教えることができないからです。新しい契約とは、神殿での礼拝や組織的な儀式的な礼拝は、主イエスの来臨だけでなく、その死と復活によっても終わったということです。ですから、彼らは真理を宣べ伝えるために聖化されておらず、キリスト教世界全体が主イエスの福音を聞いて信じるように導く真理を宣べ伝えていないのです。

女よ、わたしを信じなさい。あなたがたがこの山でもエルサレムでもない所で父を礼拝する時が来ます。しかし、真の礼拝者が霊と真理をもって父を礼拝する時が来ます。そして今がその時です。父はそのような礼拝者を求めておられるからです。(ヨハネ4:21,23)

パウロの言葉をもう一度見てみると、「聞いたこともない方を、どうして信じることができるだろうか」という問いが浮かび上がります。これは、ユダヤ人が主イエスについて聞いたことがないという意味ではないことが分かります。彼らは、主イエスが来られ、説教され、十字架につけられ、復活し、天に昇られたのを実際に見ました。また、他の使徒たちが救いは主の名によると説教するのを目撃しました。彼らが聞いていないのは、主イエス・キリストを信じるこそが神の義を得る道であり、肉の割礼などといったモーセの律法を守らないことではないということです。

したがって、義の使徒として異邦人の教会を心の割礼へと導き、神の義を保つようにしたパウロと同じように、私も神の契約パートナーとして自分自身を明け渡し、神の霊によって用いられ、この契約と呼ばれる一言で展開される神の秘密の生活を世界全体に、特にキリスト教世界にもたらすことにします。

これは、キリスト教世界の大多数の人々が知らない秘密であり、詩篇作者が言ったように、よく話題になる聖徒の携挙において彼らが主のもとに集められる原因となるものである。

わたしの聖徒たち、わたしと犠牲を捧げて契約を結んだ者たちをわたしのもとに集めよ。天は神の義を告げる。神ご自身が裁き主だからである。(詩篇50:5-6)

神はアサフの詩篇を通して、聖徒たちが御自分のもとに集められると告げられました。そして、誰を集めるべきかという混乱を避けるため、魂の体を贖うための身代金として、自らの意志で血や肉を捧げ、神と契約を結んだ者たちであると告げられました。そして神は、この民、すなわち聖徒たちに、天に神の義を告げさせられるのです。

したがって、契約とはヘブライ語の beriyth で、ber-eeth と発音され、協定、同盟、連盟を意味しますが、ギリシャ語では diathk で、dee-ath-ay-kay と発音され、処分、すなわち契約、遺言を意味します。Chambers Dictionary によると、契約とは相互の合意（交換される、相互の、授受される、共通の、共同の、2人以上の間で共有される）、合意を含む文書、神と個人または民族の間で締結された合意、協定、遺言を意味します。一方、契約とは、近くに置かれた、または一緒に組み合わされた、しっかりとグループ化された、広がっていない、連盟、条約、または連合です。連盟はまた、連盟または同盟、連盟によって結合された人々または州を意味します。Nelsons New Illustrated Bible Dictionary の見解では、契約とは2人の人物または2つのグループ間の合意であり、それぞれが相手に対して約束をすることを含みます。サンディエゴのベテル神学校の旧約聖書とヘブライ語の教授であり、この聖書辞典の編集長でもあるロナルド・F・ヤングブラッドの考えによれば、ヘブライ語で「契約」を意味する言葉は、おそらく「間」を意味し、すべての契約の基礎となる第一原理としての関係の本質を強調しています。生命とは、生きている状態、意識のある存在、動植物の存在、植物の活動の総和、そのような状態の継続または進行、継続的な存在、活動、何かの活力または有効性、魂と肉体の結合、誕生から死までの期間、経歴、現在の存在状態、生活様式、社会的状態、社会的活力、人間関係、人生の物語、伝記、永遠の幸福、活発な原理、継続的な存在が依存するもの、などを意味します。Chambers Dictionary では、言語を「人間の話し言葉、特に国民の話し言葉や単語および慣用語の集合、表現様式、語彙、考えや感情を表現するあらゆる方法、理解可能なコミュニケーションを形成する規則を持つ記号およびシンボルの人工的なシステム」と説明しています。

この章を一言で説明すると、「神の命と神の語る言語としての契約」とは、神と、同じ生き方や経歴を持ち、またその契約に属さない者には共有できない同じ表現方法を持つ人々との間で締結された相互協定を意味します。これはまた、この人々が知られるであろういくつかのしるしや象徴があることも示しています。つまり、神の命と神の語る言語は、契約と呼ばれるこの絆を通して、同じ生き方をし、同じ言語を話すことに同意した人々へのみ明らかにされるということです。

---

本書では、人類に関わる契約を水平的なものと定義しています。そのような契約は、対等な者同士、あるいは上位者と下位者の間で結ばれるものでした。しかし、神聖な契約もあり、それを垂直的なものと呼ぶことができます。そのような契約は常に上位者と下位者の間で結ばれます。神とその民の間の契約という考えは、神が創案した聖書の中で最も重要な真理の一つです。聖書において、契約は単なる契約や合意をはるかに超える意味を持ちます。なぜでしょうか？それは簡単です。契約には必ず終了日がありますが、契約は死によってのみ終わる恒久的な合意だからです。そしてほとんどの場合、契約は死を超えて永遠へと続くため、死によって終わることはありません。だからこそ、パウロはヘブライ人への手紙の中でこう述べているのです。

「遺言があるところには、必ず遺言者の死がなければなりません。遺言は人が死んだ後に効力を持ちますが、そうでなければ、遺言者が生きている間は全く効力を持ちません。」(ヘブライ9:16-17)

力という言葉はギリシャ語で「bbais」で、発音は「ベブ・アー・ヨス」で、安定した、堅固な、確固とした、確かなという意味です。これは、契約が当事者の死後に安定的、あるいは確実なものとなることを証明しています。しかし、聖書に記されているように、結婚のように当事者のどちらかの死で終了する契約はほとんどありません。「夫のある女は、夫が活着ている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、彼女は夫の律法から解放されます。ですから、もし夫が活着ている間に他の男と結婚するなら、彼女は姦婦と呼ばれます。しかし、もし夫が死ねば、彼女はその律法から解放されます。ですから、たとえ他の男と結婚したとしても、彼女は姦婦ではありません。」(ローマ7:2-3)

ここでは夫と妻について語られています。なぜでしょうか？それは、「結ばれる」という言葉が「契約」と同じ意味を持つからです。そして、ここで言及されている律法は、夫婦を結びつける契約の律法です。ですから、パウロが言っているのは、そのような契約や律法を破ることができるのは死だけであるということです。どちらか一方の死は、活着ている者を解放します。

契約と誓約のもう一つの違いは、契約は一般的に技能や技能といった人の一部分のみに関わるのに対し、誓約は人全体を対象とする点です。聖書によれば、すべての誓約は宗教的に一匹以上の動物を殺し、その血を流すことによって行われました(例：創世記8:20、15:9-10、出エジプト記24:5-

(エレミヤ書34:18-20)動物を屠り、その血を流すことの重要性は、ヘブライ人への手紙の慣用語「契約を結ぶ」に反映されており、これは「契約を結ぶ」という意味に翻訳されています。「契約を結ぶ」という言葉は、活着ている動物、鳥、あるいは人間の命が短く殺され、その血が契約の血として用いられたことを示しています。

したがって、主イエスの来臨前に動物や鳥の血を使って古い契約と以前の契約を封印することが承認されたのは、ここに見られるように、イエスの血による新しい契約の象徴でした。

「この杯は、あなたたちのために流されるわたしの血による新しい契約です。」(ルカ22:20)

この血は、すべての人々とすべての人々のための、私たちの救済の印として流されたのです。

ヘブライ人への手紙10章1-19節にあるように、時が来ます。神がその民と結ばれる契約について心に留めておくべきことの一つは、神は聖なる存在であり、全知であり、遍在し、全能であるにもかかわらず、弱く、罪深く、不完全な人々と契約を結ぶことに同意されるということです。なぜでしょうか。

なぜなら、神は人々と契約を結ぶことで、彼らを聖なる者とし、神のように歩み、神のように語れるようにするからです。契約を通してでなければ、神の聖性にあずかることはできません。だからこそ神は天使ではなく、弱く、罪深く、不完全な人間と契約を結び、最終的に彼らを神の聖性、完全性、そして力の領域へと導くのです。神は私が聖なる者、あるいは完全であるから私と契約を結んだものではありません。決してそうではありません。むしろ、私が弱く、罪深く、不完全であるからこそ、私を呼び、私と契約を結び、私の不完全さを完全なものにしようと決めたのです。もう一つの理由は、神は私が神に従うことを知っており、私を試す機会を与えてくださったからです。旧約聖書や新約聖書には、互いに対等な関係にある人々の間で結ばれた契約の例が数多くありますが、新約聖書は律法の契約と約束の契約を明確に区別しています。パウロはガラテヤ人への手紙の中でこう述べています。

これらは比喩である。これらは二つの契約である。一つはシナイ山から出たもので、奴隷となる者、すなわちアガルである。このアガルとはアラビアのシナイ山のことで、今はエルサレムであり、その子孫とともに奴隷となっている。

しかし、上にあるエルサレムは自由人であり、私たちすべての母です。(ガラテヤ4:24-26)

パウロはこれらの「二つの契約」について語り、一つは「シナイ山」から、もう一つは「上なるエルサレム」から始まったと述べました。パウロはさらに、シナイ山で結ばれた契約、すなわち律法を、奴隷状態に陥れ、死と罪の宣告をもたらす契約として描写しました(コリント人への手紙二3:7-9)。さらにパウロは、人間の弱さと罪のために、この契約は従うことが困難、あるいは不可能であると述べています。しかし、エペソ人への手紙2:12-13に記されている「約束の契約」は、

13人はこう言った。

「あなたがたは、そのころはキリストに属さず、イスラエルの国から疎外され、約束の契約にも属さず、この世にあって希望もなく、神もない者でした。しかし今は、かつては遠く離れていたあなたがたも、キリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者とされています。」

これは「天のエルサレム」で確立されたものであり、人々が罪のために契約を守れない場合でも、神が救いを与えるという神の保証です。私たちの救い主イエスが生まれる選民の備えは、神がアダムとダビデと結ばれた契約の約束であり、この二つの聖句に示されています。

「わたしは、お前と女との間に、また、お前の子孫と女の子孫との間に敵意を置く。女はお前の頭を砕き、お前は女のかかとを砕くであろう」(創世記3:15)。

「そして、その名をイエスと呼ぶであろう。彼は偉大な者となり、いと高き方の子と呼ばれるであろう。主なる神は彼に父ダビデの王座を与えるであろう。彼は永遠にヤコブの家を治め、その王国は終わることがないであろう。」

(ルカ1:31-33)。

イエスは、サタンの頭を砕いた最初の女の子孫です。神がノアと結んだ契約は、世界とその住民を再び洪水で滅ぼさないという約束です(創世記9:11-12)。神はアブラハムと契約し、アブラハムの信仰のゆえに彼の子孫を祝福すると約束しました(創世記17:6-8)。これらの約束の契約はすべて、一つの恵みの契約に集約され、イエスの生涯と宣教において成就しました。

イエスの死は、新しい契約への扉を開きました。この契約のもとで、私たちは律法を守ろうとする人間の努力ではなく、神の恵みと憐れみによって義とされます。そしてイエスは、神と人類の間のこの新しく、より良い契約の仲介者です。神がご自分の民と結ばれるそれぞれの契約には、三つの象徴的な原則があります。

1. それらはすべて神から始まる(創世記9:9-10、エレミヤ書31:22)。
2. それらは永遠です。なぜなら、それらを制定した神は永遠に生きておられるからです。(創世記9:16、17:13&19、民数記25:11-13)
3. それらすべてには、記念として目に見えるしるしやシンボルがあります(創世記9:12-15)。

これは、誰も神に対して「あなたと契約を結びたい」と言うことはできないということの意味しています。これは、罪や人間の弱さなどにより、人間が契約における自らの役割を果たすことができないためです。人間は主に誓いを立て、それを守るよう努めることはできますが、契約は守ることができません。なぜなら、神なしには誰も契約を守ることができないからです。だからこそ、神は契約の守護者とも呼ばれています。なぜなら、神は契約を創始し、ご自身が選んだ人々と契約を結び、ご自身の役割を果たして、人間に契約における人間としての役割を果たす恵みを与えるからです。

神ご自身が永遠の父であり、永遠に生きておられるため、神とその民との契約は永遠であるという事に加え、それら全てには、覚えておくために用いることのできる物理的な象徴やしるしがあります。そして、これらの象徴やしるしは、神の命、そして神の契約の民が生き、話す神の言語の中に見出すことができます。だからこそ私はこの章を「神の命としての契約、そして神が語る言語としての契約」と名付けました。なぜなら、神は契約を通してのみ、人間と関わるからです。そして、神があなたを導き入れ、あるいは契約を結ばない限り、あなたは神の生き方や神の言語を知ることができません。

「それゆえ、主は言われる。わたしが獲物を求めて立ち上がる日まで、わたしを待ちなさい。わたしは諸国民を集め、諸国を召集し、わたしの憤り、わたしの激しい怒りをすべて彼らに注ぐ。全地はわたしのねたみの火で焼き尽くされる。その時、わたしは民に清い言葉を与え、皆が主の名を呼び、心一つにして主に仕えるようにする。」（ゼパニヤ人への手紙 3:8-9）

---

神は民に、主を待ち続けるようにと告げられました。なぜなら、世界の国々や王国を集め、彼らに怒りを注ぎ終えた後、神は民に清い言葉に向け、あるいは啓示し、彼らが主の名を呼ぶだけでなく、心一つにして主に仕えるようにすると決意しておられるからです。清い言葉は天の言葉であるだけでなく、人間の言葉と混ざり合うことのできない、唯一の清い礼拝の言葉です。そして、これは神との契約を通して、怒りが過ぎ去るのを辛抱強く待ち望んだ人々にのみ啓示されます。アサフの詩篇によれば、契約の箱がオベド・エドムの家からエルサレムのシオンに移された際、神殿で歌を歌い、箱の前でシンバルを鳴らしていた歌い手は、こう言っています。

「苦難の日にわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを救い、あなたはわたしの栄光を現す。しかし、悪者には神は言われる。『あなたはわたしの掟を告げ、わたしの契約を口にするをどうして知っているのか。あなたは戒めを憎み、わたしの言葉を捨て去る。盗人を見ると、あなたはそれに同情し、姦淫する者たちと交わった。あなたは口を悪に向け、舌は欺瞞を企てる。あなたは座して兄弟をののしり、自分の母の子をののしる。』（詩篇50:16-20）

神は、自らの意志を神に捧げることで契約を守る者たちの呼びかけにためらうことなく応え、神が彼らを救い出すと、彼らは神の名を賛美することで感謝を表します。しかし、神の言葉に従うことを拒否した悪人が神の言葉に触れたり、契約について語ったりすることを神は憎まれます。神は、彼らが盗人や詐欺師などと交わるだけでなく、姦淫にも加担していると述べています。ここでの「悪人」とは、罪人だけを指すのではなく、キリスト教を信仰していると公言する人々でさえ、こうした悪行に耽る者たちこそが、主が警告する悪人であるとされています。

神の言葉を説教することをやめ、神との契約を結んでいると信じない世界を欺くことをやめることです。

## 第2章

### 人間のまたは水平的につながるいくつかの神の契約

---

神聖な (Divine)はヘブライ語で「これ」を意味し、thi/ -osと発音され、神のような、神格的なという意味です。しかし、チェンバーズ辞典によると、神聖な (Divine)とは、神に属する、または神から発する、神聖な、最高に優れた、素晴らしい、素晴らしい、先見の明のある、予感を持つ、などを意味します。一方、水平 (Horizontal)とは、地平線に関連する、地平線に平行な、水平、地平線に近い、地平線面内で測られる、集団の全員に等しく適用される、活動の側面など、同等の地位または発展段階にある別々の集団間の関係などを意味します。この章で私が本当に語りたのは、神が人類または特定の集団と結んだ契約についてです。これらの契約において、ある個人が他の人々の代表として用いられます。しかし、そのような契約は、人類または特定の集団の全員に、その代表者と同様に等しく適用されます。

#### 人類の代表としてのアダムとの神の契約 神が人類と結んだ最初の契約は、人類の

代表としてのアダムとの契約でした。この契約には、神の約束を受けるために、アダムと全人類が従うべきいくつかの原則が定められていました。これらの約束は創世記1章28-29節に記されています。

「神は彼らを祝福し、こう言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちよ、地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上の生きたすべての生き物を治めよ。』神はまた言われた。『見よ、わたしは全地の面にある種を持つすべての草と、種を持つ木の実を結ぶすべての木を、あなたたちに与えた。それはあなたたちの食物となる。』」

約束は (a)子を生め (b)増えよ (c)地に満ちよと要約できる。

(d) 海の魚、空の鳥、そして地上を動くすべての生き物を支配することによって、地を従わせなさい。(e) 人はまた、全地の面にある種を持つすべての草と、種を持つすべての木の実を食物として摂らなければなりません。(c) 地を満たすという部分に下線を引いたのは、「満たす」という言葉の神秘性を明らかにし、また、神の私たちへの愛を人に示すためです。「満たす」とは、再び満たす、完全に満たす、豊かに蓄える、人々に与えるという意味です。したがって、「地を満たす」とは、かつてそこに住んでいた存在 (人間ではない) が滅ぼされた後、空っぽになった地を、人が再び満たすことを意味します。これらの存在、おそらく霊たちは、墮落して底なしの穴に追放され、そこで悪魔や悪霊に変貌する前は、サタンに支配されていました。だからこそ、人は再び地を満たすために創造されたのです。しかし今回は、「契約」と呼ばれる絆を通して、人は全地を従わせ、地上のあらゆる生き物、生物と無生物を支配しなければならないのです。これはつまり、神は人間との関わりをやめることも、人間を創造する前に底なしの淵に送った他の霊的存在たちと同じように、人間を地上から絶滅させることもできないということです。たとえ人類がこれまでしてきたように、人間が神に対して罪を犯したとしても、神は他の被造物ではなく、人類の中から地上の新たな住人を造り続けられます。ですから、人が増殖して地を完全に満たし、義によって地を従わせるまで、この契約は未だ果たされていないのです。だからこそ神は、神の栄光、あるいは神の御心によって滅ぼされるまで、人類の多くの代表者たちと契約を更新し続けたのです。

神の契約の民の贖いを通して、義は地を覆う。これはまた、人間が絶えず罪を犯しているにもかかわらず、神が人間を心に留め続けてくださっていることを天使たちが心配する理由でもある。詩編8章4-8節とヘブライ人への手紙2章6-8節で、ダビデとパウロが彼らの気持ちを述べているのがわかる。神は人類への約束と祝福を継続し、エデンの東に園を設けた。それは霊的に喜びに満ちた教会を意味する（つまり、神の恵みによってのみ運営されるため、喜びに満ちたものとなる）。神がそこに生育を許した木々はすべて喜びに満ちた木々（つまり、喜びに満ちた器）であった。しかし、神は人間が神の原則にどれほど忠実に従うかを知るために、命の木と善悪を知る木の両方を園に植えた（創世記2章8-17節参照）。神はまた、園に水を注ぐ（つまり、教会に言葉を与える）ために、川（聖霊を表す）をエデンに流した。神によれば、人間は契約における自らの役割を果たすために、園を（すなわち、執り成しとそこに住む人々への福音の説教を通して）整え、それを守る（すなわち、園とそこに住む人々を見守ることを通して）義務を負っていました。神は人間に警告を与えず、こう言われました。「園のすべての木の実を食べなさい。しかし、善悪の知識の実だけは食べてはならない。それを食べる者には死刑が下されるからだ。」神とアダムの間のこの契約は、垂直的であると同時に水平的でした。この契約が垂直的であるのは、神によって構想され、神によって定められ、神によって実行されたからです。なぜでしょうか？それは、神ご自身が直接、そして個人的に関与されたからです。一方、この契約は水平的でした。なぜなら、この契約はアダムで終わるべきではなかったからです。つまり、アダムは人類の代表に過ぎず、神が契約を結んだのは人類だったのです。

「神はまた言われた。『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造ろう。そして彼らに海の魚、空の鳥、家畜、地のすべての獣、地を這うすべてのものを支配するようにしよう。』神は御自身のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造された。男と女である。

神は彼らを創造した（創世記1:26-27）。

神の定められた計画、すなわち三位一体は、どのようにして人間を、それも自らの姿に似せて創造するという決定を下したのでしょうか。その答えは聖書の中に明確に記されています。神は永遠の住処、すなわち永遠からやって来て、第三の天と、後に第二の天となる地を創造されました（創世記1:1-2参照）。その後、神は当時の天使たちとその他の神々の被造物の長としてルシファーを創造しました。ルシファーはまた、現在第二の天と呼ばれている最初の地球の統治も担当していました。彼は天のあらゆる美を備えて創造され、偉大な力、神による、あるいは霊的な生殖の力さえも持っていました（エゼキエル書28:12-19参照）。この神による生殖を通して、ルシファーは最初の地球に住む他の霊的存在の創造に携わりました。それはちょうど、アダムが自然の生殖を通して、地球を満たすための人類の創造に携わったのと同じです。ルシファーが神に対する最初のクーデターを計画した時、彼（ルシファー）はこれらの霊的存在と墮天使の心に自らの考えを注入する能力を持っていました。彼は人間を創造する力を持っていませんが、この霊的生殖の力を通して、邪悪な霊的存在を人間に変え、彼に願いを叶えてくれるよう頼む信者たちの心の願いを満たすことができました。それゆえ、イザヤ書14章10-20節で、ルシファーとその臣下たちが神に対して罪を犯したとき、三位一体の力は彼を天のエルサレムにある神の山から最初の地球（つまり第二の天）へと稲妻のように投げ落とし、彼の臣下（つまりその地球に住む霊的存在）は皆、底なしの穴に投げ込まれ、

悪霊。こうして最初の地球は空っぽになり、地球を覆っていた水は闇に覆われました。おそらく、神の光がサタンから引き離され、光から闇へと転じたためでしょう。

最初の地球の統治者としてのサタンの地位が終わり、その地球が破壊された後、三位一体の神は人間を自分たち（すなわち三位一体）に似た者として創造することを決意しました。三位一体とはどういうことでしょうか？三位一体の神は、平等であるように創造されなかった天使とは異なり、平等です。ですから、人類も平等でなければなりません。フィリピン人への手紙2章5-11節でパウロがイエスについて何と言っているかを見てください。

キリスト・イエスにもあったのと同じ思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。キリストは神の御姿であられるが、神のあり方であることに固執しようとは思わず、かえってご自身を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。そして、人と同じ姿で現れ、ご自身を低くして、死にまで、実に十字架の死にまで従われました。

イエスは神と同等の存在ですが、人類の救済のために、しもべ、あるいは子として受け入れられました。三位一体において唯一異なるのは、それぞれ異なる機能を持っていることですが、人格という点では、唯一の至高の存在です（コリント人への第一の手紙12章4節参照）。

6) こうしてアダムは一つの存在として創造されましたが、女性としての役割を担うために、イブが連れ出されました。神の二つ目の理由は、人間が神の権威に服従できなかったサタンの代わりとして創造されたということです。現在、サタンの権威を奪う資格を持つ天使は存在しないからです。これは、サタンが第一の大天使であるため、サタンの権威を奪おうとする天使は、権威の伝達経路を定めた神の怒りを招くからです。しかし、人間は天使やサタンを含む他のすべての被造物よりも高い力と権威を持つように創造されました。三つ目は、神が人類と結んだ契約には、男のアダムと女のアダムの両方が代表として含まれていました。神は「彼らに支配権を与えよ」と仰せになったからです。男と女を創造されました。これは、神が契約を二人の人間と結んだことを示しています。二人は地球を満たすまで繁殖し続ける存在として、繰り返しますが、人類の頭である男アダムが、神が霊的存在に対して行ったように罪を犯した時、人類を地上から絶滅させるのではなく、女アダムは神が新たな契約を継続するための道筋となるのです。あらゆる契約の根底にあるのは、与えることであり、受け取ることではないということです。だからこそ、あらゆる契約関係には犠牲が伴わなければなりません。契約、あるいは契約は、犠牲が捧げられた後に有効になります。しかし、神は血を伴わない人からの犠牲を受け入れません。新約聖書において、血は人間の意志です（つまり、神の霊の導きの外で行われるものはすべて、神の前に受け入れられないのです）。

使徒パウロによれば、

ですから、兄弟たちよ、私は神の慈悲によってあなたたちに懇願します。あなたたちの体を神に受け入れられる聖なる生きた供え物としてささげなさい。これがあなたたちの正当な礼拝です。

（ローマ12:1）。

生きた犠牲とは、単に祭壇に捧げられた命、死んだ動物と同等の意志や欲望を持たず、神への奉仕のために捧げられる準備のできている、絶対的で計り知れない服従の心の態度と定義することができます。パウロがこの言葉で言いたかったのは、キリストのために、多くの苦難、非難、飢饉、迫害などを乗り越え、自分の意志を絶対的で計り知れない服従の心の態度を持つ覚悟ができない限り、あなたの犠牲は聖なるものではなく、受け入れられず、また、神の御心にもかなわないということです。

合理的な奉仕となる。なぜなら、肉の命は血の中にあり、神と人との間の和解のために用いられるのは血だけである、と聖書は述べているからである。

肉の命は血にある。わたしは、あなたがたの魂のために贖罪をするため、祭壇の上でそれを与えた。血こそが魂のために贖罪をするからである。血はすべての肉の命であり、その血は彼らの命である。それゆえ、わたしはイスラエルの人々に言った。「あなたたちはいかなる肉の血も食べてはならない。すべての肉の命はその血である。それを食べる者は断たれるであろう」(レビ記 17:11,14)。

そして、律法によってほとんどすべてのものが血で清められる。そして、血を流すことなしには、罪の赦しはない。(ヘブライ9:22)

この血は人間の意志と同じであり、神は肉なるものの血を食べる者は断ち切られると言われました。今私たちにあって、それは、自分の魂の体を贖うための身代金として、主イエスの足元に人間の意志を捧げない者は、やがて滅びることを意味します。なぜなら、人間の意志はその血の中にあるからです。人間の罪を贖うために用いられるのは、血だけです。人間の意志について言えば、神の霊の明確な承認を得ずに行うものはすべて、あなたの意志です。そして、そのようなことは聖なるものではなく、神の完全な意志ではないため、神に受け入れられません。そして最後に、神があなたにそれを行うためのレーマを与えていないため、それは理にかなった奉仕ではありません。ちなみに、レーマとは、特定の目的のために、特定の時に特定の人に語られた神の声、あるいは神の言葉を意味します。先ほど申し上げたように、契約の基盤はあなたが何を与えるかであり、何を受け取るかではないのです。神はすぐに、ご自身が持っているものを、人生の喜びと共に人間に与え始めました。まず神は人間に、野の獣や空の鳥など、あらゆるものに名前をつけるように命じました。神はそれだけにとどまらず、人間を眠らせ、自らの善意によって、人間が考えつく限り最高の贈り物を創造し、与えました。それは、男の助け手（つまり、助手、あるいは適切な、あるいは資格のある助手）となる女性です（創世記2:18-25）。神は毎日降りてきて、彼女たちと親密な交わりを持ち続けました。

アダムとエバは、神の善意に報いるために、自らの契約の義務を果たすため、善悪を知る木の禁断の実を食べないようにしなければならませんでした。それは、彼らが自分の意志にとらわれたり、世の知恵に従って歩んだりしないようにするためでした。そして、禁断の実を食べることで父と子の関係という契約を破り、裸になったことで、このすべては歴史となりました。（創世記3:1-11）では、彼らが裸であることを知った時、何をしたのかを見てみましょう。

すると、二人の目が開け、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻く腰帯を作った（創世記3:7）。

聖書であれ夢であれ、自分の裸を見るということは、その人が罪を犯していることを意味します。罪を犯していることに気づいた人々はすぐに、いちじくの葉でエプロン（つまり、体の前面を覆う腰巻きまたは帯）を作り、裸を隠しました。アダムとイブの義、あるいは人間の自己正当化を象徴するこのエプロンは、主が預言者イザヤを通して汚れたと言われたものです。

ぼろ布。

しかし、私たちはみな汚れたものようであり、私たちの正義はみな汚れた布切れのようであり、私たちはみな本の葉のように枯れ、私たちの咎は風のように私たちを吹き飛ばします（イザヤ64:6）。

アダムとエバの罪の重大さはさておき、真の悔い改めと告白をせずに罪を覆い隠すために自らの義を求める行為は、キリスト教世界では非常に一般的です。多くの人が重大な罪を犯し、アダムとエバのように罪を犯していることに気づいた時、ただ悔い改める人もいれば、断食と祈りを捧げる人もいます。しかし、しばらくすると、彼らは同じ罪を犯していることに気づきます。彼らが行っているのは、神の言葉に基づかない自らの義を求めているということです。このような罪がどのように扱われるかについての神の基準をご覧ください。

自分の罪を隠す者は栄えることはないが、それを告白して捨てる者は憐れみを受ける。(箴言28:13)

互いに罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。そうすれば、あなたがたは癒されるでしょう。義人の熱心な祈りは、大いに力があります。(ヤコブ5:16)

もし私たちが罪を告白するなら、神は私たちの罪を赦し、私たちを清めてくださる。  
すべての不義から(ヨハネ第一1:9)

あなたは神に対してだけでなく、あなたの癒しや救済のために祈るのを助けてくれる人々、特にキリスト教徒の兄弟たちにも悔い改めて罪を告白しなければなりません。そして、そのような罪を捨て去りなさい(捨てるとは、見捨てる、見捨てるという意味です)。聖書が「告白し、捨て去る」と述べているのは、継続的な過程を意味します。あなたがそのような重大な罪を犯していることに気づくたびに、あなたはそれを告白し、捨て去り続けなさい。そうすることで、あなたは悪霊を暴き、人々からの非難を通して謙虚になることによって、癒され、解放されるでしょう。そして神はあなたに慈悲をかけ、あなたが成功し、繁栄することを許してくださいます。悔い改めも告白も捨て去ることもせずに、あなたが経済的または物質的に繁栄することは、決して神の繁栄ではありません。神は、あなたを屠殺される準備をするクリスマスのヤギのように、悪魔があなたを準備することを許しているだけであり、神があなたを裁く日は悲惨なものとなるでしょう(箴言28:14,29:1参照)。あなたが自分の正しさを求め始めるたびに、あなたは神の契約を破り、墮落した性質を持つアダムとイブのように行動していることになります。神とアダムとの間の契約は垂直的なものであったため、神はアダムが契約を破ったことに対し、地を呪い、アダムに食料を得るために地を耕させるという罰に加えて、死刑を宣告しました。

そして神はアダムに言われた。「お前は妻の言葉に従い、わたしが『食べてはならない』と命じた木から取って食べた。お前のゆえに土は呪われ、お前は一生、苦しみながら土から実を食べるであろう。お前は顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰るであろう。お前は土から取られたのだから。お前は塵から造られた者、塵に帰るのだ」(創世記3:17,19)。

アダム最大の問題は、妻の邪悪な助言に耳を傾けたことでした。もし彼が、妻の助言を拒絶して神を呪ったヨブのように、エバの助言を受け入れていなかったなら、神の栄光から墮落することはなく、人類がこのような苦しみを味わうこともなかったでしょう。これは多くの人々、特に神の聖職者たちにとって警告となるでしょう。女性の側では、神は契約を修正、あるいは更新することを決意されました。それは、彼女の肩に家庭を見守り、神の契約制度に彼女が招き入れた敵を永久に家庭から締め出す責任を負わせることでした。

わたしは、お前と女との間に、お前の子孫と女の子孫との間に敵意を置く。それはお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕くであろう。神は女に言われた。「わたしはあなたの苦しみとあなたの妊娠を大いに増やす。あなたは苦しみのうちに子を産む。あなたは夫を慕い、夫はあなたを支配するであろう」（創世記3:15-16）。

この言葉において、神は女性を人類の代表として用い、人類と新たな契約を結んだ。「この言葉、あるいは呪いが、アダムの墮落後に神が人類と結んだ契約であると言えるのか」と疑問に思う人もいるかもしれない。この疑問に答えるには、本書の第1章で私が述べた「すべての垂直的、あるいは神聖な契約には、記念として目に見えるしるしや象徴がある」という点に留意する必要がある。より明確な理解のために、神と男性アダムとの契約の象徴を見てみよう。

主なる神は言われた。「人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。」主なる神はアダムに深い眠りを与えられたので、彼は眠った。そして、主なる神はその肋骨の一つを取り、その肉をその場で閉じた。そして、主なる神は人から取った肋骨で一人の女を造り、人のところに連れて来た。アダムは言った。「これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉。彼女は人から取られたので、女と呼ばれる。」（創世記2:18, 22-23）

したがって、アダムの孤独を終わらせるために、助け手（すなわち女）を与えるという神の約束は象徴です。そして、これを可能にするために、神はヘブライ人への手紙9章17節に従って行動しました。

「遺言は人が死んだ後に効力を持つ。そうでなければ、遺言者が生きている間は全く効力を持たない。」

パウロの口を通して聖霊から語られたこの言葉によって、神はアダムに深い眠りをもたらさなければなりません。そしてアダムは眠りました。これは霊的に言えば、神がアダムを死なせたことを意味します。アダムが死んだ時、神は彼を骨と肉に満ちた完全な人間（今日のイエスです）に創造しただけでなく、その死を通して、アダムと神の契約の象徴としてエバが創造され、契約が有効になりました。したがって、女は男と神の契約の象徴です。そのため、アダムがエバの助けを借りて契約を破ったとき、神はエバの方を向いてこう言いました。「人類と私の新しい契約は、代表者としてあなたの肩に負わされています。あなたは悲しみながら、あなたと私の契約の象徴として、肉体的な子孫を生み出すでしょう。その子孫もまた、サタンの頭を砕くためにあなたを助けるでしょう。」したがって、女がサタンの頭を砕き、サタンに打ち勝ち、従わせ、支配するためには、神との新しい契約の象徴である子供たちを悲しみながら産み、必要なものをすべてを男性、つまり夫に完全に依存して与え、そして最後に、夫が彼女を支配し、支配しなければなりません。これらのことが行われるとき、霊的に神の言葉である女の子孫がサタンの頭を砕き、女は勝利するでしょう。いずれにせよ、神が人類と結ぶ新しい契約が、人類の代表である女性を通して結ばれることを、より明確に理解する方法は、ここにあります。

いつまで迷い歩くのか、背教の娘よ。主は地に新しいことを創造された。女が男を囲むようになるのだ。（エレミヤ書 31:22）

ここでの女性という言葉はヘブライ語で Cêbel であり、say/ -bel と発音され、荷、(比喩的に)負担、責任を意味します。一方、Chambers Dictionary によると、compass という言葉は、通り過ぎる、回る、取り囲む、囲む、把握する、理解する、もたらす、成し遂げる、達成する、得る、続ける、計画する、曲げる、曲げる、などの意味があります。これが言っているのは、霊的に妻だけではなく、女性的な男性、つまり男性の弱い部分、若い男性が、年長者または年長者の墮落の後、荷物の運搬者、重荷を担う者として霊的に責任を負う者として引き継ぎ、年長者を取り囲み、囲み、把握し、理解し、年長者の変化をもたらすのを助けるということです。彼女は神が人類の最初の創造物である年長者を用いて行わせようとしたこと、つまり最初に成し遂げる、達成する、得るために用いる者です。神は女との契約を終えると、ヘブライ人への手紙9章15~17節にあるように、その契約を非常に有効なものとするために、犠牲と血を流すことでそれを封印しました。おそらく2匹以上の動物を殺し、その血を使ってアダムとイブの罪を赦したのです(ヘブライ人への手紙9章15~17節参照)。

(ヘブライ9:22)

主なる神はアダムとその妻のために皮の着物を造り、彼らに着せられた。(創世記3:21)

神はこれらの動物の皮を用いて、アダムとエバの着物を作りました。これらの動物の血を流すことでアダムとエバの罪は赦され、彼らは主の前に義の身で立つことが可能となり、神との交わりの扉が再び開かれました。しかし今回は、エデンの園の外においてでした。神がアダムと結んだ最初の契約は、犠牲が捧げられなかったため、守ることができませんでした。

彼らがまだ栄光に生きていた頃、血によってそれを封印しました。これは、「長子は弟に仕える」という言葉が、人間の墮落後に神が人類との契約として制定したもので、弟が長子の重荷を担うことによって謙虚になることで、神は贖罪の後、長子を元の地位に復帰させるという意味です。

イエスが繰り返されたのも、まさにこのためです。「多くの最初の者は最後になり、最後の者は最初になる」(マタイ19:30、マルコ10:31)と。神の言葉を深く研究する人は、右手の油注ぎは常に弟に属することが分かります。肉体的、あるいは自然な出生により、これは兄に属するべきものですが、兄の墮落後に神が制定した契約、そしてその契約に根ざした養子縁組の法則により、この右手の油注ぎは弟に属するのです。神は妹を用いて兄の重荷を担わせ、兄を神の本来の計画へと導くのです。先ほど申し上げたように、神が若い、あるいは女性的なアダム(つまり女性)と結んだ契約の象徴的な原則は、男性と女性的なアダムの両方が善悪を知る木の禁断の果実を食べたことで敵に対して力と権威を失ったため、彼女が悲しいことに彼女に代わって戦う肉体的な子孫(つまり男の子)を生み出すというものです。

#### ノアとの神の契約

最初の物質的な地球が滅亡した後、ノアとその家族は、救われたすべての生き物と共に、新しい、あるいは現在の地球へとやって来ました。ノアは、自分と家族に対する神の愛と慈悲に感謝し、神を求め、神の臨在を身近に感じようと決意しました。そのために、ノアは主のために祭壇を築きました。

ノアは主のために祭壇を築き、あらゆる清い獣とあらゆる清い鳥を取って、祭壇の上で燔祭を捧げた。主は香ばしいかおりを嗅ぎ、心の中で言われた。「わたしは、人のゆえに、二度と地を呪わない。人の心に思い描くものは、幼い時から悪いからだ。わたしは、かつて行ったように、二度とすべての生き物を撃つことはしない」（創世記8:20-21）。

創世記6章1-7節で、神は人間が絶えず神に対して罪を犯してきたことを嘆いていました。そのため、神は「地をふやせ、満たせ」という御言葉を一度だけ無視しました。そして、人間が支配権を握ることを拒否したため、怒りに燃え、人間と神が創造したすべてのものをこの地球上から消し去ることを決意しました。人間はサタンとその手先の命令に従って生きることを選び、罪深い人間と罪深い生き物を地上に増やしました。しかし、神は無限の知恵と慈悲をもって、アダムを代表として、そして後にエバを通して人類と結ばれた契約が破られないようにされました。一人の男とその家族八人の魂は、神の掟に従って歩んだことで神の恵みを受けたのです。この行為に感謝し、ノアはこの祭壇を築き、動物と鳥の最良のものを取って、主に受け入れられる燔祭を捧げました。私はそれを受け入れられるものと呼びました。なぜなら、彼が犠牲に用いたものはすべて清く、血が流れていたからです。その血は彼らを新しい地へと導き、神がノアと結んだ契約への道を開くものでした。神は長い時を経て、初めて甘い香りを嗅ぎ、その家族と共に神に従うことを理解した男を見つけることができたことを大変喜ばれました。そしてこの理由から、神はノアを代表として、人類だけでなく、すべての生き物と契約を結ばれたのです。

わたしはあなたたちと契約を立てる。もはやすべての肉なる者は洪水によって滅ぼされることはなく、地を滅ぼす洪水はもはや起こらない。神はまた言われた。「これはわたしとあなたたち、そしてあなたたちと共にいるすべての生き物との間に、代々わたしが立てる契約のしるしである。わたしは雲の中ににじを置く。これはわたしと地との間の契約のしるしとなる。わたしが雲を地の上にもたらすとき、そのにじが雲の中に現れる。そしてわたしは、わたしとあなたたち、そしてすべて肉なるすべての生き物との間に立てたわたしの契約を思い起こす。水はもはやすべての肉なるものを滅ぼす洪水とはならない。にじが雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と地のすべての肉なるすべての生き物との間に立てた永遠の契約を思い起こそう。」（創世記9:11-16）

神は人類の代表であるノアとその家族のために、再び洪水で地球を滅ぼさないことを約束し、さらに人類をはじめとする生き物と契約関係を結ばれました。ノアを窓口として神とすべての生き物との間に結ばれたこの契約の主な目的は、主イエスを神の義として受け入れ、子孫を増やし、地を満たし、従わせ、完全な愛（すなわち神の言葉への即座の服従）によって悪魔を含むすべての生き物を支配することに同意した人類の救済の過程が進行する間、地球とすべての生き物の滅亡を一時停止するという神の命令でした。地球を満たし、それを従わせ、サタンを含む他の生き物を支配する人類の中のこのグループが、神が定め、贖われた数まで増殖するとすぐに、神の怒りが再び地球に注がれ、地球は破壊されるでしょう。

ですから、これは神がこの地球を住民の運命に委ねたと考えている人々への警告となるでしょう。いや、決してそうではありません。神の救済がもたらされると同時に、

勝利者として他のすべての被造物を支配するだけでなく、第二の天に昇り、サタンとその仲間たちをこの地上に打ち倒す男子集団。神の裁きは残された者たちに下される。ノアを接点として神がすべての被造物と結んだ契約の象徴は虹である。虹は、

神とその被造物の両方にとって、それは神が待っておられること、そして定められた時までにはどんなに雨や洪水が降っても地球は滅びないことを思い起こさせます。そして神にとって、それは、地を満たし、他の被造物を支配することによって地を従わせるために豊かに増えてきた者たちが完全に贖われるまで、地球は二度と滅びることはないことを思い起こさせます。

#### アブラハムとその子孫との神の契約

シリア人アブラハムは、妻サラ、父テラ、そして他の親族とともに、今日のイラクであるカルデアのウルに住んでいたが、神は彼を呼び、こう言われた。

あなたの国、あなたの親族、あなたの父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福の源となる。わたしはあなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者を呪う。地上のすべての民族は、あなたによって祝福されるであろう。(創世記12:1-3)

神はアブラハムに、父の家、親族、祖国を離れ、未知の地へ旅立つよう命じました。そして、アブラハムを大いなる国民とし、彼と彼の子孫を祝福し、彼の名を高めると約束されました。さらに神は、アブラハムとその子孫を祝福する者を祝福し、彼らを呪う者を呪うと約束されたように、アブラハムは神の祝福が世界の他の地域へと流れるための通路となると語られました。そして今、神は私たちに対して、父の家、親族、祖国の文化や伝統に関わるすべてのものから離れ、カナンという未知の地へ旅立たなければならぬと告げています。これは、これらの場所から完全に離れた後、あなたの器が神の言葉への謙遜、謙遜、低い地位、服従などの器として神に奉獻されることを意味します。そして、あなたが発したり、別れたりする時、あなたは神に従うことによって、神への忠実さを保ち、決して墮落することなく、神に従うでしょう。

あなたが捨て去った伝統や文化に戻りなさい。これらの基準を守ることによって、神はあなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者を呪い、そして神はあなたのすべての敵対者となられるのです。神が幻の中でアブラハムに現れ、神の約束を再確認させ、アブラハムが恐れを知らないよう促した時、彼はすぐに神に抗議しました。自分には子供がいないので、これが現実になるかどうか確信が持てないと。神は彼に、彼の子供たちが天の星のように数えられるので心配する必要はないと告げました。そしてアブラハムは神を信じ、それは彼の義とみなされました(創世記15:1-7)。神が彼をカルデアのウルから連れ出し、カナンを相続地として与えたことを思い出させたとき、アブラハムは疑い、「主なる神よ、私がそれを相続することを、どのようにして知ることができるでしょうか」と言いました(創世記15:8)。これを聞いた神は、「関係を強めよう」と言い、アブラハムに何を持ってくるべきか、何をすべきかを告げた。

三歳の雌牛一頭、三歳の雌やぎ一頭、三歳の雄羊一頭、山鳩一羽、若い鳩一羽を取りなさい。アブラムはこれらを皆取り、真ん中で分け、それぞれを互いに向かい合わせに置いた。しかし、鳥は分けなかった。鳥たちが死骸の上に降りてきたので、アブラムはそれを追い払った。日が沈むと、アブラムは深い眠りに落ち、見よ、大いなる暗闇の恐怖が彼を襲った。そしてアブラムに言った。「あなたの子孫は、彼らのものではない土地で寄留者となり、彼らに仕え、四百年の間苦しめられるであろう。また、彼らが仕えるその国民を、わたしは裁く。その後、彼らは多くの財産を持って出てくるであろう。」日が沈み、あたりが暗くなったとき、見よ、煙の出る炉と燃えるともしびが、それらの死骸の間を通り過ぎた。その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「わたしは、エジプトの川から大河ユーフラテス川に至るまでのこの地をあなたの子孫に与える」（創世記15:9-18）。

神が人間に対して行う最終的な約束は、契約にあります。言い換えれば、契約とは最終的で取り消し不可能な約束を意味します。一度結ばれた契約は、取り消すことも破棄することもできません。もし破った場合、契約を破った者は、神が定めた時に現れる死の宣告に直面します。神はアブラムとの契約を終えた後、もはや未来形では語られませんでした。つまり、「わたしはあなたに与える」と言うのをやめ、「わたしはあなたに与えた」と言うようになったのです。

創世記15章18節に見られるように、契約は最終的に、そして永遠に決着しました。これはまさに、パウロがユダヤ人に手紙を書いたときに説明していたことです。

人は確かに、より偉大なものによって誓う。そして、確証のための誓いは、彼らにとってすべての争いの終結となる。神は、約束の相続者たちに、その計画の不変性をさらに豊かに示したいと願って、誓いによってそれを確証された。それは、神が偽ることのできない二つの不変のものによって、私たちの前に置かれた希望をつかむために逃れてきた私たちに、強い慰めを与えるためである。私たちは、この希望を、魂の錨としてしっかりと持ち、幕の内側の錨に通している。（ヘブライ6:16-

19）。

争い、疑い、不信仰、不安、不貞への恐れは、契約の中にあります。一度契約が交わされ、確約されると、それは当事者にとって強い慰めとなり、常に頼れる錨（つまり、安定性、強さ、安心感を与えるもの）となります。神がアブラムと契約関係を結んだ方法を見ても、アブラムに犠牲の動物を殺し、それを二つに分けるように命じたのは神でしたが、創世記15章11節にあるように、死骸を食べに来る鳥（支配層や権力者、あるいはその他の悪霊）を追い払うのはアブラムの責任でした。確かに、犠牲として用いる動物を定めたのは神であり、契約が最終的に交わされるまでそれらをそのまましておくのはアブラムの仕事でした。キリスト教世界における私たちと同じように、神は契約関係を結ぶ器を選び、定めておられます。そして、ある者とは契約を結び、またある者とは契約を結ばれます。しかし、神と契約関係にある者は皆、悪魔に抵抗し、世とその体制から身を清く保つことで、悪魔を自分の人生から遠ざける義務があります。あの鳥や悪魔の鳥たちは、犠牲を止め、アブラムが収穫するのを妨げるために、死骸を食べに来たのです。

契約の恩恵を奪うこと。同様に、悪魔によって遣わされた、悪魔の鳥や君主や権力が、あなたの死体を食べようとするので、あなたが契約のあなた自身の部分を遂行したり守ったりするのを妨害していることを知っておくことは重要です（つまり、あなたをこの世のものに欲情させ、それによってキリストと共に苦しみ、あなたの意志を犠牲にすることを拒否させようとする）。この行為によって、あなたは私たちの主イエスの十字架上の犠牲によって与えられた恩恵を奪われるでしょう。何度疑い、不信仰、恐れに襲われても、神の言葉に従うことによって、あなたの体を犠牲として無傷に保つことは、あなたの義務です。アブラハムが成熟し、献身的な信者として経験したもう一つの非常に重要な霊的経験、そして彼の子孫である私たちが個々に経験しなければならない経験は、創世記15章12節に記されています。

そして日が沈むころ、アブラムは深い眠りに陥り、見よ、大いなる暗黒の恐怖が彼を襲った。

太陽が沈むことは、成熟したクリスチャンが霊的な暗闇の時期を経験する、霊的成長の過程に例えることができます。これは神の計画の一部です。なぜなら、それはあなたを謙虚にするだけでなく、あなたの霊的経験全体を豊かにするためだからです。聖書は17節でもう一つの神秘を明らかにしています。神の事柄において成熟したアブラハムが、激しい苦しみを象徴する煙を上げる炉を経験し、深い霊的な眠りに陥るのです。あなたの中には、この苦難の炉でしか消えることができない頑固な悪魔がいます。しかし、神がかつて、そして今もお支配しておられることを示す、一つ励みとなるものがあります。それは、燃えるランプです。

聖霊の臨在を象徴するこのランプは、あなたが激しい苦しみを乗り越える時、神がそれを許し、試練と精錬を経て、貴金属、あるいは尊い器として現れることを示しています。貴金属や尊い器は、試練、迫害、苦難などが象徴する激しい熱や燃焼なしには浄化されないことを心に留めておくことが重要です。

したがって、この苦難の炉の中でのあなたの反応があなたの最終的な運命を決定するでしょう。なぜなら、不名誉の器はそこ（苦難の炉）で知られるからです。なぜなら、彼らはたいていそこを去って逃げ去るからです。あなたがたがこの激しい苦しみを乗り越えて成功した後こそ、「わたしはあなたにこれとあれを与えた」とある18節が現実となるのです。私が言いたいのは、激しい苦しみの後に、神の言葉への従順が完全に保証され、契約関係の約束が実現し始めるということです。なぜなら、あなたがたの内にあるもみ殻や偶像が、貴重な装飾品や器に取って代わられたからです。先ほど述べたように、それぞれの契約には必ず象徴的なしるしがあり、アブラハムとの神の契約においては、それは包皮、つまり肉の割礼です。

これはわたしとあなたたち、またあなたの後の子孫との間に守るべきわたしの契約である。あなたたちのうちの男子は皆、割礼を受けなければならない。あなたたちはあなたの包皮の肉に割礼を受けなければならない。これはわたしとあなたたちとの間の契約のしるしとなる。あなたたちのうちの男子は皆、生後八日目に割礼を受けなければならない。代々、あなたの家に生まれた者、あるいはあなたの子孫でない外国人から金で買った者など、すべてあなたの子孫である者は、必ず割礼を受けなければならない。あなたの家に生まれた者、またあなたで買った者は、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は永遠の契約として、あなたたちの肉の中にあり、包皮の肉に割礼を受けていない無割礼の男子は、その魂を民から断ち切られる。彼はわたしの契約を破ったのである。（創世記9:10-14）

これは、神がアブラハムとその子孫（ユダヤ人であれ異邦人であれ）と結ばれた契約の象徴です。したがって、神がアブラハムと結ばれたこの契約のおかげで、世界のどこに住む人でも、包皮または肉にこの象徴を持つ人は、その祖先をアブラハムに遡ることができます。最後に、創世記17章23-27節に見られるように、これらの象徴は契約が締結された後に現れることを特筆に値します。

## 第3章

ヤコブとその息子たちがシケム人と結んだ契約と、イスラエル人がギベオン人と結んだ契約との関係。

私は何度も読んで、なぜ神はヨシュアとイスラエルの君たちが、ヒビ人として、いかなる契約も結ぶなど警告されていた民の一つであるギベオン人と契約を結んだ際に、欺かれることをお許しになったのかと疑問に思ってきました。ヨシュアが主の口から助言を求めなかったからだとする人もいますが、これには目には容易に捉えられないもっと深い意味があります。そして、聖霊なる主が私を通して解き明かそうとしているのは、まさにその奥義なのです。読者の皆様には、この謎が解き明かされるのを、あるいは理解しながら読み進めていただきたいと思います。

開ける。

パダン・アラムでヤコブとその息子たちがエサウとその息子たちと会い、ヤコブがエサウに取って代わったことで長年連絡が取れなくなっていた相違を和解させた後、ヤコブはカナン地のシケムの町シャレムに来て、ハモルの子孫から畑の一区画を持ち帰り、そこに自分と家族のためのテントと神のための祭壇を建てた。

ヤコブはパダン・アラムからカナン地にあるシケムの町シャレムに着き、町の前に天幕を張った。そして、天幕を張っていた畑の一区画を、シケムの父ハモルの子らから百シケルで買い取った。そしてそこに祭壇を築き、それをエル・エロヘイスラエルと名付けた（創世記33:18-20）。

この聖書をよく見ると、ヤコブが自分が何者であるかを非常に自覚していたことがわかります。

ヤコブは神との契約関係にあることを知っており、自分も息子たちもその契約の象徴である包皮の割礼を受けており、このため、彼らは常に無割礼者から隔離されるべきだと知っていました。そのため、彼は町（野営地またはシステム）ではなく、野原（分離またはシオンの象徴）に土地を購入しました。彼は自分の天幕または家を持ち、野原に主の家を建てました。これは、神がアブラハムを召し、後に彼とその子孫と契約を結んだ際に、アブラハムとその子孫に要求された分離を続けることで、神との契約を守る意志を示したためです。この章で後に明かされるもう一つの謎は、ヤコブがハモルの子孫から畑の区画を百シケルで買ったことです。さて、神の算数における100は選民であり、これによって神はイスラエルの子孫が神によって土地を相続するよう選ばれただけでなく、シケムの人々もアブラハムの子孫、すなわち種となり、後に彼らが受けた割礼を通して神の子となることで、彼ら（イスラエルの子孫）と共にその地に住むよう神によって選ばれた、あるいは神によって選ばれたことを意味しました。この章で見ると、土地の購入は彼らも奴隷、すなわち奴隷として神によって買い取られたことを示しています。主がヤコブの子孫にシケムの人々とのこの接触を許したのは、当時シャレムと呼ばれていたエルサレム、そしてシケムの地が、地上における神の本拠地となることを主が定めたからです。主は計画していた、あるいは計画していなかったにもかかわらず、

神はアブラハムの子孫にその土地を与える約束されましたが、それは強制によるものではなく、イスラエル人とシケム人を一つにするだけでなく、一緒になって、その土地を継承すると約束されたアブラハムの子孫となるようにするという神の心の中での決意によるものでした。

レアがヤコブに産んだ娘ディナは、その地の娘たちに会いに出かけた。ヒビ人ハモルの子で、その地の君主であったシケムは彼女を見て、彼女をめとり、彼女と寝て、彼女を汚した。シケムはヤコブの娘ディナに心を奪われ、その娘を愛し、優しく話しかけた。

シケムは父ハモルに言った。「この娘を妻に迎え入れなさい。」ヤコブはハモルが娘ディナを汚したことを聞いた。息子たちは家畜と共に野にいたが、ヤコブは彼らが来るまで黙っていた。(創世記34:1-5)

シケムの父ハモルはヒビ人でしたが、シケムという国の王でした。それで、その国の君主でハモルの息子であるシケムは、ヤコブの娘ディナが野原にある父の天幕から出て、その地の娘たちと会うのを見て、彼女を捕らえ、寝て汚しました。ここで「捕らえた」という言葉は、ヘブライ語で「Lâqach」で、発音は「LAW-KAKH」で、取る、受け入れる、持ってくる、買う、持ち去る、引っぱって行く、取って来る、得る、包み込む、などの意味があります。聖書のこの部分の「捕らえた」という言葉の意味を詳しく見ると、シケムとディナの間で起こったことは力によるものではなく、双方の情欲と誘惑の行為であり、したがって強姦とはみなされることがわかります。ヤコブとその家族は野に住んでいましたが、シケムとその父は、その地の住民と共に町に住んでいました。もしディナが町の生活や町の人々に欲情することなく、自分たちの分離を守っていたら、王子シケムは彼女が欲情するのを目にすることも、彼女を汚すことを口にするということもなかったでしょう。これは、シオンで主のもとに分けられた残りの者たちにとって、陣営や体制の中にいる者たちの生活を欲情したり、体制に戻ろうとしたりしてはならないという、真剣な警告となるはずですが、なぜでしょうか。

もしそうするならば、あなたはこの世の君主とその手先によって、ディナのように汚され、処女、つまり貞潔を失うことになるでしょう。いずれにせよ、シケムは彼女と結婚するつもりでした。3節から4節には、彼の魂がディナに執着し（つまり、くっついたり、固執したり、結びついたりして）、シケムは彼女を愛し、優しく語りかけたことと記されています。つまり、彼の意図は単に彼女と一緒にいて汚すことではなく、この行為の前に二人の間に結婚の契約がなかったため、シケムはヤコブとその子供たちの怒りを招いたのです。彼らは、シケムが妹を汚すという忌まわしい行為を犯したと信じていました。

ハモルは彼らに言った。「我が子シケムはあなたたちの娘を恋しがっています。どうか彼女を妻に与えてください。あなたたちは我々と結婚し、あなたたちの娘たちを我々に与え、我々の娘たちをあなたたちと迎え入れてください。あなたたちは我々と共に住み、その地はあなたたちの前にあります。そこに住み、商売をし、財産を得てください。」

(創世記34:8-10)

これは、ハモルとその息子たちがこの結婚をどれほど望んでいたかをさらに証明するかもしれない。彼らは、この結婚がヤコブとその息子たちに受け入れられれば、イスラエル人との結婚や国際関係の扉が開かれ、両国が経済を活性化すると信じていたのだ。

彼らは貿易関係から大きな利益を得て大きな財産を持ち、同じ土地で共に暮らすことができるでしょう。

ヤコブの子らは、シケムとその父ハモルに偽って答えた。それは、彼が彼らの妹ディナを汚したからである。彼らは言った。「我々は、割礼を受けていない者（我々と我々の神との契約に基づかない者）に我々の妹を与えることはできません。それは我々への恥辱です。しかし、我々は次のことに同意します。もし我々と同じように、お前たちの男子が皆割礼を受けるならば、我々は娘をお前たちに与え、お前たちの娘を我々に迎え、我々はお前たちと共に住み、我々は一つの民となるでしょう。しかし、もしお前たちが我々の言うことを聞いて割礼を受けないなら、我々は娘を連れて出て行きます。」彼らの言葉はハモルとハモルの子シケムの気に入った（創世記 34:13-18）。

「あなたたちも私たちのようになり、すべての男性は割礼を受けなさい」という記述は、もしシケムの人々が、神がアブラハムと結んだ契約（その象徴は割礼）を通して、ヤコブとその息子たちが神と結んだのと同じ契約に入ることに同意するならば、彼らは結婚し、共に住み、一つの民族となるであろうことを示しています。

ハモルとその子シケムは、町の門から出る者すべてに従順に従った。町の門から出るすべての男子は割礼を受けた（24節）。

「すべての男子は割礼を受け、町の門から出る者は皆割礼を受けた」というこの一文は、すべての男子が自らの土地の法律に反したことを意味します。つまり、彼らは割礼に同意することで、自らの慣習に反して歩んだのです。しかし、ハモルとその息子シケム、そして他の指導者たち、そしてシケムの町のすべての人々が、ヤコブの息子たちが彼らに提示した条件に同意したことで、それは神の計画と目的を成就するための神の行為でした。最終的に彼らが割礼を受けたとき、創世記17章9-13節に見られるように、神がアブラハムと結んだのと同じ契約に彼らも加わり、この過程を通してヤコブとその息子たちと同様にアブラハムの子孫となりました。シケムの人々は、自らの慣習を捨て、神の意志と基準に従うことで、イスラエル人と共に暮らし、結婚し、一つの民となるはずでした。しかし、ヤコブの二人の息子、シメオンとレビはこの希望を打ち砕き、自分たちの行動を制御できなくなったため、神が定めた目的を阻止できると考えました。

そして三日目に、彼ら（シケムの人々）が（割礼のせいで）傷ついたとき、ヤコブの二人の息子、ディナの兄弟シメオンとレビは、それぞれ剣を取り、大胆に町に攻め込み、すべての男たちを殺した。そして彼らはハモルとその息子シケムを剣の刃で殺し、ディナをシケムの家から連れ出して出て行った。ヤコブの息子たちは殺された者たちを襲い、町を略奪した。彼らが姉妹を汚したからである。彼らは羊、牛、馬を奪い、

彼らはろばや畑にあるもの、また彼らの財産や幼子や妻をことごとく捕虜にし、家の中にあったものもすべて奪い取った（25-29節）。

シメオンとレビは、契約の意味するところを知らず、激怒したため、剣を持って町に入り、割礼を受けた後も皮膚に腫れ物が残っていたシケムの男たちを皆殺しにし、妹のディナをシケムの家から連れ出した後、町を略奪しました。彼らはまた、町を略奪し、彼ら（シケム人）の羊、牛、ロバ、すべての財産、子供たち、妻たちを奪っていきました。彼らの父ヤコブは、子供たちが娘ディナとハモルの子シケムとの結婚の契約、そして彼らとシケムの人々との間の統一の契約を破ったことに激怒しただけでなく、子供たちのこの行為によってシケム周辺に住む他の国々が戦争を起こすことを恐れました。ヤコブと子供たちはベテルに移り住み、神によって救われましたが、シメオンとレビの行いに対してヤコブは苦しみ続けました。そして、神によってイスラエルと名付けられた老人ヤコブが、死を前に息子たちに最後の祝福と指示を告げていたとき、神はその無限の知恵で、彼（ヤコブ）を用いて、神の契約と兄弟愛を破ったシメオンとレビに呪いをかけました。

シメオンとレビは兄弟だ。彼らの住まいには残虐な道具が横たわっている。わが魂よ、彼らの隠れた場所には近寄るな。わが名誉よ、彼らの集会に加わるな。彼らは怒りに任せて人を殺し、我が意のままに城壁を掘り崩したのだ。

彼らの怒りは激しく、彼らの憤りは残酷であったから、呪われよ。わたしは彼らをヤコブの中に分裂させ、イスラエルの中に散らす。(創世記49:5-7)

私は「わたしは彼らをヤコブに分け、イスラエルに散らす」という箇所の下線を引くことにしました。これは、この文の霊的な意味を明らかにするためです。ヤコブとは追い払う者を意味し、「追い払う」とは、追い出す、取って代わる、奪って取って代わる、打倒する、倒す、根こそぎにするという意味です。一方、イスラエルとは、神と共に、あるいは神として支配する、神と共に、あるいは神に仕えるという意味です。つまり、これは神が彼らを分割するために、彼らの分与や相続財産を、打ち倒したり、追い払ったり、奪ったり、あるいは他の部族に彼らの地位を譲ることを意味します。

そして彼らをイスラエルに散らすということは、彼らが神と共に統治し、キリストの兵士となるためには、世界中に散らされなければならないことを意味します。

この預言がどのように成就したかを説明するために、イスラエルの長男ルベンの生涯で起きた出来事をもう一度振り返ってみましょう。

イスラエルがその地に住んでいたとき、ルベンは父の妻ビルハと寝た。イスラエルはそれを聞いた。(創世記35:22)

ルベンは、ラケルの侍女でヤコブの側室であったビルハと寝るという忌まわしい行為によって、父に対してだけでなく神に対しても罪を犯し、そのために長子として当然の権利である二倍の権利を失いました。

ルベンよ、あなたはわたしの長子、わたしの力、わたしの強さの初め、尊厳の卓越、力の卓越である。水のように不安定なあなたは卓越することはできない。あなたはあなたの父の寝床に上って、それを汚したからだ。父はわたしの寝床に上って行った。(創世記49:3-4)

これは、年老いた父ルベンが、父の妾と寝たために宣告した呪いでした。王権と祭司職の地位、すなわち二倍の権利は、正当な権利者ルベンがそれを失ったため、次男シメオンが自動的にそれを得るはずでした。しかし、イスラエル人とシェケム人との間の統一の契約を破ったとして、父が彼ら（シメオンとレビ）にかけた呪いのせいで、シメオンもそれを失いました。三男レビは祭司職を得、四男ユダは王権を得ました。レビにも呪いがなかったら、レビは王権と祭司職の二倍の権利を得ていたでしょうが、創世記49章6節で父イスラエルが、「わが魂よ、彼らの隠れた場所、彼らの集會に、近づいてはならない。わが名誉よ、あなたは一つになつてはならない」と言っていたので、レビは祭司職という、より少ない権利しか得られませんでした。

彼は、自分の靈魂が彼らの集會に留まることを望まず、また、自分の栄光（すなわちユダ族の獅子、主イエス）が彼らの住まいから来ることも望まなかった。王権は祭司職よりも優先されるべきであるにもかかわらず、神はそれを逆転させたという点に注目すべきである。

先ほど述べたように、シメオンは王となるはずでしたが、レビは祭司職を受けるはずでした。ルベンの罰の後、神がシメオンを処罰しなかったため、王位はレビに次ぐ地位、つまり年長者として与えられるはずでした。しかし、彼もまたユダに王位を奪われ、ユダが王位を受け継ぎ、兄レビはより低い位の祭司職を得ました。そしてまた、彼の祭司職は永遠に続くものではなく、旧約聖書、つまり契約によって終わりを迎えました。いずれにせよ、本来の分を失ったシメオンは自身の相続財産を受け取りましたが、祭司として分を受けたレビは、主が彼らの相続財産となったため、兄弟たちのような相続財産は受けませんでした。これは、主が次のように言われた聖書の言葉によって証明されています。

祭司であるレビ人とレビ族のすべては、イスラエルと共に、いかなる相続地も受け継ぐ土地も持たない。彼らは主の火による供え物と、主の相続地を食べる。それゆえ、彼らは兄弟たちの間で相続地を持たない。主が彼らに言われたとおり、主が彼らの相続地である。（申命記18:1-2）

これは、神の契約を破ったために父から残酷な道具と呼ばれたヤコブ（イスラエル）のこの二人の息子に対する神の復讐の始まりであった。ヤコブの息子たちが拒んだこと、すなわちヒビ人であるシェケムの人々と共に住み、結婚して彼らと一つの民族となること、また当時割礼を受けたすべての男子を滅ぼすことであったことを、契約を守る神は実行した。まず神は、シナイ山でイスラエルの子らと契約を結んだ後、祭司の王国、聖なる国民として、どのように彼らを約束の地に導くかという計画を描いた。この計画は彼らを導く天使に引き継がれ、天使は彼らが従うべき厳しい指示や警告を与えた。その警告とは、「見よ、わたしはあなたの前に天使を遣わして、あなたを道で守り、わたしの備えた場所にあなたを導き入れる」というものであった。

彼を警戒し、その声に聞き従い、彼を怒らせてはならない。彼はあなたの罪を赦さないであろう。わたしの名は彼の中にあるからである。しかし、もしあなたが彼の声に聞き従い、わたしの言うことをすべて行なうならば、わたしはあなたの敵対者たちの敵となるであろう。わたしの使いがあなたの前に進み出て、あなたをアモリ人、ヘテ人、パリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところへ連れて行き、わたしは彼らを滅ぼすであろう。あなたは彼らの神々にひれ伏したり、仕えたり、彼らの行いに従ってはならない。あなたは彼らを完全に打ち倒し、彼らの像を完全に打ち砕かなければならない。わたしはあなたの前にスズメバチを送り、ヒビ人、カナン人、ヘテ人をあなたの前から追い払うであろう。

彼らとも、また彼らの神々とも、契約を結んではならない。彼らはあなたの土地に住んではならない。彼らがわたしに対して罪を犯させる恐れがあるからである。もしあなたが彼らの神々に仕えるなら、それは必ずあなたにとって罠となるであろう。（出エジプト記23:19-24, 28, 32-33）

そして、この指示から、神はイスラエルの民が、ここに記されているすべての国々（アモリ人、ヘテ人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人）と、そして彼らが占領しようとしていた土地の周囲の国々と、いかなる契約も結ぶことを望まなかったことが非常に明確になりました。一方、創世記34章29節でヤコブの息子たちに捕虜にされたシケムの子供たちや妻たちは成長し、イスラエル人と結婚し、増殖して一つの民族となり、ヒビの地にあるギベオンという丘陵都市に定住しました。彼らはギベオン人と呼ばれることを選びました。これらすべては、神が契約という神祕の言葉の中に新たなドラマを展開させようとしたのです。神の僕モーセがモアブの地でイスラエルに呼びかけ、死を前に神の最後の指示を伝えた時、モーセは預言的に彼らの陣営に薪を割り、水を汲む異邦人が現れることを告げました。「彼の言うことを聞きなさい。」

---

それゆえ、この契約の言葉を守り、これを実行しなさい。そうすれば、あなたがたの行うすべてのことにおいて繁栄が得られるであろう。あなたがたは今日、あなたがたの神、主の前に、部族の長老たち、長老たち、そしてすべてのイスラエルの人々と共に立っている。あなたがたの幼子、妻たち、そして宿営地にいる寄留者、たぎぎを切る者から水を汲む者まで、皆が共にいる。（申命記29:9-11）

モーセの死後、イスラエルはモーセの命令に従って司令官ヨシュアに率いられた。ギベオンの住民ヒビ人は、神の命令を曲げることなく、アイを滅ぼすまで征服を続けました。周囲の諸国は皆恐怖に襲われ、彼ら（つまり、それらの諸国）はサタンに動かされ、すぐにイスラエルと戦う同盟を結成しました。一方、ギベオンの住民ヒビ人は、ギベオン人の祖先がシケム人と呼んだ契約（イスラエル人と交わり、シメオンとレビによって破られた契約）を実現しようと決意した神に感化され、ヤコブの子らが彼らの祖先（ハモル、シケム、そして割礼を受けたすべての男子）を滅ぼしたのと同じ巧妙な方法で、ヨシュアとイスラエルの君たちを欺きました。イスラエル軍の指揮官であった熱心すぎるヨシュアは、エリコとアイの征服によって到達したと考え、主の口から助言を求めることを怠り、大祭司を通して神が何を言っているのかを求める代わりに、ギベオン人を信頼することで自分の理解に頼ることを選択し、最終的に神の言葉に反して彼らと同盟を結びました。ここに見られるように。

ギベオンの住民は、ヨシュアがエリコとアイに対して行ったことを聞くと、策略を巡らし、まるで使節のように振る舞い、古い袋をロバに背負わせ、古くて破れて縛られた酒瓶を背負い、古い履物を足に巻き、古い衣服を着せた。食料のパンは皆、乾いてカビが生えていた。そこで彼らはギルガルの陣営にいるヨシュアのもとに行き、彼とイスラエルの人々に言った。「私たちは遠い国から来ました。それで今、

我々と契約を結びなさい。」イスラエルの人々はヒビ人に言った。「もしかしてあなたがたが我々の中に住んでいるのなら、どうして我々があなたがたと契約を結ぶことができましょうか。」彼らはヨシュアに言った。「我々はあなたのしもべです。」ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたはだれですか。どこからきたのですか。」彼らは彼に言った。「しもべたちは、彼らの神である主の名のゆえに、はるか遠い国からまいりました。我々は主の名と、主がエジプトで行われたすべてのことを聞いています。」人々（すなわちイスラエルの君たち）は食物を取り、主の口から助言を求めなかった。そこでヨシュアは彼らと和平を結び、彼らを生かしておくために契約を結び、会衆の君たちも彼らに誓った。彼らが契約を結んで三日後、彼らは彼らが隣人であり、自分たちの中に住んでいることを聞いた。われわれは彼らにこのようにする。われわれが彼らに立てた誓いのゆえに、怒りがわれわれに臨まないように、彼らを生かしておこう。

---

首長たちは彼らに言った。「彼らを生かしておきなさい。ただし、首長たちが約束したとおり、全会衆のために、たきぎを切り、水をくむ者としなければならない。」ヨシュアはその日、主が選ぶ神殿で、彼らを会衆と主の祭壇のために、たきぎを切り、水をくむ者とした。これは今日まで続いている。

(ヨシュア記9:3-9, 14-16, 20-21, 27)。

聖書のこの部分を注意深く研究すると、契約を守る神が実際に行動していたことが分かります。捕虜に導く者は捕虜にされ、剣で殺す者は剣で殺されると言われています。シメオンとレビに率いられたヤコブの子らは、狡猾な策略によってシェケム人を滅ぼし、神との契約を破っただけでなく、捕虜として殺された人々の子供たちや妻たちをも連れて行きました。同様に、神はシェケム人の子孫であるギベオン人に靈感を与え、ヨシュアとイスラエルの君主たちを欺いて破られた契約を更新させ、彼ら自身（ギベオン人）をイスラエル国家と神との約束の契約に再び組み込ませました。ご覧の通り、彼らは遠国から来た大使であり、ヨシュアとその一行の征服を祝福するために来たと偽って、これを行いました。しかしその過程で、彼らはイスラエルの義人たちの心を惑わす贈り物で巧妙に誘惑し、神の戒めに反して彼らと同盟、あるいは契約を結ばせました。贈り物で誘惑されたヨシュアとイスラエルの君たちは、少し尋問した後、彼らの申し出に同意し、彼らを殺さずに生かすという契約を結びました。復活の数字である三日後、隠されていた真実が明らかになり、イスラエルの人々は、実際にはギベオンに住んでいたヒビ人と契約を結んだことで神に背いていたことを知りました（ヨシュア記 11:19参照）。ギベオン人は、真実が明らかにされた時、滅ぼされることを免れるために奴隷にしてほしいと懇願しました。ヨシュア率いるイスラエルの君たちは、ギベオン人を殺せよという会衆からの圧力に抵抗した後、モーセの預言を成就するため、ギベオン人をイスラエルの会衆と神の家のために薪を割り、水を汲む者となるよう呪いました。先ほど述べたように、ヤコブの子らはヒビ人であったシェケムの人々を殺した際、彼らの子供と妻は残しておき、捕虜にしていました（創世記1:14）。

---

(34:29)ですから、もう一度思い出してください。この若者たちが成長し、結婚し、後にギベオンに住むヒビ人、通称ギベオン人となったのです。つまり、これは、当時シェケム人と呼ばれていた彼らの先祖がヤコブとその息子たちと結んだ契約の更新だったのです。

シメオンとレビが契約を破ったため、彼ら（ギベオン人）はヤコブの子孫であるだけでなく、シメオン、レビ、そして他の族長たちの子孫でもあるイスラエル人の中に新たに加わった。また、シメオンとレビがシケム人がヤコブとその息子たちと結ぼうとした最初の契約を阻止することを神が許されたことも特筆に値する。なぜなら、シケム人は契約後、彼ら（ヤコブとその息子たち）を奴隷にしようと密かに計画していたからである（参照：シメオンとレビ）。

創世記34:23) 神はアブラハムに、彼の子孫は後に裁かれるエジプト以外の奴隷とならず、その敵の城門を占領する者となると誓っておられたので、シメオンとレビがシケム人を殺し、イスラエル人を奴隷化するという彼らの邪悪な計画を阻止することをお許しになりました。驚くべきことに、神は戒めを守っている契約の民が不信者の奴隷になることを許されません。そのためヨシュアの時代に、神はシケム人（当時はギベオン人として知られていました）に靈感を与え、イスラエルと同盟を結び、彼らを永遠に奴隷とするようにされました。これは当然のことです。ヨシュアがギベオン人に宣告した呪い（ヨシュア記9:23参照）は神の行為であり、またヤコブがシメオンとレビにかけた、彼らがヤコブの中で分裂するという呪いの延長でもありました。この契約を結んだ瞬間から、イスラエルは彼らのために戦い、彼らの幸福を願う責任と義務を負うようになりました（ヨシュア記10:1-終章参照）。ギベオン人とこの契約関係を結んだヨシュアとすべてのイスラエル人への罰は、彼らが最終的に占領した土地の住民全員を追い出すという神の御使いの命令を拒否することでした（士師記2:1-8）。ずっと後になって、イスラエルの子らは会見の幕屋（外庭）をギベオンに張り、聖所と至聖所を備えたダビデの幕屋はシオンに建てられ、守られました。しかし、それ以前に、この書物のすべての読者が学ぶべき重要な教訓があります。それは、契約など取るに足らないものだと考えて決して破らないように注意することです。ダビデがイスラエルの王として即位する前に、当時の王サウルは、熱心すぎるあまり、ギベオン人の多くと戦って殺し、それによって再び神の契約を破りました（サムエル記下21:1-

2) サウル、ヨナタン、そして多くの軍勢が死に、ダビデが王位に就くと、神はイスラエルの地に三年間飢饉をもたらしました。ダビデは主の御前に祈り求めました。飢饉の原因を知ると、彼は自らのために、そしてイスラエル全体のために悔い改め、ギベオン人を呼び寄せ、彼らがイスラエルのために祈り、祝福を与え、イスラエルの長く苦しい苦難を終わらせるために何ができるかを尋ねました。彼らの願いを見てください。

---

そこでダビデはギベオン人に言った。「あなたたちのために何をすればよいのか。また、主の嗣業を祝福するために、どのような償いをすればよいのか。」ギベオン人は彼に言った。「サウルとその家の銀や金は受け取りません。イスラエルの人を殺してはなりません。」彼は言った。「あなたたちが言うとおりにしましょう。」

---

あなたたちに何をなさるか。」彼らは、我々を滅ぼし、イスラエルの領土のいづれにも留まることを許さないと企てた王に答えた。「王の息子七人を我々に引き渡せ。サウルのギブアで主の前に吊るして処刑しよう。主が選ばれた者を。王はこう言った。『私は彼らを差し出す。』（サムエル記下21:3-6)。

---

サウルは自分の行いが暴露される前に死んでいたにもかかわらず、神はダビデを王に立て、ギベオン人の願いを聞き入れさせました。その願いとは、サウルの家族の中から7人を彼らに与え、ギブアで主に吊るすというものでした。これは、サウルが破った契約のせいでイスラエルに起こる飢きんの災いを止めるための唯一の条件でした。サウルは王としてイスラエル全体の長であり、ギベオン人との契約はイスラエル全体と結ばれたものであったため、真実が暴露され、対処されるまで、全国民が3年間の飢きんの罰という代償を払ったのです。したがって、イスラエル人とギベオン人とのこの統一の契約を破ったイスラエルの民は、神に赦される前に、自分たちが奴隷とみなしている人々に祈りと祝福を頼らなければなりません。誰かとの契約を破ったなら、その人のもとに戻って悔い改め、その人があなたのために祈ってくれる以外に、癒される道はありません。そうすれば、あなたは癒され、回復されるでしょう。これは、契約を何とも思わない多くの信者、未信者を問わず、目を覚まさせるもの、あるいは抑止力となるはずですが、少し立ち止まって、神と、あるいは信者であろうと未信者であろうと、誰とでも交わした契約を破ってしまったかどうかを振り返ってみてください。なぜなら、それがあなたの問題の一因となっているからです。多くの家族が、家長であった父、祖父、あるいは曾祖父が生前に交わし、破った契約のせいで、先祖代々の問題を抱えています。これらの契約は、新しい世代の家族にも影響を与え始めており、生きている者たちがその代償を払っているのです。ですから、救われるためには、主イエス・キリストと新しい契約を交わす必要があります。主は、先祖の呪いや罰からあなたを守ってください。

ダビデは、サウルの犯した罪の繰り返しを避けるため、死去する前に、ヤコブにおけるレビの分裂の呪いを成就させるために神に用いられました。ダビデはレビの息子たちを分け、当時ギベオンにあった会見の幕屋と、シオンにあったダビデの幕屋の両方で彼らに職務を与えたのです（歴代誌上 23:6-32 参照）。彼（ダビデ）はさらに、アロンの残りの二人の息子、エレアザルとイタマルに祭司職を分けました。父アロンの死後、大祭司となったエレアザルは、その血統から16人の祭司を選び、シオンにあった聖所で奉仕させました。一方、イタマルは、その血統から8人の祭司を選び、会見の幕屋で、契約関係を拒否したギベオン人だけでなく、他の寄留者たちのためにも奉仕させました（歴代誌上 24:1-31 参照）。会見の幕屋で神の奉仕者であったレビの子らは、ギベオン人や他の異邦人への教えと説教を通して、肉体と心の割礼（すなわち、水と聖霊のバプテスマ）を通して、悔い改めと回心によって神の子となること、奇跡、癒し、解放などを行いました。そして、ヤコブとヨシュアの呪いを成就するために、薪を切り、水を汲む者にもなりました。そして、キリストの兵士として、彼らは世界中（すなわち、イスラエル、ギベオン、そして世界の他の地域）に散らされ、人々に悔い改めと回心（水と聖霊のバプテスマを含む）、癒し、解放、奇跡などについて説教し、教えしました。驚くべきことに、

聖所で奉仕する者はまさにキリストのようになるでしょう。なぜなら、16 は神の算術において愛を表す数字であり、キリストは地上における神の愛の顕現だからです。

8 という数字は新たな誕生、あるいは新たな世代を意味し、ソロモンが統治時代に神殿の建設を終えたときに両方の幕屋を結合したのと同じように、新しい地球では神が 2 人の祭司を結合して 24 人の長老として 1 人になることを意味します。

## 第4章

### 神によって保護された、あるいは罰せられたいくつかの人間のまたは水平的な契約

チェンバース辞典によると、人間的とは、人間または人類に属する、人間または人類に関係する、または人間または人類の性質を持つ、人の資質または人々の限界を持つ、人間的である、不公平に優れていない、温厚な、親切な、人間的である、という意味です。私が本当にお話ししたいのは、人間に関する契約（つまり、個人と個人の間、または人々のグループと別のグループの間で締結される契約で、神が破られないように保護するか、破られた場合には罰を与えるもの）についてです。契約についてお話しする場合、イスラエル人の父であり、世界中の神の忠実な子供たちの父でもあるアブラハムを常に思い浮かべる必要があります。なぜなら、アブラハムが試練を受け、証明された後、聖霊が使徒パウロを通して彼について次のように言われたからです。「それゆえ、それは信仰によるのです。それは恵みによるのです。そして、約束がすべての子孫に確実に与えられるためです。律法によるものだけでなく、私たちすべての父であるアブラハムの信仰によるものにも確実に与えられるためです」（ローマ4:16）。

これにより、律法に従う者であれ、信仰に従う者であれ、契約の民の肉体的な父はアブラハムである可能性が高まります。

#### アブラハムとアビメレクとの契約

イサクが生まれる前に、アブラハムと彼の家族（サラ、ハガル、イシュマエル（彼はすでにその前に生まれていたので）と彼のすべての召使い）はゲラルに滞在するために行きました。

そして、彼がサラにエジプトの王ファラオに嘘をつくように言った時のやり方と同じように、

彼は妻サラのことをゲラルの王アビメレクに、「彼女は私の妹です」と言った。ゲラルの王アビメレクは人をやってサラをめぐらした。しかし神は夜の夢でアビメレクに臨んで言われた、「見よ、あなたは、あなたがめとった女のゆえに、死んでも同然だ。彼女は人の妻なのだから」。しかしアビメレクは彼女に近づけなかったと言った、「主よ、あなたは正しい国民をも殺されるのですか。主は私に、『彼女は私の妹です』とおっしゃったではありませんか。彼女自身、『彼は私の兄弟です』とおっしゃったのです。私は心が清く、手も潔白なので、このことをしたのです」。すると神は夢で彼に言われた、「わたしは、あなたが心が清く、あなたが私に対して罪を犯さないようにしたから、あなたが彼女に触れるのを許さなかったのだ。それゆえ、今、その人を妻に返さない」。彼は預言者ですから、あなたのために祈ってくださいれば、あなたは生きるでしょう。もし彼女を返さないなら、あなたも、あなたのすべてのものも、必ず死ぬことを知りなさい。（創世記20:2-7）

これがアブラハムとアビメレクの出会いの始まりでした。神はこの過程を通して、アブラハムとその家族の人生におけるご自身の存在を示し、またアビメレク王に、彼が神の預言者と対話していることを告げました。アビメレクへの神の命令によって、アブラハムはアビメレクにとって神とされたことが明確に示されます。彼ら（すなわちアビメレクとその家族）は、生きることを癒されることをアブラハムの祈りに頼っていたからです。

アビメレクは羊、牛、男奴隷、女奴隷を取ってアブラハムに与え、妻サラを返した。アビメレクは言った。「見よ、私の土地はあなたの前にあります。あなたの好きな場所に住んでください。」サラには言った。「見よ、私は

「あなたの弟に銀千枚を与えなさい。見よ、彼はあなたにとって、そしてあなたと共にいるすべての人々、そして他のすべての人々にとって、目を覆うものなのです。」こうして彼女は戒められた。アブラハムは神に祈った。神はアビメレクとその妻と女奴隷たちを癒された。彼らは子供を産んだ。主はアブラハムの妻サラのせいで、アビメレク家のすべての胎を固く閉ざしておられたからである（創世記20:14-18）。

神が夢の中でアビメレクに警告した後、彼は相手が普通の人間ではないことが明らかになりました。そのため、アブラハムとその家族を喜ばせるためにあらゆることを始めました。そうすることで、神の恵みと祝福が得られると考えたからです。まず、神はアブラハムに羊、牛、男女の奴隷を与え、彼とその家族には、アブラハムが望む土地のどこにでも住むように言いました。サラもまた、アブラハムに返還されたにもかかわらず、銀千枚を受け取りました。その見返りとして、アビメレクとその家族は、アブラハムの祈りを通して神の祝福を受けました。妻と女奴隷たちは不妊症を治され、子供を産んだのです。現代社会には、自分たちが問題の原因になっていることに気づいていない人が大勢います。神の油注がれた僕たちに対してあなたが発する言葉、彼らに対して心に抱く邪悪な考え、そして職場、家、仕事場、学校、道路、市場、裁判所などで彼らを扱う方法は、あなたの問題に大きく影響します。ほとんどの人々、特にオカルト団体や協会に属する人々は、主イエスの福音を説く牧師の話聞き、見ることを嫌がり、正教会の司祭は大多数が同じ団体と繋がりを持っているため、彼らは受け入れることができますが、ペンテコステ派教会の司祭は、あまりにも大きく成長し、神の意志から外れ、正教会や司祭の行いのほぼ90%を実践している場合を除き、受け入れることは難しいのです。主イエスご自身が、これらの拒絶された弟子たち、あるいは神の牧師たちに、「あなた方を受け入れる者は、わたし（主イエス）を受け入れるのであり、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わした方（父なる神）を受け入れるのである」と言われたのも不思議ではありません。アブラハムが殺されることを恐れて身元を隠し、嘘をついていたにもかかわらず、神はアビメレクに、彼が神の預言者と対峙していると告げました。それを聞いたアビメレクは、民にアブラハムとその家族に近づかないように警告しただけでなく、アブラハムに多くの贈り物を与え、ついには彼の選んだ土地に住むように命じました。ファラオは、アブラハムに関する同様の問題に直面した際に、これらのことをしませんでした（参照：アブラハムの預言）。

創世記12:10-20)はアブラハムを受け入れず、アブラハムとその持ち物全てを追放しました。これは、彼（ファラオ）がアブラハムを受け入れなかったことを示しています。アビメレクとその家族は、アブラハムの祈りを通して癒やしを受け、アブラハムの人格を研究し始めました。彼らは、科学者たちが年齢から見ても一生不妊だと決めつけていたサラに、イサクを産んでほしいと願っていました。彼らはイサクが成人するのを見届け、アブラハムの人生に数々の奇跡と祝福を目の当たりにしました。ある日、アビメレクと彼の軍の司令官ピコルがアブラハムのもとを訪れ、こう言いました。

神はあなたのすべての行いにおいてあなたと共におられる。それゆえ、今ここで神にかけて誓ってください。あなたは私に対しても、私の息子に対しても、私の息子の息子に対しても、決して偽りの行為をしない。私があなたに示した親切にしたがって、あなたも私と、あなたが滞在しているこの土地に対して行うのだ。」アブラハムは言った。「誓います。」アブラハムはアビメレクを、アビメレクの家臣たちが乱暴に奪い取った井戸のことで叱責した。アビメレクは言った。「誰がこんなことをしたのか、私には分かりません。あなたも私に話してくれなかったし、まだ話してくれなかったのです。」

私はそれを聞いていたが、今日は。（創世記21:23-26）

アブラハムとその家族、そして彼のすべての財産をエジプトから追い出したファラオとは異なり、アビメレクとその家族はアブラハムとその家族を受け入れただけでなく、彼らの土地に住むことを許可し、ついにはアブラハムに対し、彼（アビメレク）とその息子、あるいは孫、そして彼が住んでいる土地に対して親切に接するという契約を結ぶよう要求しました。アブラハムは、アビメレクの家臣たちの行いを叱責し、謝罪した後、同意しました。そして彼は言いました。

この七頭の雌の子羊を私の手から受け取ってください。私がこの井戸を掘ったことの証人となるためです。それゆえ、彼はその場所をベエル・シェバと名付けました。二人がそこで誓いを立てたからです。（創世記21:30-31）

ベエル・シェバは彼らの契約の象徴となりました。なぜなら、アブラハムが井戸を掘っただけでなく、アビメレクが求めた契約にも署名した場所だからです。こうして、誓いの井戸を意味するベエル・シェバは、アブラハムとその子孫の相続地の一つとなりました。アブラハムとアビメレクがこの地で結んだこの契約こそが、イサクを守ったのです。神はイサクにエジプトへ下らないよう警告した後、ペリシテ人の王アビメレクのもとへ戻るよう命じました（創世記26:1-6参照）。そして、その地の人々がイサクに妻のことを尋ねると、父から受け継いだ祖先の霊が彼を攻撃し、父アブラハムと同じように、リベカが妹だと嘘をつきました（7節参照）。イサクがゲラルの人々についた嘘は、父アブラハムがファラオとアビメレクについた嘘の反動でした。なぜなら、その嘘によって、四代目まで子孫が父祖の罪の報いを受けることになるからです。イサクがゲラルの人々にリベカが妹であることを告げ終えた後も、それ以前に被害者であったアビメレクはイサクとリベカを見守り続け、ある日、二人がロマンチックな戯れを交わしているのを目撃し、急いで二人に電話をかけ、二人の関係について真剣に尋ねました。

彼がそこに長く滞在していたとき、ペリシテ人の王アビメレクは窓から外を眺め、イサクが妻リベカと戯れているのを見た。アビメレクはイサクを呼び寄せて言った。「彼女は確かにあなたの妻です。彼女は私の妹なのに、あなたはなんと情け深いのですか。」イサクは彼に言った。「彼女のために死ぬかもしれないと、私は言ったのです。」アビメレクは言った。「あなたは私たちにこんなことをしたのですか。民の誰かがあなたの妻と浮気したら、あなたは私たちに罪を負わせることになります。」

アビメレクはすべての民に命じて言った。「この人、あるいはその妻に触れる者は必ず死刑に処せられるであろう。」（創世記26:8-11）

一度負けたら二度としない、という諺があるように、アビメレクはアブラハムとサラとの苦い経験から教訓を得て、イサクが契約関係を結んだアブラハムの息子であることを認識した上で、イサクがリベカのどちらかに触れる者には死刑を宣告した。アブラハムとアビメレクの契約関係は、イサクとリベカを守るものだった。

攻撃されたり殺されたりするのを防ぐ。

### ヤコブ契約ラバン

ヤコブは母リベカの助けを借り、兄エサウの怒りから逃れ、パダン・アラムにある母方の祖父ベトエルの家に逃げ込み、エサウの祝福を得ました。そして両親（イサクとリベカ）の指示に従い、ヤコブは母方の叔父ラバンのもとへ行き、ハラで彼に仕え、後にラバンの娘の一人を妻に迎えることになりました。ラバンはヤコブを喜んで迎え、歓待しました。そして一ヶ月後、ラバンはヤコブにこう言いました。

あなたは私の兄弟だからといって、ただで私に仕えなければならないのですか？教えてください、あなたの報酬はいくらになるのでしょうか？ラバンには二人の娘がいました。姉はレア、妹はラケルといったのです。レアは優しい目をしていましたが、ラケルは美しく、容姿端麗でした。ヤコブはラケルを愛し、「あなたの下の娘ラケルのために七年間あなたに仕えましょう」と言いました。ラバンは「彼女を他の男に与えるよりは、あなたに与える方がよいでしょう。あなたは私と一緒にいてください」と言いました。（創世記29:15-19）

これはヤコブとラバンの間の最初の契約であり、ヤコブは7年間忠実にラバンに仕え、契約における自身の分を守りました。7年後、ヤコブはラケルを妻として与えることで、自身の分を守るようラバンに求めました。しかし、剣で人を殺す者は、という諺にあるように、ヤコブは兄エサウを騙して祝福を不正に得たことで、自らの利益を被ったのです。このため、神はヤコブよりも大きな詐欺師であった叔父ラバンに、彼自身の金で報復することを許しました。ラバンは宴会を開き、その地の男たち全員を集めました。そして夕方、ヤコブが酔っ払った時、ラバンはヤコブが仕えていた妹のラケルの代わりに、姉のレアを連れてきて自分のところに連れて行き、ヤコブは彼女と寝ました。このラバンの行為によって、彼はヤコブとの契約を破り、神がヤコブのために戦い、ラバンを罰するために介入したのです。

朝になって見ると、それはレアだった。ヤコブはラバンに言った。「あなたは私にこんなことをしたのか。私はラケルのためにあなたと共に仕えたのではないか。なぜ私を欺いたのか。」ラバンは言った。「妹を長子より先に与えることは、この国では許されていない。彼女の一週間が満ちれば、あなたはさらに七年間私と共に仕えることになるので、これもあなたに与えよう。」ヤコブはそのようにして一週間が満ち、娘ラケルも妻として与えた（創世記29:25-28）。

ラバンはヤコブを7年間自分に仕えさせた後、後にラケルをもヤコブに妻として与えた。二人は暮らし始めたが、ヤコブはレアを憎み、ラケルを愛した。このため、神はレアの子宮を開き、彼女は6人の息子と1人の娘を産んだ。一方、レアがヤコブに子供を産ませるために与えた彼女の侍女ジルバは、2人の息子を産んだ。ラケルの侍女ビルハも、彼女の女主人からヤコブに与えられたが、彼女は妊娠できなかったため、子供を産ませるために与えられた。そして、彼女は2人の息子を産んだ。その後、ラケルは妊娠して2人の息子を産み、ヤコブの子供は12人の息子と1人の娘であった。ラケルがヨセフを産んだ後、ヤコブはラバンのところへ行き、「私を送ってください。私は自分の場所、私の国へ行きます」と言った。わたしがあなたに仕えてきた妻たちと子供たちを与え、わたしを去らせてください。わたしがあなたに仕えてきたことは、あなたはご存じです。（創世記30:25-26）

ヤコブの子供が増え、ラバンとの契約も全て果たしたため、ヤコブはラバンに近づき、妻子の解放を願い出た。そうすればヤコブは去ることができる。多くの主人や上司がそうであるように、あなたが彼らのところに留まることが彼らに恵みをもたらしていると知ると、彼らはあなたをなかなか去らせようとしな。そこでラバンはヤコブに言った。

もし私があなたの目に恵みを得ているなら、どうか留まってください。主があなたのゆえに私を祝福してくださったことを、私は身をもって知っています。そして主はこう言われました。「あなたの報酬を私に示してください、私はそれを与えましょう」(27-28節)。

ヤコブは叔父ラバンに、自分が来る前は事業がいかに小規模だったか、そして今では羊の群れが大群にまで成長したこと、そしてラバンが来てから主がいかに彼を祝福してくださったか、そしてヤコブは自分の家も支えられるように、自分の事業を持ちたいと願っていることを伝えた。ラバンがヤコブにいくら報酬として与えてよいか尋ねたため、ヤコブは主から啓示を受け、ラバンの羊の群れを養い続けることに同意したが、一つだけ条件があった。その条件とは、

私は今日、あなたの羊の群れを全部巡り、ぶちとまだら模様の牛、羊の中の茶色の牛、そしてやぎの中のぶちとぶち模様の牛をすべて取り除きます。これらの牛から私の報酬を得ます。後日、報酬を受け取る人が私の前に来る時、私の義が私のために報いを与えるでしょう。やぎの中のぶちとまだら模様の牛、羊の中の茶色の牛は、すべて盗まれたものとみなされます。ラバンは言った。「あなたの言葉どおりにならせてください」(32節)

34)。

これはヤコブがラバンと結んだ3番目の契約であり、ラバンが彼を騙し続ける一方で、神は王座から降りてきて、当時まだ生まれていなかった預言者エゼキエルによって語られていなかった預言を現実のものとすることを決意した。

主なる神はこう言われる。「王冠を脱ぎ、冠を脱げ。これはもはや同じではない。低い者を高め、高い者を卑しめよ。わたしはそれを覆す、覆す。それはもはや存在せず、その権利を持つ者が来るまで、わたしはそれを彼に与える」(エゼキエル書 21:26-27)。

王冠(ティアラ)という言葉はヘブライ語でミツネフェスと言われ、ミツネフェスと発音されます。これは、王や大祭司の正式なターバン、王冠、宝石をちりばめたヘッドバンド、王冠のアーチ、王権、冠の栄光などを意味します。神がここでラバンになされたことは、多くの主人や上司にとって大きな教訓となるはずで、彼らは詐欺師のように、召使いを雇い入れる際に何も持たずに帰る習慣を身につけています。中には、召使いや労働者の賃金を変更する者もいれば、雇い入れ期間を延長し、彼らが一度でもミスをしたり、頑固になったり、罪を犯したりした時に解雇したり、何も持たずに追い払ったりする者もいます。もしあなたがそのようなことをした主人や上司で、この本を読んだことがある、あるいはこれから読んでいるなら、神がヤコブに与えた知恵を通してラバンになされたことを学びましょう。

ラバンの富はヤコブに移譲されました。神はラバンの事業主としての王権を剥奪し、ヤコブに与えました。ヤコブが夢の啓示で神から授かった知恵を適用し始めると、神はすべてをヤコブに有利に転じさせました。まずヤコブは、縞模様とまだら模様の雄ヤギ、ぶち模様とまだら模様の雌ヤギ、その他白っぽいもの、そして茶色の羊をすべて取り除き、息子たちに与えて自ら事業を始めさせました。その間、ヤコブはラバンの残りの羊の群れを飼い始めました。

ヤコブは青々としたポプラと、はしばみと栗の枝を取り、それに白い細長い皮をまき、枝の中の白い部分を現した。そして群れが水を飲みに来るとき、羊たちが枝の前で妊娠するように、水飲み場の溝に積み上げた枝を置いた。そして、縞模様の牛、ぶち模様の牛、まだら模様の牛を産み出した。ヤコブは子羊を分け、ラバンの群れの中の縞模様の牛と茶色の牛の方に群れの顔を向けた。そして自分の羊の群れだけを分けて、ラバンの牛には与えなかった。そして、より強い牛が妊娠したときはいつでも、ヤコブは枝を溝の牛の目の前に置き、枝の間で妊娠するようにした。しかし、牛が弱くなると、それを入れなかった。それで、弱いのはラバン族、強いのはヤコブ族であった。こうして男は大いに富み、多くの牛、男奴隷、女奴隷、らくだ、ろばを持つようになった（創世記 30:37-43）。

本書の読者にとって、この神秘から学ぶことは有益です。なぜなら、テレビ、映画、ポルノ雑誌などで見るものが思考に影響を与え、多くの場合、夢もそれらの思考から生じていることを多くの人が知らないからです。心に影響を与えるこれらの映像は、思考に従って行動するため、行動にも影響を与えます。これが、妊婦が奇形児を出産する主な理由の一つですが、科学者たちは原因として一つの医学用語や病名を挙げます。神はヤコブに受胎の啓示を与え、ヤコブを高揚させました。この啓示の中で、神はヤコブに、受胎と子供や子孫を産むという神秘は、人間や動物の男女間の性交だけで終わるのではないことを示しました。神が御霊によって支配する四次元を通して、人が見たものは心の中にビジョンを形成し、それを受け取り告白することで、肉体に現れるのです。そして、人間の場合と同様に、この次元を通過する他の生き物にもそれが当てはまります。

生殖の過程。これはまた、一部の男性が、子供が生まれると、その子供が自分や妻、あるいは家族の誰にも似ていないと主張して、無知にも子供を拒絶する理由でもある。多くの場合、子供たちは、妻が妊娠中に見た、あるいはテレビで見た誰かに似ているかもしれない。妊娠期間中に、妻が実際に見た人、あるいは何かの番組を見ながら見た人に似ているかもしれない。ヤコブは神からのこの神秘を武器に、緑のポプラとハンバミと栗の木の枝を取り、白い塗料が何かで穴を開け、その塗料が枝に現れるようにした。そしてヤコブは、ラバンのより強い群れの水飲み場が置いてある溝にそれを置いた。羊の群れが妊娠して水を飲みに来てくると、白い斑点のある枝、枝、そして栗の葉が、まるでまだら模様のように見えた。

斑点のある牛は、それらの動物の心の中に認識され、形作られ始め、神の領域である四次元の行為を通して、まだ生まれていない牛たちに影響を与えます。ラバンのこれらの強い群れは、最終的に縞模様、ぶち模様、まだら模様の牛を産みましたが、それらも強いものでした。契約に従って、ヤコブはそれらを取り、斑点やまだら模様のない弱い牛はラバンのものとなりました。そして、この神聖な昇格のプロセスを通して、神はラバンの富をヤコブに移しました。忠実にあなたに仕えた僕たちをこのように扱った主人や上司の皆さん、ヤコブとラバンの経験から学び、悔い改めなさい。行ってその僕を探し出し、彼を落ち着かせ、彼と交わした契約に従うのが遅れたことに対する補償をなさい。さもないと、神はヤコブに与えた知恵を彼に与えるだけでなく、この四次元を通してあなたの事業と資金を彼に移し、あなたの事業と資金は弱々しく見えるでしょう。そしてヤコブの成功はラバンとその息子たちには明白となり、彼らの言葉を聞いた。

ヤコブは私たちの先祖のものをすべて奪い去り、私たちの先祖のものからこのすべての栄光を得たのです。ヤコブはラバンの顔を見ましたが、それは以前のように彼に対して向けられていませんでした。主はヤコブに言われました。「あなたの先祖の地、あなたの親族のもとへ帰りなさい。わたしはあなたと共にいる」(創世記31:1-3)。

ヤコブは、義父ラバンと義兄たちが彼の進歩に不満を抱いていることに気づき、主の御前に出ようとしていました。すると主は、ヤコブに父祖の地へ帰るように、そして主が彼と共にいるようにと告げられました。そこでヤコブはレアとラケルを呼び寄せ、こう言いました。

わたしは、あなたたちの父の顔が、以前のように私に対して向けられていないのを見ました。しかし、わたしの父の神は私と共におられました。あなたたちもご存じのとおり、わたしは全力を尽くしてあなたたちの父に仕えてきました。お前の父は私を騙し、報酬を十回も変えた。しかし神は彼が私を傷つけることを許さなかった。もし父が「ぶちのものがお前の報酬となる」と言ったなら、牛はすべてぶちの毛を生やし、もし父が「輪のものがお前の報酬となる」と言ったなら、牛はすべて輪の毛を生やしなさい。こうして神はお前の父の牛を取り上げて、私に与えたのだ。牛が妊娠した時、私は目を上げて夢を見た。牛に飛びかかる雄羊は、輪の毛、ぶちの毛、そして赤毛だった。神の御使いは夢の中で私にこう言いました。「ヤコブよ、私はここにおります。」すると彼は言いました。「目を上げて見よ。牛に飛びかかる雄羊は皆、縞模様で、ぶち模様で、赤みがかっている。私はラバンがあなたにしたことをすべて見た。私はベテルの神である。そこであなたは柱に油を注ぎ、

あなたはわたしに誓願を立てた。今、立ち上がってこの地を出て、あなたの親族の地へ帰りなさい。」ラケルとレアは答えて言った。「私たちの父の家にはまだ私たちの分、あるいは相続地がありますか。私たちは父に寄留者とみなされているのではないのでしょうか。父は私たちを売り、私たちの金まで食い尽くしてしまったのです。神が私たちの父から取り去られたすべての富は、私たちと私たちの子孫のもので、ですから、神があなたに命じられたことは何でも行ってください。」(創世記31:5-16)

この箇所は、ヤコブがラバンの富を譲り渡すために行ったことの啓示を彼に与えたのは神であることをはっきりと示しています。あなたの上司や主人があなたの成功や進歩を妬んだなら、主の御顔を求めなさい。なぜなら、それは去るべき時かもしれないからです。上司や主人よ、召使や従業員の賃金を変えたり、彼らのある店や職場から別の店や職場に異動させて惨めな生活を送らせたりしても、彼らの成功を止めることはできません。なぜでしょうか？彼らの成功や進歩は神に認められており、誰もそれを止めることはできないからです。もしあなたが彼らを傷つけようとするれば、神は彼らを救い、あなたは彼らに代わって滅びるでしょう。もしあなたが結婚を考えている妻や独身の女性の皆さん、ヤコブの妻レアとラケルがヤコブに与えた返事の下線部を見てください。これは、現代の結婚が聖書に基づいていないからです。多くの既婚女性は、結婚した家を第一の家ではなく第二の家と見なしています。彼女たちは結婚した家を離れ、父の家へ行き、混乱を引き起こすでしょう。そしてそうすることで、父の家を分裂させ、干渉に抵抗する者たちの敵となるでしょう。夫に忠実なこの二人の妻の口から聞いてください。私たちの父の家に、まだ私たちの受けるべき分や相続財産があるのでしょうか。

結婚が成立すると、あなたは父親の家ではよそ者となり、自分の意見を述べるよう求められた場合にのみ、意見を述べたり自分の意見を表明したりできるようになります。

繰り返しますが、それはあなたの主（所有者）であるあなたの夫の許可を得なければなりません。

ヤコブは妻たちと協議した後、家族と持ち物をすべて準備し、義父ラバンに知らせずに父の家へ出発しました。三日後、ラバンはそれを知ると、部下たちを率いてヤコブとその家族を追いかけました。

ラバンがギレアデの山地でヤコブに追いつく7日目に、神は介入していた。

そして神は夜、夢の中でシリア人ラバンに現れて言った。「ヤコブに良いことも悪いことも話さないように気をつけなさい」（24節）。

これが契約の働きです。ヤコブはラバンと契約を結んでいただけでなく、神とも契約を結んでいました。ラバンの心はずでにヤコブを傷つけるほどに固くなっていたので、神はヤコブとの契約と、創世記28章20節に見られるようにヤコブが神に立てた誓いを通して、ヤコブを救いました。

22 ラバンの怒りから彼を救い出した。これはラバンがヤコブに対して何をしようとしていたかを告白したものである。

わたしの手には、あなたを傷つける力があります。しかし、あなたの父の神は昨夜わたしにこう言われました。「あなたはヤコブに良いことも悪いことも言わないように気をつけなさい。」（創世記31:29）

最終的に神は、ラバンがヤコブとの契約を何度も破ったことに対して罰を与えただけでなく、ラバンが自分の意図を告白し、ヤコブと平和的に解決した後、ヤコブと新たな最終的な契約を結んだため、ラバンがヤコブに危害を加えることを阻止しました（43-54節参照）。

ラハブとイスラエルの斥候との契約

モーセの死後、ヨシュアはイスラエルを神の約束の地へ導く任務を負いました。そこで彼は、次に征服するエリコの地を密かに偵察するため、二人の偵察兵を任命しました。エリコに着くと、彼らは遊女ラハブの家にいき、そこに宿を取りました。しかし、イスラエルのスパイたちが国中を偵察しに来たという情報がエリコの王の耳に入りました。王はラハブに、彼女の家にいったスパイたちを連れて来るようにと命じました。しかし、使者や王の戦士たちが来て王の伝言を伝える前に、彼女はスパイたちを屋根の上に整然と並べた亜麻の茎で覆い、隠しました。スパイたちを隠した後、彼女は使者たちを欺き、スパイたちは確かに彼女の家に来てはいたものの、門が閉まる前に夜中に去ったと嘘をつきました。こうして戦士たちはスパイたちをヨルダン川へ向かって追跡しました。戦士たちが遠くへ去ると、彼女は門を閉めて屋上の斥候たちのところへ行き、彼ら（エリコの民）は神がエリコの地をイスラエルに与えられたことを知っていると言った。なぜなら、彼らは神が彼らのために行われたすべての奇跡と、彼らの征服について既に聞いていたからだ。そして、その称賛の後、彼女は言った。

それで今、私があなたたちに親切にしたのだから、あなたたちも私の父の家に親切にして、私に真実の証を与えてくれると、主にかけて誓ってください。そして私の父と母と兄弟姉妹、および彼らのすべての持ち物を牛かして、私たちの命を死から救ってください。」男たちは彼女に答えました。「もしあなたたちがこの私たちのことを言わないなら、私たちの命と引き換えにあなたたちを殺しても構いません。主が私たちにこの土地を与えられるとき、私たちはあなたたちに親切に、誠実に対応しましょう。」それから彼女は縄で彼らを窓から下ろしました。彼女の家は城壁の上にあったからです。彼女は彼らに言いました。「追っ手に会わないように山へ行き、追っ手が戻ってくるまで三日間そこに隠れてください。その後、あなたたちそれぞれの道を進んでください。」男たちは彼女に言いました。「私たちは、あなたが私たちに誓わせたこの誓いについては、責められません。」見よ、我々がその地に入るとき、あなたが我々をつり降ろした窓に、この赤い糸のひもを結びつけなければならない。そして、あなたの父、母、兄弟、そして父の家族全員を、あなたの家に連れて来なければならない。あなたの家の戸口から外に出る者は、その血の責任は彼の頭に課せられ、我々は罪を免れる。また、家の中にあなたと共にいる者も、もしその者に手が触れれば、その血は我々の頭に課せられる。もしあなたがこの我々の誓いを口にするなら、あなたが我々に誓わせた誓いは、我々には適用されない。」彼女は言った。「あなたの言葉のとおりにさせてください。」そして彼女らは彼らを送り出し、彼らは出発した。そして彼女は赤い糸のひもを窓に結びつけた。(ヨシュア記 2:1-21)

この聖句を注意深く研究すると、ラハブのように、契約関係の持ち方を知り、信仰によって歩むことで契約の誓いの律法を守る不信者もいることがわかります。そのような器は神の国から遠く離れていません。契約を守る神は、彼らに救いを示す方法を講じてくださるからです。エリコでよく知られた、あるいは人気のある娼婦だったラハブを想像してみてください。彼女は斥候たちをすぐに王に報告したでしょう。エリコの滅亡は彼女の売春業の終焉を意味したからです。彼女は斥候たちを受け入れるだけでなく、両親や兄弟、そして彼らのすべての持ち物に救いの扉を開く者となったのです。彼女が歩んだ信仰を見てください。もし彼女が斥候たちを救うために嘘をついた後に斥候たちが捕まったら、彼女自身も彼らと共に命を失い、おそらく彼女の父の家全体が影響を受けたでしょう。

ここでのもう一つの謎は、スパイたちが垂らされた赤い糸によって救われたということである。

窓から血が流れ出るというのは、罪人たちの心と良心、思いを清めるイエスの血のようなものです。同じように、聖霊に触発されたスパイたちは、ラハブの家族の中で救われる者は、彼女（ラハブ）の家に入るという同じ過程を経なければならないと警告しました。それは、その時までには彼女は神と和解していたので主イエスを受け入れること、そして、聖霊を利用して、緋色の糸が表すイエスの血を用いて自分の心と良心、思いを清めることに似ています。すでに血で覆われているその家に入らない者は救われません。そして、彼らの契約合意の霊的な意味は、ラハブと彼女の父の家が悔い改めて回心し、救われるということです。

イスラエルの子孫が最終的にその地を征服したとき、何が起こったか見てみましょう。

その町とその中にいる者すべては主に呪われるであろう。ただし、遊女ラハブと、彼女と共に家にいる者は皆生かしておかなければならない。彼女が我々の遣わした使者を隠したからである。ヨシュアはその地を偵察していた二人の者に言った、「遊女の家に行って、彼女に誓ったとおり、その女とその持ち物をみな連れ出しなさい」。そこで斥候の若者たちは入って行って、ラハブとその父母と兄弟、それに彼女が持つすべてのものを連れ出し、また彼女の親族もみな連れ出して、イスラエルの陣営の外に残しておいた。ヨシュアは遊女ラハブとその父の家族、および彼女が持つすべてのものを生かしておいた。彼女は今日までイスラエルに住んでいる。ヨシュアがエリコを偵察するために送った使者を彼女が隠したからである。（ヨシュア記6:17, 22-23, 25）。

当時エリコに住んでいた100万人以上の人々の中で、ラハブとその父の家だけが救われました。これは、神はあまりにも慈悲深いので、悔い改めない何十億もの魂が地獄の火で滅びるのを許さないと信じている人々にとって、大きな教訓となるでしょう。もし、それらの何十億もの魂が、霊と真理をもって悔い改め、改心するのを怠れば、彼らは皆滅びるでしょう。ラハブと彼女の父、母、兄弟たち、そして彼らのすべての持ち物は、斥候たちの口から神の言葉を聞き、それに従って救いをしっかりと掴んだために救われました。ラハブとその父の家は、すべての持ち物とともに救われただけでなく、この聖句の下線部にあるように、完全に隔離された状態で歩まされました。これは、彼らがイスラエルの陣営の外に留め置かれていたことを示しています。読者の皆様は、二人の斥候のうち一人、サルモンという名の者が後にラハブの夫となり、ダビデの祖父オベドの父でもあるボアズを産んだことも興味深いでしょう。こうしてラハブと斥候との契約は、彼女と彼女の父の家を救い、神の人と結婚する道を開きました。

#### ヨナタンとダビデの契約

神がダビデにゴリアテに対する勝利を与えた後、サウルは彼を呼び寄せ、ダビデが誰の息子であるかを尋ねると、彼（サウル）はダビデを王宮に引き取られたダビデは、サウルがゴリアテを倒す前に、悪霊に襲われるたびにサウルの武具持ちとして豎琴を弾いていた父の家に帰ることができなくなりました（サムエル記上16:18-21参照）。そのため、サウルの息子ヨナタンはダビデを深く愛し、二人は愛の契約を結ばざるを得ませんでした。

ヨナタンがサウルに語り終えると、ヨナタンの心はダビデの心に結びつき、ヨナタンは彼を自分の魂のように愛した。サウルはその日、ヨナタンを連れて行き、二度と父の家に帰らせようとはしなかった。

ヨナタンはダビデを自分の魂のように愛していたので、ヨナタンとダビデは契約を結んだ。ヨナタンは着ていた上着を脱ぎ捨て、それをダビデに与えた。また、自分の剣と弓と帯までも与えた（サムエル記上18:1-4）。

ヨナタンがダビデに対してどれほどの愛を抱いていたかを見てください。聖書の下線部がそれを証明しています。ヨナタンは、神がダビデに父サウルから王位を継承するよう油を注いだことを知っているかのように、王位継承者としての王笏をダビデに明け渡しました。

ヨナタンとダビデの間のこの合意により、二人はそれぞれ特定の責任を負い、その瞬間からお互いの幸福を追求するようになりました。

サウルは、ダビデがペリシテ軍に勝利しゴリアテを倒した後も、ダビデを殺す方法を模索し続けました。イスラエルの女たちは、自分たちはサウルに千人殺したと言いながら、ダビデは万を殺したと言い聞かせました。一方、ヨナタンは父のダビデ殺しの企みをことごとく阻止し、父の秘密の陰謀をダビデに暴露し続けました（サムエル記上19:1-19:20:1-42参照）。ヨナタンは以前、父サウルがサムエル記上19:6でダビデに誓いを立てた後、サウルはダビデを殺さないと保証していました。

7 ダビデは殺されないと約束しました。しかし、悪霊が再びサウルに臨み、ダビデの命を狙うようになったとき、サウルはダビデがヨナタンに好意を寄せられていることを知り、ヨナタンに計画を隠しました。ダビデがヨナタンにサウルが計画を隠していたことを告げると、ヨナタンはダビデを愛していることを知っていたので、ダビデに何をしてほしいのか尋ねました。ダビデが答えると、ヨナタンは答えてダビデに誓いを立てました。

イスラエルの神、主よ。私が明日か三日目に父に尋ね、もしダビデに対して良いことがあれば、私はあなたに人をやってそれをあなたに告げないかもしれませんが。主がヨナタンに対しても、そのように、そしてなおさらそうしてくださいませう。しかし、もし父があなたに害を加えることをよしとされるなら、私はそれをあなたに告げ、あなたを去らせ、あなたは安らかに去ることができますように。主が私の父と共におられたように、あなたと共におられますように。あなたは私が生きている間、私の慈しみを示して私が死なないようにしてくださいませうだけでなく、私の家からあなたの慈しみを永久に断ち切らないでください。主がダビデの敵を地の面からことごとく滅ぼされた後も、あなたは決してそれを断ち切らないでくださいませう。こうしてヨナタンはダビデの家と契約を結びました。「主がダビデの敵の手にそれを要求されますように。」ヨナタンはダビデを愛していたので、再びダビデに誓わせた。ヨナタンはダビデを自分の魂のように愛していたからである（サムエル記上20:12-17）。

契約を更新するこの誓いにおいて、ヨナタンは父サウルにダビデの善行を語ることを約束した。これは、サウルがダビデに対して抱いている思いを知るためだった。もしサウルがダビデに対して正しく善良であれば、もし悪しき心であれば、サウルはダビデを安らかに去らせ、サウルが死の罠から逃れさせると約束した。ダビデは、その約束を果たさなければならなかった。

神はダビデの敵を断ち切った後も、ヨナタンが生きている間だけでなく、彼の家に永遠に親切を示しました。サムエル記上20:18-42を注意深く研究すると、ヨナタンが父のダビデに対する計画を暴露し、その過程でダビデを宮殿から逃がす際に、どのように契約の自身の部分を守ったかがわかります。神がダビデの敵を断ったとき、ダビデもヨナタンを失望させませんでした。ヨナタンは亡くなりましたが、ダビデはヨナタンとの契約のために障害を負っていたヨナタンの唯一の生き残りの息子メフィボシエテを呼び寄せ、親切にし、メフィボシエテをエルサレムの王宮に住ませ、王の食卓から食べ物を与えました。(参照 サムエル記下9:1-13)ギベオン人が、サウルが破ったイスラエルとギベオン人の間の兄弟契約のせいで神の怒りを鎮めるために、ギブアで主に頭を垂れたサウルの家からの7人の息子を求めた時でさえ、ヨナタンの息子メフィボシエテは、彼ら（ダビデとヨナタン）の契約のせいで、再びダビデ王に保護された。

しかし、王は、主がダビデとサウルの子ヨナタンとの間に立てられた誓いのゆえに、サウルの子ヨナタンの子メフィボシエテを助けた（サムエル記下 21:7）。

最終的に、ヨナタンとダビデの間の契約合意により、ダビデが最も重要なときに失望させなかったため、ヨナタンはダビデよりも先に自分の子供たちの好意を得ることができました。

## 第5章

### 神の意志に反する秘密カルトや団体と契約を結ぶことの結果と解決策。

---

あなたの神、主があなたに与える地に入るとき、あなたはこれらの国々の人々の忌まわしい行いに倣ってはならない。あなたのうちには、自分の息子、娘に火の中を通らせる者、占いをする者、まじない師、呪術師、呪術師、口寄せ、魔術師、降霊術師、降霊術師などがいてはならない。これらのことを行う者はすべて主の忌まわしいものである。これらの忌まわしい行いのゆえに、あなたの神、主は彼らをあなたの前から追い払われる。あなたはあなたの神、主の前に完全にあらねばならない。

あなたが占領するこれらの国々は、占い師やト者の言葉に耳を傾けた。しかし、あなたに関しては、あなたの神である主は、そうすることを許されなかった。（申命記18:9-14）。

これは神がモーセを通してイスラエルに与えた戒律の一部であり、約束の地に入るときに守るべきものでした。そしてその戒律はイスラエルだけでなく、世界中の神の子すべてに向けられたものであり、イスラエルは霊的にそれを象徴しています。占い師、時の観察者、呪術師、魔女、呪文を唱える人、霊媒師、魔法使い、降霊術師などの言葉はすべて、悪魔の代理人であり、神が禁じた占いや魔術などのオカルト行為を表しています。では、疑問を解消するために、これらすべての意味を一つずつ説明しましょう。息子や娘を火の中を通す行為は、子供を偶像や神に犠牲に捧げる、または捧げるプロセスのことを指します。この儀式は、親や保護者が、子供を前述の間の代理人のいる神社や宗教施設に連れて行き、神々に捧げる、治癒を祈る、子供から悪霊を洗い流すふりをするなどの目的で、何らかの犠牲を捧げさせることで行われます。また、ほとんどの場合、子供の体や顔に部族の印が入れられたり、腰や足首、手首、首にビーズをつけさせられたり、指やつま先に指輪をつけさせられたりしますが、親が子供のために故意に、あるいは無意識に行うこのような行為は、神の前ではすべて忌まわしいことであり、子供たちを悪魔との契約に導く方法でもあります。これらの代理人の中には、犠牲者にろうそくの周りを回らせる者もいれば、燃える火の周りを回らせる者もいます。事実上すべての秘密カルト、大学や専門学校、教育大学などの高等教育機関、そして最近では一部の中等学校でも、信者をカルトに入信させるためにこの儀式が用いられています。この儀式によって、新信者は火を司る精霊との契約関係に入り、あらゆる犠牲、呪文、そして実践を通してその精霊を崇拝するのです。

占いは、超自然的な手段、本能的な予知、予言、推測によって過去、未来、あるいは隠された事柄を知ろうとする占術または実践です。占いで、像、コラナット、オカルト鏡、数珠、宝石など、様々な道具を用いて物事を占います。「時の観察者」は、時を読み解く占者でもあります。

未来を予言するために雲を占う占星術師も、占星術師と同様です。占星術師は星を読み、惑星に働く霊の助けを借りて占星術を行います。彼らは、一部の新聞に毎日掲載される12星座に基づいて星占いの分析を行う予言者です。この行為によって、これらの星座を読んだり信じたりする多くの人々は、間接的に悪魔の活動に巻き込まれています。エンチャントとは、魔法や呪術を用いて犠牲者に呪いをかける、呪術師または魔術師のことです。魔女とは、悪霊との接触を通じて超自然的な力や魔術的知識を得るとされる人物、特に女性のことです。呪術師とは、オカルト的な力を使って人を魅了したり、魅了したり、個人的な魅力や抗しがたい喜び、特に幸運をもたらすもの、例えばお守り、韻文、護符、特にブレスレットなどにつける装身具などを使う人のことである。また、呪術によって影響を与え、秘密の影響で従わせ、喜ばせ、誘惑するなどの方法でもある。霊媒師とは、聖書で腹話術を指す言葉で、憑りつかれた魔女や魔法使いが話す術を使い、音がどこか別の場所から来ているように錯覚させる。しかし、そのようなことをする人は、人間の腹の中にオカルト的な手段で投影された使い魔によって話すのである。魔法使いとは、魔術や呪術を行う人、呪術師、奇術師、奇跡を起こす人、専門家、天才、占い師などを指します。降霊術師とは、呪文を唱える人、霊媒師、心霊術師、あるいは死者の霊として現れる悪魔を呼び出して過去や未来の出来事について質問する人です。ここで非常に重要なのは、ここで挙げた方法、そしてここに挙げていない多くの方法、つまり神、偶像、あるいは霊に、犠牲、献身、治療、加護、昇進、あらゆる成功、権力、人気、あるいは未来の知識を求めて相談する方法は、すべてオカルト的な操作であるということです。なぜそう言ったのでしょうか？それは、これらの闇の使者たちが、悪魔を鎮めるために捧げる犠牲を通して、神、偶像、あるいは死者の霊として現れる悪魔を呼び出して犠牲者に語りかけるからです。そして神は、そのようなことを行う者はすべて主にとって忌まわしい存在であると警告しました。この章の理解を深めるために、「秘密」と「カルト」という言葉の意味を見てみましょう。チェンバース辞書によると、「秘密」とは、他人に知られないようにすること、発見や観察から守ること、明かされない、未確認、隠された、隔離された、難解な、神秘的な、プライバシーを保護すること、漏らされない、公表されない、または秘密にされていない事実、目的、方法など、明かされない、または知られていないもの、などを意味します。一方、「カルト」は、宗教的信念の体系、宗派、非正統的または偽りの宗教、人物または思想に対する大抵は過度な賞賛、そのような賞賛のもととなる人物または思想、などを意味します。また、私が真の宗教と呼んでいるものが、世間で一般に正統的であると信じられているということに人々が惑わされないように、「正統」の意味を説明することも有益です。正統とは、特に宗教において、教義が健全であること、既成の教義や意見を信じる、あるいはそれに従うことを意味します。これは、英国国教会、長老派教会、メソジスト教会などのプロテスタントが、カトリックのオカルト的慣行に抗議することで正統派教会を創設し、健全な教義に基づいて教会を樹立したことを示しています。しかし、これらの正統派教会が設立されてから3~4世紀も経たないうちに、カトリックとして知られ、教皇庁と呼ばれる教会は、これらの正統派教会やプロテスタント教会の会員となった代理人を通じて、これらのオカルト的慣行の一部を正統派教会に再導入しました。ペンテコステ派教会やカリスマ運動が健全な調子で、あるいは健全な教義に基づいて始まったのに、今日では90%以上が正統派教会の道に戻ってしまったのと同じです。したがって、秘密カルトとは、その慣行や運営方法が公表されていない、あるいは他者に知られていない宗派や偽りの宗教、あるいは

発見や観察から守られたり、隠されたり、明らかにされなかったりするなどです。そして、そのような宗派のメンバーになるためには、彼らと契約関係を結ばなければなりません。さて、ここで私が話しているこの契約関係は、神とは何の関係もないため、悪魔的またはオカルト的です。拙著『キリスト教徒の終焉への競争（王座への資格）』で述べたように、契約には必ず犠牲が伴い、神の御前、あるいは霊の領域で受け入れられる犠牲には、必ず血が流されなければなりません。だからこそ聖書は「血を流すことなしには、罪の赦しはない」と述べているのです。そしてこの理由から、善を行う術も善行を始める術も知らず、むしろ神を模倣し、善行の偽物を持ち込むことしか知らないサタンは、人々が自分の秘密結社に受け入れられるためには、神との契約を通して生きた人間の血を犠牲にしなければならないと決めました。これは、定められた時に必ず流される彼ら自身の血を一時的に免責するためです。なぜ定められた時に人の血を流さなければならないのでしょうか？これは、契約の中に存在する律法、すなわち次のような律法の結果です。

「遺言があるところには、必ず遺言者の死がなければなりません。遺言は人が死んでから効力を持ちます。そうでなければ、遺言者が生きている間は全く効力を持ちません。」（ヘブライ9:16-17）

聖書において、遺言は契約と同じ意味を持ち、どんな契約でも、それが効力を持つためには誰かが死ななければなりません。神は契約を通してのみ人間と関わるので、地上の肉と血を天の肉と骨、つまり魂の体を贖うための身代金として用いることを定め、それによって神と人類との契約に力を与えました。子孫を生み、増え続け、地を従わせて満たそうとしている者たちの贖いのために、神は人類との契約に力を与えるために、まず遺言者として自ら死という代価を払い、次に罪と死の束縛から人間を救うために、人の姿をとって来ることを決意されました。パウロが聖霊の導きによってユダヤ人たちにこう言った時、まさにこのことを説明しようとしていたのです。

「子らが血と肉とにあずかっているように、キリストもまた同様に、それらにあずかられました。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、死によって滅ぼし、一生涯死の恐怖に束縛されていた人々を解放するためでした。実に、キリストは天使の姿をとられたのではなく、アブラハムの子孫をとられたのです。」（ヘブライ人への手紙2章14-16節）

神は天使の姿でこの地上に来られませんでした。なぜなら、神は天使と契約を結んでおらず、天使には罪を赦すために必要な血がないため、契約は効力を持つからです。神はむしろ、契約を結んでいる血肉（人間）の姿で来られました。その血は犠牲として必要であり、その血を死によって捧げることで、死の恐怖を利用して人類を束縛してきたサタンを滅ぼすためです。これは人類を救い、再び神の楽園に戻り、創造主との甘美な交わりを持つためです。そして、人は罪のゆえに、今、死によって血を捧げ、この世に生き続けることはできません。

したがって、イエスの血は、人を救うために自らの血を流した主イエスに対して、自分の意志を完全に委ねる（血の象徴である）ことによって、人が死においてこの肉体を捨て、魂の体に入り、そこで神との永遠の契約を守ることが期待される神が定めた時まで、契約の自身の部分を守ることができるという、人に対する猶予として立っている。これはサタンが模倣し、悪魔的に自分のオカルト集団や結社に持ち込んだものであり、そのため、それらのオカルト結社に入りたいと願う者、または入った者は、契約を通して入会させられる。そして、私が先ほど言ったように、そのような契約では、彼らは犠牲として、秘密の誓いを封印するために使われる人間の血を提供することが求められる。血はまた、メンバーの王冠、指輪、ネックレス、衣服、秘密の部屋に保管されている骨、その他の所有物などを封印するためにも使用されます。ほとんどの場合、またはほとんどの秘密結社またはカルトでは、すべてのメンバーが血を飲み、そのような入会式で使用される血の提供者は、生きている限り、メンバー以外に自分たちの活動を公然と告白しないこと、彼らの資料を火で焼いたり、どのような方法でもそれらの資料を破壊したりしないという秘密保持の誓いを立てます。そして、もしそれらを焼いたり、破壊したりした場合、数日以内に発狂します。また、場合によっては、これらの秘密カルトまたは結社のメンバーが秘密保持の誓いを破った場合、その人は死にます。人々が秘密カルトまたは結社に受け入れられたり、入会させられたりする悪魔的な方法は他にもたくさんありますが、1つ明らかなことは、それは契約を通じてでなければならないということです。そして、そのような拘束力のある契約や誓約、誓いは常に血によって封印されます。なぜ血なのでしょう？お話ししましょう。

サタンは自分が断罪された敵であり、燃える火と硫黄の湖に宿る運命にあることを知っている。そして、悔い改めの機会も、神の住まいである天国に再び行く機会も決してないだろう。だからこそ、たとえ全世界、あるいは人類全体が自分と共に地獄に落ちなくても、天国よりも地獄に多くの人間を住まわせると誓ったのだ。また、彼はこの聖句の意味も知っており、理解している。

「肉の命は血にある。わたしは、あなたがたの魂のために、贖いをするために、それを祭壇の上であなたがたに与えた。血こそが、魂のために贖いをなすのである。」  
それゆえ、わたしはイスラエルの人々に言った。「あなたたちはだれも血を食べてはならない。あなたたちのうちに寄留している寄留者も、血を食べてはならない。イスラエルの人々のうちのだれでも、またあなたたちのうちに寄留している寄留者であっても、食べられる獣や鳥を狩って捕らえた者は、その血を注ぎ出し、土で覆わなければならない。それはすべて肉なるものの命であり、その血は命であるからである。それゆえ、わたしはイスラエルの人々に言った。「あなたたちはいかなる肉なるもの血も食べてはならない。すべて肉なるものの命はその血である。それを食べる者は断たれる。」（レビ記 17:11-14）

「しかし、その命である血を伴う肉は食べてはならない。」（創世記9:4）

レビ記の引用を読んだ後、「これはイスラエルのためだ」とすぐに結論づける人々の自信を無にするためにも、私は創世記のこの聖句を引用しなければなりません。

レビ記の引用は、創世記で神が当時の人類の代表としてノアとその息子たちに語ったことの続きです。サタンはこの神の律法と、それを破った場合の結果を熟知しており、あらゆる世俗的な才能や野心によって人間を誘惑し、欺き、操り、悪に走らせます。

あらゆる忌まわしい行為によって神に反抗するサタンは、自らの秘密結社のメンバーや神の意志から外れた捕虜を、誓いや誓願によって捕らえる。こうした秘密結社の中には、新メンバーが人間の血で入会儀式を受けたり、あるいはその人の願いや心の望みを叶えるために犠牲として人間を捧げたりするところもあるが、サタンは結社を率いる主要な人間代理人を通して、メンバーに犠牲にするための器を自ら持参するよう要求する。そして、オカルト的な操作によって犠牲者の霊が召喚され、オカルトの鏡やオカルトの部屋に現れ、提供者はその人を殺すよう命じられる。そして、その人が神の救済計画から外れている場合、後にそれが物理的に現れる。悪魔によるこの邪悪で忌まわしい行為の本質は、まず、血を流した、あるいは今まさに流そうとしているあなたたちに、血を流したこと、あるいは人肉や血を食べたという罪で、神から死の宣告を受けさせることです。そして、それが成就すると、悪魔は人間の代理人を通してあなたたちに破滅の印を押し、あなたを霊的に魔術の牢獄に閉じ込め、あなたたちが定められた破滅の時、あるいは死の時まで、あなたの心の望みを叶えるために、他の邪悪な行為を犯すためにあなたたちを利用します。そして、悪魔はあなたたちを殺し、あなたを王や女王にしたり、彼の王国で重要な地位を与えたりするという悪魔の約束は、あなたのために、彼の王国が終わる地獄で歯ざしりをしながら、より明確になっていきます。人間の魂を犠牲にして血を流すというこの過程をすぐには経ないかもしれない他の秘密結社やカルトの中には、あなたと彼らの間の契約として、誓約や忠誠の誓い、あるいは血で封印されたオカルト資料を持っているものもあります。そして、この行為によってあなたが何をしたかを見よ。「あなたは自分の口の言葉によって罠にかけられた」(箴言6:2)。「罠にかけられた」という言葉はヘブライ語で「ヤコシュ」と発音され、「罠にかける」という意味です。

しかし、チェンバーズ辞典によると、スナアは、捕らえるための回転輪、罠、お誘い、誘惑、もつれまたは道徳的危険、罠に捕らえる、もつれまたは罠にかける、罠で取り除く、などを意味します。これが意味するのは、あなたが悪魔の罠に落ちたか、またはあなたが口で立てた誓いや忠誠の誓約によって悪魔があなたを捕らえたということ、そしてあなたの口での告白を通して、あなたはこの世のもの引き換えに魂を悪魔に売ったため、彼(悪魔)の捕虜または奴隷になったということです。この行為により、あなたは暗黒の王国を推進するためのあらゆる種類の邪悪な行為に関与し、サタンの弟子を獲得し、ほとんどの場合、あなたの操作に屈することを拒む何人かを殺すことになっています。そしてあなたは、悪魔が真のクリスチャンと戦うために使用する道具にされます。私が「真のクリスチャン」という言葉を使ったのは、世の人々が、信仰深く教会に通い、イエス・キリストを神の子と口にする者はクリスチャンだと信じているためです。このため、悪魔とその手下である人間たちが、キリスト教会の中で自由に活動する十分な余地を与えてしまっています。しかし、聖書はクリスチャンは主イエス・キリストの弟子であると明確に述べています。新しく生まれ、水(浸礼)と聖霊による洗礼を受けず、聖書に記されている主イエス・キリストとその使徒たちの教えを守り、従い続けている人は、ただの教会通いの者であり、まだクリスチャンではありません。信者と自称する大多数の人々よりも親切で、より信心深く、より寛大で、はるかに良い行いをしている未信者や教会通いの人はたくさんいます。しかし、神の根本原理は「神の国を見るためには、あなたは新しく生まれなければなりません。また、神の国に入るためには、水(神の言葉)と聖霊(聖霊の導き)によって生まれなければなりません」と教えているので、彼らは依然として罪人なのです。悪魔の捕虜の中には、富、昇進、保護、人気、権力といったこの世のものとして魂を交換した者もいます。彼らは心の望みを叶えた後、悪魔を相手に早口で駆け引きしようとしています。彼らはどのようにしてそうするのでしょうか?死ぬか、あるいは犠牲にされる時が来た時、彼らは明らかに

金銭や権力などと引き換えに誓約によって寿命を縮められたり、儀式を鎮めたり活性化させたりするために5年に一度、あるいはそれ以上の年に一度、子供や愛する人を犠牲にするよう要求されたりした信者たちは、誓約の代償を払わないための解決策を探し求めて右往左往し始めます。多くの人は、白衣教会のような闇の代理人の手に落ちたり、ペンテコステ派を装っているものの中には高位の闇の代理人に支配されている教会に陥ったりし、最終的には死に至るまで高位の操作に隷従させられます。真のペンテコステ派教会を運営するカリスマ的な神の牧師に助けを求める人の中には、問題の解決を得られない人もいます。なぜなら、彼らは罪の一部を告白して一部を隠したり、オカルト資料の一部を破棄して一部を保管したりするからです。また、オカルト的な実践や操作によって富を築いたり、社会で重要な地位を獲得したりした多くの人が、その金銭や地位を手放すことを拒否するケースもあります。彼らがそのようなことをしても、悪魔は引き続き近づきます。なぜなら、悪魔はあなたが彼の金銭や地位を手放さないことで、まだ彼に関心を持っていると信じているからです。そして、あなたとの契約は依然として有効です。そして、悪魔は手先たちと共に、あなたを殺すまで惨めな人生を送るでしょう。多くの人は、真理を知らないカリスマ的な神の牧師たちから誤った助言を受け、この聖句を信じたり引用したりすることで、富や地位を維持しています。

「ですから、もしキリストに結ばれている人がいれば、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去り、見よ、すべてが新しくなりました。」(コリント第二5:17)

このような人々は、生まれ変わり、水と聖霊の洗礼を受ければ、不正に得た富や血の代償金、地位も変わると信じている。

変わることはありません。不正に得た富や血の代償、財産をすべて神に明け渡し、一切の手放すか、あるいはオカルト的な行為によって得た地位を辞任し、主イエス・キリストと新しく永遠の契約を結ぶかしない限り、変わることはありません。そうすれば、主はあなたを守ってくださるでしょう。同じ聖霊がパウロに、教会が守るであろうローマ人への手紙を書くよう促したことを忘れないでください。

「そういうわけで、今はキリスト・イエスにある者、すなわち、肉に従って歩まないで御霊に従って歩む者には何の定めもありません。」(ローマ8:1)

神の言葉ではない他の翻訳では、通常「肉に従わず、御霊に従って歩む者」という箇所が省略されていますが、1611年に出版されたジェームズ王欽定訳聖書は、聖霊によって公認された唯一の神の言葉であり、この箇所は、不義を喜ぶ多くの無知な信者たちに対し、キリスト・イエスに在ると主張しながら肉に従って歩み続けるなら、依然として裁きと非難を受けるであろうことを示すために、この箇所を含めています。パウロもまた、聖霊の導きによってガラテヤ人への手紙の中で、教会が守るべきこととして次のように書いています。

「肉の行いは明らかです。それは、姦淫、不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、憎しみ、争い、ねたみ、憤り、争い、分裂、異端、ねたみ、殺人、泥酔、浮かれ騒ぎ、そしてそのたぐいのもです。わたしは以前からあなた方に言うておきます。このようなことを行う者は神の国を受け継ぐことはありません。」(ガラテヤ人への手紙 5:19-21)

したがって、改宗後も血や不正に得た富や地位などを手放さずに保持するなら、あなたは不潔、好色、偶像崇拜を通して自分自身への攻撃の扉を開いたのであり、あなたがこの世の野心を得る前に契約した同じ霊たちがあなたを攻撃し続け、あなたを神から引き離したり、あなたのクリスチャン生活を無に帰させて最終的に死に至らしめたりするでしょう。

この悪魔の罠から逃れるために何をやるのでしょうか？

ボンデージ？

使徒ヨハネはその本の中でこう答えています。

「彼を信じる者は罪に定められない。しかし、信じない者はすでに罪に定められている。神の独り子の名を信じなかったからである」（ヨハネ3:18）。

獄吏が再びパウロとシラスにこの質問をしたとき、二人は見事な答えを返しました。

「先生方、救われるためには何をすればよいのでしょうか？」するとパウロとシラスは言いました。「主イエス・キリストを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。（使徒行伝16:30-31）」

主イエス・キリストをあなたの主であり救い主であると信じ、口で告白し、その教えに従うなら、あなたは救われます。悪魔の罠から逃れるもう一つの方法は、悪魔の秘密結社や組織に加わって悪魔と契約を結ばないことです。しかし、もし加わってしまったら、あなたはすでに悪魔の罠にはまっており、緊急かつ真剣な解放が必要であり、さもなければ滅びるでしょう。ただ悔い改めてペンテコステ派の教会に通い始めるだけでは、悪魔はあなたに契約を破ったとして死刑を宣告することになります。あるいは、悪魔の秘密結社に入信するため、あるいはあなたの心の望みを叶えるために血を流した際に霊的に受けた死刑判決を再び行使することになります。そして、もし悪魔があなたを殺すことに成功しなかったとしても、あなたの信仰を失わせるために、あなたの生活を非常に苦しめるでしょう。あなたがすべきことは、次のソロモンの勧めに従うことです。

「鹿が狩人の手から逃れるように、鳥が鳥捕り人の手から逃れるように、あなたは自分を救い出せ」（箴言6:5）。

悪魔である狩猟者、あるいは鳥捕師の手から逃れるには、悔い改め、公然と告白し、すべてのオカルト資料を神の油注がれた人に焼き尽くしてもらうこと、悪魔の儀式を通して得た血や不正に得た財産をすべて手放すこと、あらゆるオカルト活動から身を引いて主イエスに完全に帰依すること、つまり悪魔との契約を破ることが必要です。そうすることで、主イエスと新しく永遠の契約を結ぶことができます。そうすれば、主はあなたを、神の油注がれた人のもとに置き、適切な指導と訓練のために契約関係にある人を通して、あなたを守り、導き、解放してくださいます。ただし、信仰を告白するすべての人が主イエスと契約関係にあるわけではないことを、私は強く強調したいと思います。

もしあなたが主と、そしてそのような契約を結んでいる聖徒たちとこの契約を結びたいと望むなら、この書の「主イエスと教会との契約」について述べている章を指針として参照してください。もしあなたが主との契約、誓約、あるいは秘密保持の誓いを破ったなら、悪魔よ、私がこの本の後の章で説明する、主と教会との契約の過程を経て、主イエスと新しく永遠の契約を結ばなければ、あなたは悪魔との直接の戦いに身を投じることになり、神が介入してあなたを方向転換させなければ、あなたは命を失うことになるでしょう。

なぜでしょうか？それは簡単です。自然法を支配する聖霊の法則は、すべての契約違反者は死ぬと定めています。そしてサタンは、犠牲者が契約を破った時、この法則を行使して彼らに対して攻撃を仕掛けます。悪魔との契約、誓約、あるいは秘密の誓いを破り、生き続ける唯一の答え、あるいは解決策は、主イエス・キリストの献身的な弟子となり、霊の父（神）と新たな契約を結ぶことです。

---

しかし、もしあなたが真のクリスチャン、あるいは主イエス・キリストの弟子であるならば、救い主（イエス・キリスト）との契約を破るなら、あなたは滅びます。なぜなら、あなたを滅ぼすよう神が命じるのは悪魔だからです。多くの人は、悪魔が神の使者であり、不従順の子らに神の怒りを処刑したり、復讐したりすることを知りません。イザヤが何と言っているか考えてみてください。

「見よ、わたしは炭火を吹き出してその仕事をするための道具を作り出す鍛冶屋を創造した。また破壊者を創造して滅ぼすために滅ぼす者を創造した。」（イザヤ書 54:16）

ここで言及されている鍛冶屋と浪費家は悪魔であり、彼は神の承認なしには、信者であろうと不信者であろうと、火に石炭を吹き込んだり、何かや誰かを滅ぼしたりすることはできません。多くの人にとってこれは非常に奇妙に聞こえるかもしれませんが、事実です。先ほど申し上げたように、真のクリスチャン、つまり主イエス・キリストの弟子が主との契約を破れば、その人は滅びます。聖霊がパウロを通して教会に警告された様子を見てみましょう。

「もし私たちが真理の知識を受けた後も、故意に罪を犯すなら、罪のためのいけにえはもはや残っていません。ただ、敵対する者を焼き尽くす裁きと激しい怒りを、恐れながら待ち望むだけです。モーセの律法を軽んじた者は、二、三人の証人の前で、容赦なく死にました。自分を聖別した契約の血を聖なるものとみなし、恵みの霊を侮辱した者は、どれほど重い罰に値するのでしょうか。私たちは、『復讐はわたしのすることだ。わたしが報いをする』と主は言われる。そしてまた、『主はご自分の民を裁かれる』と言われた方を知っています。生ける神の手に陥ることは恐ろしいことです。』（ヘブライ10:26-31）

そしてパウロはヘブライ人と全教会に警告しながら、再びこう言いました。

「一度光を受けて、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかり、神の良き言葉と、来たるべき世の力を味わった者たちが、もし背を向けて離れ去れば、再び悔い改めに立ち返ることは不可能です。なぜなら、彼らは神の御子を再び十字架につけ、公然と辱めているからです。」（ヘブライ6:4-6）

神の基準は明確で理解しやすいものです。なぜなら、神は公平な神だからです。あなたが回心の恵みを受け、主に従い、天からの賜物、神の良き御言葉（すなわち、神の啓示と御言葉の知識に従って歩むこと）、そしてその他の天の至福を享受した後、故意に罪を犯したり、信仰を失ったりするなら、あなたは裏切り者、契約違反者、そして神の敵となってしまいます。そして、善良なる主は、あなたに向けられていたすべての善良さと慈悲を撤回し、あなたをサタンに引き渡して滅ぼされます。私は、このミニストーリーで起こったいくつかの例を挙げ、私の主張を補強し、また神の契約を軽視し、軽視する人々への抑止力となるようにしたいと思います。

家族と一緒に省に来た男性がいました。彼の妻は強い魔女です

彼らは男の魂をひょうたんに閉じ込め、自分たちの霊的宮廷、あるいは霊的中心地へと安置した。問題の男は、魔女たちによって破滅の印を押されていた。彼と彼の家族は多くの宗派に通っていたが、改宗することはなかった。

彼らが、盲目の魔女に取り憑かれた長男の問題で私を訪ねてきた時、私は彼らが真の悔い改めをしたことが無いことを知りました。彼らにはキリスト教の基盤がありませんでした。水と聖霊のバプテスマを受けていなかったからです。彼らは罪を犯した相手に償いをしたことなど一度もありませんでした。とにかく、私は彼らの基盤から始め、水と聖霊のバプテスマを受けた後、彼らが悪魔と結んでいくべき、縄、誓約、契約などを断ち切るために解放の道を歩み始めました。この件で、妻は自分が女性だけが会員である魔術裁判所に属していることを告白しました。実際、彼女は自分が所属する魔術裁判所、あるいはおそらくはセンターの3番目の司令官であると告白したのです。

彼女は、夫を生贄に捧げることや殺害することを拒否したため、何年もの間、ひどい苦しみに苦しんでいたと語った。彼女はむしろ、夫の名前、財産、そして夫が営んでいた事業を彼らに渡し、それらをそこに閉じ込めたのだと語った。その後まもなく、サバナ銀行の元職員だったこの男は、銀行が経営難に陥る前から解雇され、その日暮らしを始めただけでなく、半ば乞食のような生活を送っていた。妻は男の服や靴すべてに呪いをかけ、普段は髪を梳かすのに使っているリモコンのようなマッチ棒で、男のあらゆることを操っていた。魔術裁判では、罰として男の足を焼くこともあり、男は激しい肉体的な苦痛を味わうことになる。彼女はまた、1996年以来、自分の夫を連れてくるまでは、他の会員の配偶者や母親に殺された夫や息子の血を飲むことを禁じられていたと告白した。彼女は、夫の脚の痛みが悪化したため、彼女が連れて行った霊能者によって、夫が知らず知らずのうちに別の魔術の宮廷に招かれていたことを明かしました。そしてついに、彼女は2002年6月から12月までの6ヶ月間に夫を生贄に捧げるという誓約に同意したことを告白しました。どのように？彼女は夫に病気を患わせ、その過程で血を抜き取り、夫が死ぬまで血液バンクに貯めていくつもりでした。しかし、2002年6月末に彼らは私のところにやって来ました。これらの告白の後、私は夫と彼の家族のために祈り、夫に課された契約と死の宣告を破りました。しかし、これらの告白にもかかわらず、妻はマッチ棒以外は何も使っていないと主張し、手術や会合に出かける時は大きな鳥に変身していたと主張し、破壊のために材料を引き渡そうともしませんでした。一週間、主の御顔を求めた後、私は夫に電話をかけ、どうすべきかを告げました。私は彼に、主の御顔を求めて名前を変え、ローンで購入したバスの詳細やその他の書類も新しい名前に変更し、元上司のところに行って、彼がどのように彼を騙したかを告白して賠償し、妻が

彼が本当に回心し解放されるようになるまでには、他にもいくつかの助言がありました。私は彼と彼の家族の解放を容易にするために、彼に与えた助言がありました。彼がしたのは、自分と家族の名前を変えることだけでした。妻は彼を操り、彼は移動に使うバスの詳細や他の書類を変更することを拒否しました。また、元上司のところへ賠償に行くことも拒否し、そうする必要はないと彼に言った妻の助言を受け入れました。もし彼らが神に従うことを拒否するならば、私は彼らをミニストリーの兄弟たちに紹介することも、私の下にある他の器との交わりを与えることもしないと、私は彼に言いました。むしろ、交わりと教えのために個人的に私のところに来るようにと言いました。妻は、私が彼女の侵入を許し、私の下にある主の羊を滅ぼすつもりがないと知ると、夫に出て行く時だと伝えました。私は夫に、もし私たちのもとを去りたいのなら、エジプト（この世）ではなくバビロン（つまりペンテコステ派のいずれかの教派）に行き交わりを持つように懇願しましたが、妻の策略と夫の頑固さが相まって、夫は戻ってしまい、聞いた真理をすべて捨ててしまいました。妻の助言のおかげで彼らは新しい名前を捨て、古い名前に戻すようになりました。これは2002年11月中旬頃に起こり、その時から彼のバスは頻りにトラブルを起こし、夫は病気になりました。この状態は、戻ってからちょうど6ヶ月後の2003年5月頃に夫が亡くなるまで続きました。しかし、一つ注目すべき点は、夫が亡くなる3日前に親戚が病院に駆け込み、夫の体内に血液がないことがわかったことです。妻は約束を守り、夫が亡くなるまで血を抜き続けました。今でも多くの人が同じ運命に苦しみ、どうしたらいいのかわかりません。今このことから学び、真理を知っている油注がれた神の人のもとに助けを求めてください。

もう一つの例はこれと似ています。1997年3月頃、ある兄弟が、結婚を申し込んでいた魔女の力を持つ女性を連れて宣教に来ました。二人とも新生クリスチャンとして宣教に来ました。宣教の後、私は当時私の下にあった二人の兄弟と一緒に、彼らに水のバプテスマを授け、後に聖霊によるバプテスマを宣教しました。すると彼らは新しい言語で話し始めました。その後、私は彼らに神の国の基盤について教え、解放の過程を導きました。同時に、私は霊的に弱くなり、眠気を感じるようになりました。以前は午前1時から2時の間に起きていた夜の祈りのために、午前3時から4時頃に起きるようになりました。私は何かがおかしい、周囲に悪霊があると文句を言い続けました。洗礼を受けた日から3週間以内に、妊娠8ヶ月だった妻が、娘たちが訪れた後に私が住んでいたラゴスのマザマザの敷地内で転倒し、お腹を地面か床に打ち付けました。

一時的に麻痺状態になりました。祈った後、彼女は歩き始めましたが、足を引きずっていました。しかし、彼女を流産させようとする悪魔の計画は失敗に終わりました。私はすぐに断食と祈りを始めたのです。断食三日目の夜、静かに礼拝していると、主の御霊が私に語りかけ、問題の少女は私を滅ぼし主の羊を散らすようにこの指示を受けた魔女だと告げました。私は主の言葉を妻に伝えましたが、彼女は疑念を抱きました。しかし私は少女と向き合い、私が受けたメッセージを確認することにしました。メッセージを受けてから二日後、彼女はやって来ました。私は彼女に、自分が何者で、どのような使命を持っているかを告白するように言いました。さもなければ、私は夜の祈りの中で彼女を霊的にキリストの裁きの座の前に連れて行き、彼女に対して何らかの罰を宣告し、それが物理的に現れるでしょう、と言いました。彼女は非常に不安になり、そうしないでほしいと懇願しました。彼女は心を開いて、自分の使命と自分が何者であるかを私に明らかにする準備ができていると言いました。

彼女は自分が魔女であり、それ以前に15人を殺害したことを告白した。待ち合わせ場所はラゴスのピクトリア島のバービーチで、一緒にミニストリーに入ったブラザーは、彼女が主な目的を達成した後に殺害対象に指定されていたと語った。私は彼女に尋ねました。「あの兄弟をどうやって知ったのですか？あなたの魔術グループの主なターゲットは誰ですか？」彼女は、ある夜バービーチで会合を開いていた時のことです。リーダーが壁の大きなスクリーンに杖を向けると、大きな敷地内のバンガローが現れ、そこに住んでいた牧師が肉体的に引き裂かれたと告げられました。神は牧師とその家族を使って彼らの計画を妨害したのですが、彼を捕まえようとしたあらゆる努力は、神が牧師とその家族を守っているだけでなく、彼には行動の仕組みがないため、無駄になったのです。誰かが彼らに加わり、内部から活動しなければならぬと告げられたそうです。彼女はその瞬間、その任務を委任されました。問題の男性（牧師）をどうやって知ったのか尋ねると、彼らは彼女と一緒に来た兄弟の写真を持ってきました。その兄弟は当時未信者でした。別の魔女から虐待を受けたという報告を受けて監視されていた兄弟は、間もなく生まれ変わり、天国に導かれると告げられました。牧師は、ミニストリーの一員である別の兄弟から、その兄弟が履く靴と腕時計、そして会う場所を見せられました。そして、それはたまたまラゴスのフェスタック・タウンにあるクラブでした。実を言うと、彼女がその兄弟に会った日は、フェスタック・タウンのクラブでした。彼女が誰かと話し合っていると、当時まだ未信者だったその兄弟が彼女に来るように手招きしました。普通なら、お互いに面識がないので彼女は彼を無視したでしょうが、その時、彼女は再び写真を見て、彼が前に見せられたのと同じ腕時計と靴を身につけていたので、すぐに行くようにという声が聞こえました。

あまり愛の進展はないものの、二人は恋人同士になり、関係を始めて二ヶ月後、兄はミニストリーの会員である友人から福音を説かれて生まれ変わり、この少女も生まれ変わりました。一ヶ月間彼らに奉仕した後、ミニストリーの会員である兄が二人を私のところに連れて来てくれました。そこから彼女は活動を始めました。彼女はまず私と家族の祈りの生活を無力化するために睡眠波を注ぎました。先ほども述べたように、これは十日間私たちに影響を与え、私は不満を言いながらも、日中は働きすぎだと自分を正当化していました。彼女が私に注ぎ込んだ情欲の波は、神が私を守ってくれたため私を捕らえることはできませんでしたが、私は彼女に対しても、妻以外の女性に対しても何の感情も抱いていませんでした。ある夜、彼女は自分よりも強い魔女の力を持つ母親に助けを求めました。実際、彼らの家族には七人生まれましたが、全員が女の子で魔女でした。彼女によると、問題の夜、母親はあらゆる魔力を使って私の霊を呼び出して私を滅ぼそうとしましたが、どこからともなく旋風のような炎が降り注ぎ、彼女の体の一部を焼いて深刻な痛みと傷跡を残しました。その後、母親は暴露と破滅を避けるために私たちのところに来るのをやめるよう警告しましたが、彼女はまだ成功できると信じていました。どうやら、だからこそ、私が彼女に立ち向かい、もし真の正体と使命を明かさなければ、私は彼女に対して裁きを下し、それが物理的に現れると警告した時、彼女は恐れをなしたようです。主が彼女の真の正体を明かす前、彼女は私に会いに来る前に、弟を妊娠して2ヶ月だと告げていました。

私はその兄弟に電話して尋ねました。彼は知らなかったと言いましたが、もしそれが真実だと証明されれば、彼女と結婚したいと願うだろうと言いました。しかし、主の啓示によって、私は彼らに不道德な関係を結ぶことはできないと告げました。私は彼らに、離れていなさい、当面は結婚のことは忘れなさい、神の国と神の義を求めなさい、そうすれば時が満ちれば、結婚を含む他のすべてのものが彼らに与えられるだろうと警告しました。そこで少女が告白を始めるとき、彼女は私に、妊娠の話は私を偽装結婚に誘い込むための策略であり、私がこの聖句に反する行動をとるから、誘惑と不道德の霊が私に移るのだと言いました。

「だれに対しても、急に手を出してはならない。また、他人の罪に加担してはならない。自分を清く保ちなさい。」(テモテ第一 5:22)

第二に、彼女は王女であり、既に霊的に結婚していたため、肉体的に結婚することはできず、兄は72時間以内に殺害されたはずでした。当時、この少女はイロリン大学の学生で、結婚の約束をほぼ交わしていた同じ大学の別の男子学生を殺害しました。この男子学生が天界教会の会員である霊能者と接触し、結婚を成立させるためにいくつかの儀式を行った後、少女の霊の夫は、契約違反で彼女を告訴しました。彼女の母親が彼女のために弁護し、当時ラゴスのフェスタック・タウンで両親と暮らしていた男子学生が少女の代わりに犠牲になりました。そして3日以内に、現在まで行方不明となっている警察のパトロールチームが不審な銃撃を行い、彼は死亡しました。私は後に少女の救出を指揮しましたが、さらなる啓示が出たため、それは恐ろしい経験でした。これは私が文書で開示し続けるものではありませんが、彼女が破棄のために提出したオカルト資料の一部に、謎めいた黒いウェディングドレスが含まれていました。私はこれまでそのような、あるいは酷似したウェディングドレスを見たことはありません。彼女は、霊の夫と結婚した際にそのウェディングドレスを着用し、そのドレスを着るたびに、霊界に行って霊の夫と寝るか、彼がこの世に来て彼女と寝るかのどちらかになると言っていました。彼女が解放された後、母親は、もし私たちとの交わりをやめなければ彼女を滅ぼすと誓いました。彼女は、自分（母親が夫（少女の父親）にしたように、少女の人生を無価値なものにする）と脅しました。私は少女に、母親の脅しを無視して主に従い続けるように勧めました。なぜなら、主は私たちや他の信仰深い信者を守ってくださっているように、彼女も守ってくださると知っているからです。しかし、彼女はどうしても去ろうとしていました。しかし、彼女は出発前に、兄（つまり彼女の元恋人）と私の妻と私に電話をかけ、兄に牧師職を辞めてはいけないと告げました。彼女の考えでは、神はこの牧師とその家族を愛し、十分な保護を与えているからです。また、兄にこの世に戻ってはいけないと警告しました。死刑判決が下され、彼らのスタッフが彼を監視しているからです。もし彼が信仰を捨てたら、彼らは即座に彼を殺し、その判決が下れば、目的を達成するまで休むことはないだろうと彼女は言いました。

彼女は、彼が霊的に弱っていたため、御霊によって昇るよう勧めました。そしてついに、彼女は彼に素晴らしい贈り物を与えました。それはメアリー・バクスター著の『地獄の神の啓示』です。そして、地獄に行かないように警告しました。これらの啓示と警告を武器に、私は彼を息子のように、弟のように、真の友のように守り始め、非常に熱心に、そして寛容に見守っていました。彼は霊的に非常に弱かったにもかかわらず、肉欲に溺れていました。彼は夜の祈りや断食を嫌い、神の言葉を学ぶために長く座ることができませんでした。私と、彼を牧師職に導いた兄弟は、お金を出し合い、オココマイコに彼のためにアパートを借りました。

ラゴスに来る前に、彼は兄弟と不法に住んでいたからです。私は時々彼を家に招き、家族と断食と祈りに参加させ、彼が立ち直れるようにしましたが、それが終わると彼は振り出しに戻ってしまいました。私と家族は2年間彼に食事を与え、教え、助言し、祈り、この兄弟のために苦しみました。その度に、彼の元恋人が去る前に与えた忠告と警告を彼に思い出させようとしたのですが、全て無駄でした。それどころか、彼はかつての未信者の友人たちと出かけることに喜びを感じるようになりました。彼らは、良心の声に従う未信者の中には、到底できないような、汚く危険な生活を送っていました。彼は女性たちとデートを始め、密かにホテルに連れ込んでいました。主は彼の行動を明らかにし始めましたが、私が彼に聞いただと、彼はいつもそれを否定しました。省は彼を叱責し続け、彼が罰を受け悔い改めた後、停職処分と復職を繰り返しました。最終的に、私は彼をオコマイコから追い出すよう説得することに成功しました。当時彼が住んでいた家は以前は売春宿として使われており、その隣の家は今もなお同じ商売に使われているからです。また、彼がフェスタック・タウンに移り住んだことで、私は彼を監視できる機会を得ることになります。彼がフェスタック・タウンに移った後の2001年12月25日のセミナーで、主は妻に「私たちの中には呪われたものがある」というメッセージを与えました。私は皆に、それぞれ自分自身を省みて、秘密裏に何をしているのかを明らかにするように頼みました。この兄弟を含め、全ての兄弟は無実を主張しましたが、私は神は嘘をつかないことを知っていましたし、今も確信しています。そこで私は、私たちの中には呪われた者が誰なのかを主に明らかにしてくださいよう祈りました。まず、彼は2002年2月の第1週頃に自動車事故に遭い、死亡しました。シートベルトを締めていなかったため、彼はシートから飛び降り、フロントガラスに頭を打ち付けました。フロントガラスは粉々に砕け散りましたが、彼は頭と体に軽傷を負いました。これは、彼が犯した違反行為により2週間の停職処分と処罰を受けた後のことでした。妻ともう一人の兄弟と共に彼を訪ねた時、私たち3人は彼に、命を軽視するのはやめなさい、もしこのようなことが再び起これば、彼は生き残れないかもしれないと、真剣に警告しました。そして2002年4月7日の交わりの後、私は妻とドライブに出かけることにしました。その途中で、妻が予定外に兄弟を訪ねることを提案しました。最初は気が進まなかったのですが、神が彼女を通して語っておられると確信したので、後に折れました。彼の家に着くと、私たちは彼が一人の女性と一緒にいるところを目にしました。その女性はナイトドレス、歯ブラシ、石鹸置きなどを持って来ただけでなく、一緒に寝た後の食事の準備をしていました。彼はひどく恐れ、神からその日捕まると告げられたと告白しました。私と妻は2分以内にその場を離れ、彼を呼び出して教会に、あの女と何をしていたのか説明させましたが、彼は二度と戻ってきませんでした。2週間待っても彼は来なかったため、コリント人への第一の手紙5章3-13節に従い、肉が滅ぼされ、霊が終末の日に救われるようにと、彼を悪魔に祈りの中で引き渡しました。その間に彼は性的に奔放になり、完全に以前の生活に戻ってしまいました。もはや罪を隠すことはなく、まるで服のように女たちを着替え始めました。この状態が続き、様々な女たちが彼の家を訪れるようになり、彼の浮気行為をめぐって彼女たちは絶えず喧嘩をしていました。

2002年12月のセミナーで、彼と、私たちが知っている他の背教した兄弟たちが回復するように祈っていた時、主ははっきりとした声で私に語りかけられました。彼は主のもとに戻るつもりはないので、彼のことを忘れなさい、と。彼は悪魔と新たな契約を結び、それが終わるとすぐに犠牲にされる、と。私はこのメッセージを2003年12月31日に受け取り、兄弟たちに、彼のためにもっと熱心に祈るよう促しました。そうすれば、もしかしたらこの宣告を覆して彼を救うことができるかもしれないからです。そして16日、

2003年6月、家主は、この家に引っ越してきた時に兄が私に渡した本からコピーした私の電話番号に電話をかけ、私に懇願した。

兄弟の活動について報告してもらうために、彼は来てくれました。私は彼に、兄弟は14ヶ月前に教会を去ったので、今後は彼とは用事がないと伝えました。しかし彼は、兄弟のことを報告できる信頼できる人物は私だけだと主張し続けました。

そこで私は、主の御顔を求めてフィードバックをさせて欲しいと彼に言いました。私が主の御顔を求めた時、主は私に以下の3つのことを行うように命じられました。

1. 私自身と省を兄弟たちの残虐行為から免責すること。
2. 兄弟が冒した主の名を讃えるため
3. 神は兄弟の命を数えてそれを終えたので、もし彼がこのまま生き続けるなら滅ぼされるだろうという最後の警告を兄弟に与えるため。

私は主に従い、パーソナルアシスタントと共に出向き、家主、妻、そして弟と約束を交わした後、主が私に告げられた通りことをしました。しかし、家主と妻から聞いた話によると、ある事実が明らかになりました。弟は二人の娘と同棲していたが、数ヶ月後に彼女たちを追い出したのです。そして、現在同棲している女性は2003年1月頃に引っ越してきたばかりで、妊娠6ヶ月くらいで、その娘は両親と共に弟と結婚を誓っていたのです。私は家主夫妻に、弟が精神的に狂ってしまい、その後牧師職を辞めたことを告げました。弟のこと、そして彼がどのようにしてこの窮地に陥ったのか、全てを話しました。また、新しい住居を見つけて出て行けるよう、少しだけ辛抱強く待ってくれるよう懇願しました。話が終わると、私とパーソナルアシスタントは彼を傍らに呼び、私たちの忠告に従わなければ破滅に向かうだろうと警告し始めました。私たちが去る間、彼は何も言いませんでした。2003年7月7日曜日、大家から再び電話があり、兄の仕事仲間から電話があり、兄がナイジェリア東部で警官に射殺されたと告げられた。その日遅く、兄が無謀な生活を送り、神に罪を犯していた間、一度も私を訪ねてこなかった他の友人たちが、私に何が起こったのかを伝え、同情するために訪ねてきた。大家は、妊娠6ヶ月の少女の伝統的な結婚式のために2003年7月1日に村を訪れ、その儀式が2003年7月5日土曜日に行われたと話した。オカルト社会の法によると、この破滅の刻印を持つ者は、彼を探している者の罠に落ちた場合、神からの超奇跡がない限り、72時間または3日以内に殺されなければならない。そのため、神との契約を破り、6年間彼を追跡続けた魔術裁判所またはセンターに属している可能性のある魔女であると疑われている不信者と結婚したため、彼は最終的に神との契約を破り、悪魔と別の契約に入り、正当な理由もなく、伝統的な結婚から2日または48時間後に、いわゆる妻と弟の目の前で射殺されました。この事件が起こったときに居合わせた彼のいわゆる妻は動揺せず、地獄で歯ざりしているこの兄弟の埋葬から3日後にラゴスに戻り、兄弟のすべての持ち物をまとめて実家に戻りました。彼女にとって、これは使命達成であり、彼女は悪魔によってさらに邪悪な行為を犯すように促される一方で、兄弟は最終的に修復または贖罪の機会を失いました。

どうやら、今日キリスト教世界ではこのようなケースがたくさんあるようです。火遊びをやめてください。私たちの主であり救世主であるイエス・キリストの名において、あなた方全員に警告します。あなた方が本当に悔い改め、罪を告白し、それを捨てるなら、イエス・キリストは今もあなた方を救う用意ができています。

## 第6章

### 神とイスラエル、そして彼らの第二の息子であるダビデとの契約

#### そして最後の王

イスラエル人は、神によってイスラエルと名付けられたヤコブと、神が多くの民の父となると誓約を結ばれたシリア人アブラハムの子イサクの二人の息子、エサウの双子の兄弟の子孫です。彼らの父ヤコブはイサクの双子の息子の末っ子でした。ヤコブは母リベカと共謀して父イサクを欺き、兄エサウに与えられるはずの祝福を巧妙に受け取りました。しかし、これはエサウが赤い煮物の壺のせいでも、何気なく長子の権利をヤコブに売り渡した後のことでした（参照：ヤコブの子 ...

創世記25:29-34）。エサウのこの愚かな行為によって、彼は長子の権利を軽視しただけでなく、長子としての相続権を失い、永遠の運命も変えられてしまいました。そして、老齢のエサウが父から祝福を受けるべき時が来た時、神はリベカと彼女の弟ヤコブの計画、すなわちエサウの祝福を巧みに奪う計画を実行させました。こうしてヤコブは父イサクから、両親の長子であるエサウのために用意された祝福を受けました。そして、その祝福はこう記されています。

「それゆえ、神はあなたに天の露と地の肥えた物と、豊かな穀物とぶどう酒を与え、人々はあなたに仕え、諸国の民はあなたにひれ伏す。あなたは兄弟の上に君臨し、あなたの母の子らはあなたにひれ伏す。あなたを呪う者は呪われ、あなたを祝福する者は祝福される」（創世記27:28-29）。

イサクのこれらの宣言により、神によってイスラエルと名付けられたヤコブは、同胞と地球上の他の国々の君主となり、神はヤコブとその子孫をあらゆる呪いから守り、またヤコブを祝福するあらゆる国や民族を祝福し始めました。神は後にヤコブが兄エサウの怒りから逃げているときに夢の中でこのことを確認し、こう告げた。

「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの地を、わたしはあなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は地の塵のように多くなり、あなたは西に東に、北に南に広がる。地のすべての部族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。見よ、わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行ってもあなたを守り、あなたをこの地に連れ戻す。わたしは、あなたに約束したことを果たすまでは、あなたを見捨てない」（創世記28:13-15）。

神は約束を守り、しもベモーセを通してイスラエルをエジプトの奴隷状態から解放し、彼らと特別な宝、聖なる国民、祭司の王国として契約を結ばれました。これは一般に旧約聖書あるいは旧約聖書と呼ばれています。イスラエル人がエジプトにいた間、ヨセフの要請によりゴシェンに留まり、羊飼いであったためエジプト人から隔離されていたことを思い出してください（創世記46:33-35参照）。エジプト人は羊飼いを忌まわしいものとみなし、彼らを隔離しました。羊飼いが霊的に表す真の福音の牧師が、この世の体制によって隔離されているだけでなく、神によっても体制全体から隔離されているのと同じです。羊飼いがどれほど探求しやすいかお分かりですか？

神の知恵とは、人間に拒絶され、忌まわしいとされるものを、神は自ら契約を結ぶことを選び、人間に高く評価されるものを忌まわしいとみなし、神と契約を結ぶ民がそのようなものや人々から抜け出すことを望んでおられるということです。出エジプト記19章3-25節に記された、イスラエルという国家との神の契約の成立、出エジプト記20章1-17節に記されたその条件、出エジプト記20章18-26節に明確に示された神の力の公的な表明、そして最後に出エジプト記24章1-2節でそれがどのように確認されたか。

12節は、神と選ばれた民の間の救済関係の正式な基礎を構成していましたが、それが新しい契約に取って代わられました。パウロがユダヤ人に説明していたのは、

「もし最初の契約に欠点が無かったなら、二番目の契約を求める必要などなかったでしょう。主は彼らに欠点を指摘してこう言われました。『見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家とに新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。新しい契約と言うことによって、主は最初の契約を古いものとされたのです。朽ち果て、古びたものは、消え失せようとしています。』」（ヘブライ人への手紙8:7-8,13）

イスラエル人は、出エジプト記 19:8 と 24:3 & 7 に書かれているように、主に従うことを誓います。そこにはこうあります。

「民は皆、声を揃えて答えた。『主が言われたことは、すべて行います。』  
モーセは民の言葉を主に伝えた」という教えに基づいて、モーセは民に「契約の血」を振りかけた（出エジプト記24:8参照）が、出エジプト記32:1-35ですぐに破られた。

歴史的に、神がイスラエルと契約関係を結ぶに至ったのは、神がアブラハムに彼の子孫が経験するであろうビジョンを見せ、アブラハムに対する約束を成就したと見ることができます。

「そして神はアブラムに言った。『あなたの子孫は、彼らの土地ではない所で寄留者となり、彼らに仕え、四百年の間苦しめられるであろう。そして彼らが仕えるその国民を、わたしは裁く。その後、彼らは多くの財産を持って出て来るであろう。しかし、四代目には彼らは再びここに戻ってくるであろう。アモリ人の罪はまだ満ちていないからである。』（創世記 15:13-14,16）

神はここでアブラハムに、彼（アブラハム）が深い霊的な眠りに落ちた後、彼の子孫に何が起こるかを告げました。ある人はこう尋ねるかもしれませんが。「神は、ご自分が友と呼ぶだけでなく、契約を結んだ人の子孫に、なぜこのような苦難を許されるのでしょうか？」 答えは簡単です。もしイスラエルの民がエジプト人に苦しめられていなければ、モーセとアロンの言葉に耳を傾け、彼らの言葉を信じようとしなかったでしょう（創世記4:29-31参照）。

また、イザヤ書48章10節には、「見よ、わたしはあなたを精錬した。しかし銀ではなく、苦難の炉（すなわち激しい苦しみ）であなたを選んだ」と記されていますが、これは召された者たちが苦難の炉、すなわち激しい苦しみを通して選ばれることを示唆しているのです。だからこそパウロはヘブライ人への手紙5章8節で、イエスは神の子でありながら、苦しみを通して従順を学んだと書き、またルカによる福音書14章21-22節では、パウロとバルナバがリストラ、イコニオム、アンティオキアの聖徒たちに、私たちは多くの苦難を経て神の国に入る必要があると勧めています。これらの説明から、神はイスラエルの民が苦難を経験し、彼らの苦しみを終わらせてくれる人なら誰でも受け入れる用意ができた後、彼らにご自身を示そうとしていたことが明らかです。そして、彼らを救うことで、イスラエルをそのような苦しみの中に閉じ込めた民を罰することになるのです。

イスラエルが奴隷状態から解放され、彼らを苦しめたその同じ国民を通して、彼らが豊かな財産を祝福されるようになることです。これはまさに、迫害や試練に耐えてキリスト・イエスにあって聖なる生活を送る覚悟のある聖徒たちに対して神が今日行っておられることです。彼らが最後まで試練や迫害に耐えるなら、神から報いを受けるだけでなく、悪魔が神の民を悩ませたり攻撃したりするために用いた器を神は厳しく罰せられます（参照 テサロニケ人への手紙 II 1:6）。重要なのは、この聖句にあるように、イスラエルの民、エジプト人、そしてエジプトの地のすべての混血民は、祭司を除いて皆、奴隷としてファラオに売られたということです。

「なぜ、私たちと土地をあなたの目の前で死なせなければならぬのですか。私たちと土地を食物と引き換えに買い取ってください。そうすれば、私たちと土地はファラオの奴隷となります。そして、私たちに種を与えてください。そうすれば、私たちは生き延びて死なず、土地は荒れ果てません。」ヨセフはエジプト全土をファラオのために買い取りました。飢饉が彼らを襲ったため、エジプト人は皆自分の畑を売ったからです。こうして土地はファラオのものとなりました。ただし、祭司たちの土地は買い取らなかったのです。祭司たちはファラオから割り当てられた分を与えられ、ファラオから与えられた分を食べていたので、彼らは土地を売らなかったのです。ヨセフは民に言いました。「見よ、私はさきよ、あなたたちとあなたたちの土地をファラオのために買い取った。見よ、ここにあなたたちのための種がある。あなたたちはその土地に蒔きなさい。」（創世記47:19-20, 22-23）

この場所で起きた出来事から、当時エジプトの地に住んでいたエジプト人、イスラエル人、そして他の民族がファラオの奴隷であったことは明白です。ですから、人間的な観点からすれば、モーセがファラオに近づき、イスラエル人の解放を要求したことは間違っていました。なぜなら、モーセはファラオの宮殿で育ち、この法律を知っており、皆から王位継承者としてみなされていたにもかかわらず、これらすべてを放棄して同胞とともに苦しみを受けることを選んだからです。だからこそ、主がモーセにファラオに会いに行き、イスラエルの民を解放して荒野へ三日間の旅に送り、主に犠牲を捧げるよう要求するように命じた時、モーセは何度も抵抗したのです。もしファラオが、長い抵抗の末、モーセとアロンの3日間の旅の要求に従い、3日間の旅程が終わるまでイスラエルの民を追いかけなかったなら、神はモーセに、神の誓いを破らないためにイスラエルの民をエジプトへ連れ戻すよう命じたでしょう。しかし、聖書にはこう記されています。 \_\_\_\_\_

「神はモーセにこう言われました。『わたしは、わたしがあわれもうと思う者をあわれみ、わたしがあわれもうと思う者をあわれむ。』このように、あわれみは、望む者や走る者によるのではなく、あわれみ深い神によるのである。聖書はファラオにこう言っています。『わたしがあなたを立てたのは、まさにこの目的のためである。あなたによってわたしの力が示され、わたしの名が全世界に言いひろめられるためである。』」（ローマ9:15-17）

ファラオは名誉の器とされておらず、モーセと約束した3日間の期限を待たずにイスラエルの民を追いかけることを決意したファラオの心を滅亡へと固められたため、神からの慈悲も憐れみも受けられなかった。しかし、この聖句は、これが神の行為であり、ファラオを自らの意志を顕現させるための器として創造した神の行為であったことを証明している。

力。

ファラオはイスラエルの子らについて、「彼らはこの土地に閉じ込められ、荒野に閉じ込められている」と言うだろう。そして私はファラオの心を固くし、彼が従うようにするだろう。

わたしはファラオとその全軍勢に尊敬され、エジプト人はわたしが主であることを知るようになるであろう。(出エジプト記14:3-4)

そして、この言葉の通り、主はファラオの心をかたくなにされました。ファラオは軍勢を集め、イスラエルの民を追跡し始めました。そしてアピブ月16日、すなわち4月17日の夜、エジプトを出発してからちょうど2夜後、ファラオとその軍勢はイスラエルの陣営に近づきました。しかし、イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは彼らの陣営の後ろに回り、雲の柱も神の使いによって後ろに動かされ、ファラオとその軍勢が紅海に到達するまでイスラエルの陣営に近づくのをおぼせました。主の指示により、モーセが海に向かって手を差し伸べると、主は夜通し強い東風によって海を引き戻されました。すると海には乾いた地ができ、水は分かれました。イスラエルの民は乾いた地を歩いて海に入り、16日の夜から4月17日の朝にかけて渡りました。エジプト軍勢、すなわちファラオとその馬、戦車、騎兵は、イスラエル人を追跡し続けながら、海を渡ろうと海に入ろうとした。しかし、神の天使が戦車の車輪を外し、ファラオとその軍勢が激しく制御不能な走り始めたとき、彼らは神が彼らのために戦っていることに気づき、イスラエル人追跡をやめて逃げようとした。しかし、神の命令によりモーセは海に向かって手を伸ばした。すると水がエジプト人、彼らの戦車、騎兵の上に流れ込み、彼らは皆死んだ。一方、イスラエルの民は海でエジプト人の手から神によって救われ、乾いた地を歩いた。彼らも神を畏れ、神とモーセ、そして神のしもべを信じた。

アピブ月17日、つまり4月17日の朝にファラオとその軍勢が死亡したことで、奴隷制度は飢饉のためにエジプトのファラオに身を売ったイスラエルの民と他国からの混成民の死の終焉は、イエス・キリストの死からの復活と同様に、イスラエルの民が海からよみがえり、乾いた地を歩いたことに象徴されています。私たちの主イエスの死からの復活は、ファラオのような悪魔が人類に課してきた死の恐怖に終止符を打ちました(参照:『死の恐怖』)。

(ヘブライ人への手紙2:14-15)ここで注目すべき重要な点は、イスラエルの民が海を渡ったのはアピブ月17日の明け方頃、私たちの主であり救い主イエス・キリストが死から復活された時であったということです。イスラエルの民はファラオとエジプト人の奴隷状態から解放されましたが、誰の所有物にもならず、当時は主も夫もいませんでした。なぜなら、彼らはまだ神を知らなかったからです。神が彼らの所有者、夫、そして救い主となるためには、神とイスラエルの間に絆、あるいは契約が結ばれ、神が彼らのためにこれらの欠落を埋めることができるという確固たる証拠がなければなりません。このため、神は彼らを47日間荒野を導き、彼らの反抗と不平にもかかわらず、必要なものをすべて与え、シナイの荒野に着くまで彼らのためにあらゆる戦いを戦い抜かれました。そして神はモーセを山に呼び、イスラエルの民とヤコブの家への次のメッセージを与えました。

あなたたちは、わたしがエジプト人にしたこと、また、わたしがあなたたちを鷲の翼に乗せてわたしのもとへ連れてきたことを見た。それゆえ、もしあなたたちがわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民にまさってわたしの宝となる。全地はわたしのものだからである。あなたたちはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これは、あなたたちがイスラエルの人々に告げるべき言葉である。(出エジプト記19:4-6)

このメッセージは直接的かつ明確でした。直接的というのは、神がヤコブの家、つまり肉体を持つイスラエル人、そしてその子孫であるイスラエルの民、つまり主イエスと、ペンテコステに始まり、イエスの血によって贖われた教会に語りかけていたという意味であり、雑多な群衆に語りかけたわけではありません。

---

正確には、彼らは神の言葉に従って彼らと交わした契約を守らなければならないという意味です。そして神の契約とは、彼らを祭司の王国、聖なる国民とし、世界のすべての人々にまさって神にとって特別な宝とすることです。これは、イスラエルの真の子孫（すべてのイスラエル人がイスラエル人というわけではないため）と、天に記されている長子たちの教会の会員（注：そのうちの何人かはまだ地上にいます）は皆、主の祭司として聖なる生活を送るように召されていることを意味します。そして、これこそが彼らが神に従い、神の契約を守る唯一の方法であり、そして神は彼らを地上の他のすべての人々にまさって特別な宝とみなすでしょう。「特別な」はヘブライ語で *Cegullâh* であり、*seg-ool-law* と発音し、閉じ込める、富（しっかりと閉じ込められたように）：宝石、独特の（宝物）、適切な、特別なものを意味します。しかし、Chambers Dictionary によると、*peculiar* は、独自の、独自の、排他的に属する、個人所有、適切な、保存された、特徴的な、特別な、非常に特殊な、などを意味します。

ここで宝物とされている言葉はヘブライ語で *ミケナー* であり、*ミスケナウ* と発音され、雑誌、つまり倉庫（家）、宝物を意味します。チェンバース辞典によると、雑誌は倉庫、軍事物資の保管場所などを意味します。また、チェンバース辞典は宝物を、蓄えられた富、財産、非常に価値のあるもの、大切な、なくてはならない僕、助っ人などと説明しています。神が意味していたのは、この契約を通してイスラエル国家が神の所有する私有のなくてはならない国家になるということでした。そして、神が彼らに与えた土地（アラブ諸国が今もその一部を占めていることに注意）、神は莫大な富、財産、そしてこの世が価値あるものとみなすあらゆるものを蓄えました。同様に、私たちの主イエス・キリストの教会の中で、聖なる生活を送り、神の祭司となることにより神の言葉に従い、契約を守ることに同意する人々は、神の大切ななくてはならない僕、または祭司として神に選ばれ、神はそこに神の知恵と知識、神の富、財産、その他の貴重なものや賜物を蓄えるのです。そして彼らは、反キリストを打ち負かし、第二の天国からサタンを追い出した後、この世界の支配権を握るために神が準備している軍隊なのです。

神がイスラエルの民と契約を結ぶために彼らに何をしてほしいかをモーセに告げ終えると、彼（モーセ）は来てイスラエルの長老たちを集め、主が命じられた言葉をすべて彼らに告げました。

民は皆声を揃えて答えた。「主が言われたことはすべて行います。」モーセは民の言葉を主に伝えた（出エジプト記 19:8）。

そこで神はモーセに、民を二日間聖別するよう命じ、三日目に彼らと会うために降りて来るように命じました。また、衣服を洗い、妻に触れたり、妻と寝たりしてはならないと命じました。そして三日目に神は降りて来て彼らに語りかけ、出エジプト記 20章、21章、22章、23章に記されている律法を与えました。

彼らは出エジプト記にある主の言葉すべてに従う用意があることを確認した後。

24:3 モーセはこれらの言葉をことごとく書物に書き記し、翌朝早く、イスラエルの十二部族に従って、丘の下に十二の柱で祭壇を築き、イスラエルの子らの中に若者たちを遣わして、主に全焼の供え物を捧げさせ、和解の供え物として牛を犠牲として捧げさせた。

モーセはその血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分を祭壇に振りかけた。そして契約の書を取り、民に読み聞かせた。民は言った。「主が言われたことはすべて、わたしたちは行ない、従います。」モーセはその血を取り、民に振りかけて言った。「これは主があなたがたと結ばれた契約の血である。これはすべて、これらの言葉についてである。」(出エジプト記24:6-

8)。

神の立場に立っていたモーセがイスラエルの民を導いたこの新しい契約関係は、夫と妻、父と子、主とそのしもべの間に存在する関係と見ることができます。そして、これによって彼らは神の特別な民、祭司の王国、聖なる国民として区別されました。それは彼ら自身の義の行為によってではなく、神が彼らと結ばれた契約の力によってでした。ここで強調しておきたいのは、聖性とは神が契約関係にある人々に授ける神の本質であるということです。つまり、聖性は契約の結果であり、契約の理由ではないということです。つまり、神はイスラエルが聖なる者だったから契約を結んだのではなく、彼らと契約を結ぶことによって彼らを聖なる者とし、彼らが一つとなって、あるいは夫婦として共に働くことができるようにされたのです。(アモス書3章3節参照)先ほど申し上げたように、この契約が成就するための基礎は、あなたがたがわたしの声に真に聞き従い、わたしの契約を守るかどうかです。しかし、イスラエルは不貞と偶像崇拜という行為によって出エジプト記32章1-35節の契約を破り、夫である神とのこの関係の権利を失いました。いずれにせよ、神は彼らへの愛ゆえに、そしてアブラハムと結ばれた契約、すなわちイサクとヤコブの血統を通してアブラハムの子孫が他のすべての人類から神のために区別されるという契約に従い、この時代の終わりにイスラエルと永遠の新しい契約を結び、彼らが再び神の妻となることを決意されました。

これはエレミヤ書31章で預言されたことです。

見よ、主は言われる。わたしがイスラエルの家とユダの家とに新しい契約を結ぶ日が来る。それは、わたしが彼らの先祖たちをエジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようなものではない。わたしは彼らの夫であったにもかかわらず、彼らはわたしの契約を破った、と主は言われる。

(エレミヤ31:31-32)

イスラエルは神との契約を守らなかったため、神は彼らとの約束の中にある条項を守られたという事実を踏まえ、この約束を全人類に広げられました。それゆえ、神は特別な民、すなわち神の祭司として生きる王国を求めておられます。そして、イスラエルに約束されたように、彼らを聖なる国民とし、神に従う者として聖別し、彼らと新しい契約を結ばれるのです。彼らは神の花嫁、王、祭司となり、神は彼らを聖なる者とされます。まさにこれが、神が教会を復活させる理由です。

さらに、神がイスラエルと旧約を結んだ出エジプト記19章から23章を見れば、彼らを神との特別な関係へと導いた同じ契約が、彼らを互いの特別な関係へと導いたことが分かります。私が言いたいのは、この契約は垂直的(神に対して)であると同時に水平的(互いに対して)であるということです。つまり、出エジプト記21章、22章、23章は、神がその瞬間から彼らに求めていた具体的な実践的な関係を定義するために書かれたのです。一つの契約の民の一員として、彼らは互いに特別な義務を負っていました。

彼らの契約は、神やイスラエルと契約関係を結んでいなかった他の国民に対する契約とは異なっていました。これは、神と契約関係にある者は、必然的に互いとも契約関係にあると説明すればよりよく理解できます。神の祭司または花嫁として、私たちが神との垂直的な一体化へと導く契約は、必然的に、神と同じ契約を結んだすべての人々との水平的な一体化へと導くはずで、神との契約関係の恩恵を主張しながら、同時に神と同じ契約を結んだ人々に対する義務を拒否する権利はありません。契約とは、私たち一人ひとりを、神によって特別に所有され、他のすべての人類集団とは区別された、団結した人々として、互いに一体化へと導くものです。

最後に、神とイスラエルとの契約の象徴は、神が彼らに守るように命じた安息日であり、ここに見られるように、

あなたはイスラエルの人々に告げて言いなさい。『必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたたちとの間の永遠のしるしである。わたしがあなたたちを聖別する主であることを、あなたたちが知るためである。それゆえ、イスラエルの人々は安息日を守り、代々にわたってこれを守り行わなければならない。これは永遠の契約である。これはわたしとイスラエルの人々との間の永遠のしるしである。主は六日間で天地を創造し、七日目に休んで休息されたからである。』（出エジプト記31:13, 16-17)

#### イスラエルの二番目で最後の王ダビデとの神の契約

神によってイスラエルというあだ名を与えられた老人ヤコブは、4番目の息子ユダが亡くなる前に祝福するために彼に手を置き、伝統に従ってこう言いました。

ユダよ、汝は兄弟に讃えられ、汝の手は敵の首に差し伸べられ、汝の父祖の子らは汝の前にひれ伏すであろう。ユダは子獅子のようで、獲物から身を乗り出した。我が子よ、汝は上って行った。彼は身をかがめ、獅子のように、老いた獅子のように伏した。誰が彼を起こせるだろうか。笏はユダから離れず、立法者はその足の間から離れない。シロが来るまで。民は彼のもとに集まるであろう。(創世記49:8-10)

これらは神がユダの父ヤコブを通して授けた祝福の一部です。

しかし、この老人からの栄光ある祝福の前に、サタンはユダの記録に巧妙な傷をつけていました。イシュマエルの誕生を通してアブラハムと神との契約を阻止しようとしたサタンは、神がヤコブを通してその契約を成就すると定めていたため、その契約が機能しないことを知り、見届けたサタンは、神の善意を挫くために、ヤコブの子らに邪悪な行為を向けようとしたのです。

まず、サタンはシメオンとレビを捕らえ、ヤコブとその息子たちとシケムの民との間に結ばれていた契約を破らせました。二人はシケムの割礼を受けた男子を皆殺しにしました。その後、サタンはヤコブに更なる打撃を与えました。ルベンを操り、父の妻ビルハと寝たのです。この行為により、この三人は指導者の油注ぎ、祝福を受ける資格を自動的に失いました。サタンはヤコブがヨセフを非常に可愛がっているのを見て、兄弟たちにヨセフを憎ませました。そしてついに彼らはヨセフをイシュマエル人に売り飛ばし、イシュマエル人もまたヨセフをエジプトのポティファルに売り飛ばしました。サタンはユダが神の祝福を受けるにふさわしい子だと見抜きました。

ユダは父ヤコブを通して神の祝福を受けていたため、すぐにヤコブの家族に入り込み、混乱を引き起こしました。ユダにはエル、オナン、シェラという3人の息子がいました。エルはタマルと結婚しましたが、その邪悪さゆえに神は彼を殺し、タマルは夫も子供もないまま残されました。オナンはタマルと結婚して、子孫を残さずに死んだ兄のために子孫を残すように言われました。オナンもまた、邪悪さからその女性と寝て、子孫が兄弟に残らないように彼女を妊娠させなかったため、神に殺されました。ユダの嫁タマルは、義父から家に送り返され、シェラが成人するまで待つように言われました。それからシェラの妻として与えられることになっていたのです。しかし、ユダはシェラを失うことを恐れたため、約束を守りませんでした。

それで、彼がティムナへ羊の毛を刈りに行ったとき、嫁のタマルは変装して遊女のふりをしました。ユダは知らずに彼女と寝てしまい、彼女は身ごもってペレツとザラという双子を産みました。このへこみによってサタンは満足し、ヤコブのために台無しにして、イスラエルを統治する責任を担うヤコブの息子たちの中に汚れない者を見つけるのは難しいだろうと考えました。しかし、サタンを創造した神は、サタンの非難と狡猾さをどう扱うべきかを非常によく知っていました。そのため、へこみにもかかわらずヤコブにユダに対するこれらすべての祝福を宣言させた後、神（モーセ）はモーセを用いてそのへこみを清める道を開き、こう言われました。

私生児は主の会衆に加わってはならない。たとえ十代目であっても主の会衆に加わってはならない。(申命記23:2)

ルツ記第4章18-22節を注意深く研究すると、この呪いは9代目のエッサイで終わり、ダビデがイスラエルの会衆への参加を許されるという新たな道を歩み始めた時に始まる10代目で終わるはずだったことが分かります。神はこの呪いのせいで、このすべての世代においてイスラエルに王を与えることができませんでした。神はエッサイで呪いが終わるのを待っていたからです。そしてその間、神は彼らに裁き人を与え、呪いが終わるダビデの誕生と、それに続く羊飼としての訓練を待ちました。しかし、サタンは再び心の中で言いました。「私はこのことに手を出し、神の見せ場を台無しにしてやる。」そこでサタンはイスラエルの長老たちを雇い、彼らはサムエルのもとへ来て、他のすべての国々のようにイスラエルを裁き、戦いに導く王を求めました。

神の民が、神が彼らに似てはならないと警告した他の人々ようになるために何かを要求し始める時、その要求や願いの背後にはサタンがいます。そして、彼らがその願いを叶えると、彼らは計り知れない苦難に遭うでしょう。なぜなら、彼らは神の完全な御心にそぐわないからです。サムエルが祈りの中で主の御顔を求めた時、主はこう言われました。

民があなたに言うことすべてに耳を傾けなさい。彼らはあなたを拒んだのではなく、わたしを拒んだのです。わたしが彼らをエジプトから導き出した日から今日に至るまで、彼らはわたしを捨てて他の神々に仕え、そのすべての行いをあなたにも同じように行っています。それゆえ、今、彼らの声に耳を傾けなさい。しかし、彼らに厳粛に戒め、彼らを治める王のあり方を示しなさい。(サムエル記上8:7-9)

サムエルが11節から18節で王の資質について語ったにもかかわらず、彼らは自分たちの王を持つことを強く求めました。彼らは部族ごとに名乗りを上げ、ベニヤミン族が選ばれました。そしてベニヤミン族を構成する家系をもう一度くじで引いたところ、マトリ族が選ばれ、最終的にキシュの子サウルが王に選ばれました。これは全く新しい試みでした。

ユダ族からイスラエルの王を輩出するという神の定めからの逸脱です。繰り返しますが、くじ引きや投票によって指導者を選ぶこと、つまり世の人々が民主主義と呼ぶ方法は、神が指導者を定め、任命する方法に対する完全な反逆です。

それは神の御心からの完全な逸脱であり、人々を深刻な問題と霊的な盲目に陥れます。イスラエルが他の国々と同じように指導者を選んだことで、彼らは神よりも先を行くことになりました。なぜでしょうか？それは、神が彼らの計画の中になかったからです。神はまず第一に、呪いが終わるのを待たなければならず、第二に、神が選んだ王はユダ族から出なければならなかったからです。いずれにせよ、これらの非常に重要な理由は、神がサウルを成功させるために祝福することを妨げるものではありませんでした。しかし、神はサウルが他の部族のための職務に就いていたため、成功しないことを知っていました。神があなたに就くように定めていない職務に就いたり、神があなたに定めていない奉仕の職務に就いたりするとき、あなたは失敗する運命にあります。しかし、経済的、物質的に成功しても、霊的には成功しないでしょう。ですから、自分の召しに忠実に従うように努めなさい。

サウルが成功しないことが明らかになった時、神はイスラエルの二番目にして最後の王に選ばれた者を訓練し始めました。神の計画についての最初のヒントは、預言者サムエルが行うはずだった燔祭を、サウルが利己的でせっかちな態度で捧げた時にもたらされました。サムエルがそれを聞いた時、サウルに何と言ったか見てください。

あなたは愚かなことをした。あなたの神、主が命じられた戒めを守らなかった。もし守れば、主はイスラエルの上に永遠にあなたの王国を築こうとされたであろう。しかし今、あなたの王国は続かない。主は御心にかなう人を求め、その者に民の指導者となるよう命じられたのだ。

---

あなたは主が命じられたことを守らなかったからだ（サムエル記上13:13-14）。

ここでまず学ぶべきことは、神は民の心ではなく、御自身の心にかなう王を選ぶということです。本質的に、民が自ら選んだ指導者を選ぶ民主主義は、神の計画には含まれていません。サウルがイスラエルの王位を剥奪されたことが、イスラエルの長老たちと残りのイスラエル人の前で公に宣言された後、神はサムエルをユダ族のベツレヘム人エッサイの家へ遣わし、彼の8番目で最後の息子であるダビデをイスラエルの2番目で最後の王として油を注ぎました。ダビデをイスラエルの最後の王として選ぶというビジョンと、彼の王座を永遠に確立するという契約は、ダビデが神の宮を建て、それを止めるために神から遣わされた預言者ナタンに啓示されました。ナタンのメッセージの一部を聞いてみましょう。

それゆえ、今、あなたはわたしのしもべダビデにこう言いなさい。万軍の主はこう言われる。「わたしはあなたを羊小屋から、羊を追うところから連れ出し、わたしの民イスラエルの支配者とした。あなたの日が満ち、あなたが先祖と共に眠るとき、わたしはあなたの胎から出る子孫をあなたの後に立て、彼の王国を堅くする。彼はわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座を永遠に堅くする。わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。もし彼が罪を犯すなら、わたしは人の杖で彼を懲らしめる。しかし、わたしの慈しみは、わたしがあなたの前から退けたサウルから取り去ったように、彼から取り去られることはない。あなたの家とあなたの王国は、あなたの前に永遠に堅く立ち、あなたの王座は永遠に堅く立つ。」（サムエル記下7:8,12-

16)。

これは神がダビデと結んだ契約であり、ダビデとその子孫がイスラエル国の王位継承者として確立され、後に最高潮に達した。

ダビデ王に神がこの約束をしてから約1000年後、ダビデの血統を受け継ぐメシア、主イエス・キリストの来臨において。霊的な意味では、神がここで結ばれた契約、「神はダビデの子の王国の王座を永遠に堅く立て、ダビデの子は神の名のために家を建てる」という言葉は、ルカによる福音書に記されている主イエス・キリストを指しています。

見よ、あなたは身ごもって男の子を産み、その名をイエスと名づけなさい。彼は偉大な者となり、いと高き方の子と呼ばれるでしょう。主なる神は彼に父ダビデの王座を与えられます。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その王国は終わることがありません。(ルカ1:31-33)

ダビデの子孫であり、サムエル記下7章12節を成就したダビデの子ソロモン

13 肉体的に、彼の王国は永遠に確立されることはありませんでした。なぜでしょうか？それは、彼自身の死によって王国が終わり、ダビデの他の多くの子孫がダビデのために一時的に王国を保持し続けたからです。ダビデはこの永遠の契約を通して、千年王国と永遠にわたってイスラエルの王であり続けるでしょう。一方、ダビデの血統である主イエスは、王の王、主の主として戴冠されます(参照:エゼキエル34:23-24,37:24-25,エレミヤ30:9)。だからこそ私は、主が第二にして最後のアダムと呼ばれるように、ダビデをイスラエルの第二にして最後の王と呼ぶのです。

神は預言者サムエルに、今度こそ民に選択を委ねるのではなく、御心にかなう者を彼らに与え、彼らを率いる指揮官に任命すると告げましたが、ダビデが神の期待を裏切らなかったことは注目に値します。イスラエルの王位を継承すると、彼はすぐに神の臨在を求めました。エリの時代にペリシテ人に奪われ、ヤベシュ・ギレアデに放置された契約の箱を持ち帰ったのです。サウルは、その治世中にこのような行動を取ることはありませんでした。ウザの死後、契約の箱を持ち帰ろうとして災難に見舞われた時でさえ(これは彼の信仰の試練でした)、彼は決してひるむことなく、契約の箱がシオンに運ばれるまで粘り強く努力しました(サムエル記下6:1-23)。契約の箱を持ち帰った後、彼は神の宮を建てるための場所を計画しました。そこで神はダビデを止め、彼が地上で多くの血を流し、多くの戦争を戦ったこと、むしろ彼の息子ソロモンがそれを再建するであろうことを告げました(歴代誌上22:7-9)。このように、ダビデが神とその言葉に完全に身を委ね、従ったことにより、神はダビデとの約束を守られました。主イエスが万王の王として即位し、ダビデ自身も主の再臨の時に地上に呼び戻され、契約の地位を取り戻すまで、ダビデの子孫はその王座に座り続けました。神とダビデとのこの契約のしるし、象徴は、エルサレムが常に主のために守られ、ダビデが神の前に光を持つようになることです(列王記上11:31-32, 34-36, 列王記上15:4-5参照)。

そのため、エルサレムは今日まで、ダビデとの契約を成就した神の愛する都市として言及されています。

## 第7章

神を遺言者とする夫と妻の間の結婚の契約。

---

多くの場合、特に未信者は結婚を水平的にしか見ていません（つまり、肉体的な意味での夫婦間のみ）。中には、結婚を親族関係まで拡大解釈し、より強い権力を得て、結婚という尊厳ある制度を分断してしまう人もいます。これらはすべて結婚にとって大きな障害となっています。なぜなら、この制度を創られた神は、結婚がそのような形になることを決して意図されていなかったからです。まず第一に、結婚は地上で最も偉大な制度であり、神によって定められた最も尊厳ある契約であり、神ご自身が遺言者、男性と女性、あるいは夫と妻が受益者となります。ヨハネによる福音書1章1節にこう記されているからです。「初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。」これは、初めに神の言葉（すなわちキリスト・イエス）と父なる神が二つの機能を持つ一つの存在であったことを示しています。これはまた、創世記1章27節で神が男と女を二つの機能を持つ一つの存在として創造したと宣言しているのと同じです。創世記1章26-27節にはこう記されています。

「神は言われた。『我々のかたちに、我々にかたどって人を造ろう。そして彼らに海の魚、空の鳥、家畜、地のすべての獣、地を這うものを支配するようにさせよう。』こうして神は御自身のかたちに人を創造された。神のかたちに創造し、男と女に創造された。」

---

神は下線部を通して、人間を一つの存在として創造し、男と女という二重の機能を通して他のすべての被造物を支配すると明確に宣言されました。神が人間（すなわち男と女）を自身の姿に似せて創造したと述べることによって、神が人間が理解する結婚の意味とは異なる見解を持っていたことは明らかです。なぜそう言ったのでしょうか？それは簡単です。神が私たちが自身の姿に似せて創造した意図を誰もが明確に理解できるように、この質問に答えるためには、その姿が何を表しているのかを見てみましょう。「イメージとはヘブライ語のTselemで、tseh/ -lemと発音され、陰影、幻影、すなわち（比喩的に）幻影、類似性、つまり象徴的な人物像などを意味します。しかし、チェンバース辞典では、「イメージ」を、人物や物の似姿、彫像、偶像、他の人物や物によく似た人物や物、心の中の表象、観念、感覚的知覚ではなく思考や記憶から得られる心象や表象などと説明しています。これはつまり、聖霊によって定められた男女が、神が初めに創造した男と女を形作るために、結婚によって夫婦として結びつくことは、父なる神と主イエス・キリストの人格、あるいは主イエス・キリストとその教会の似姿の心の中の表象、あるいは密接な類似性、あるいは観念、あるいは心象である、という意味です。だからこそ使徒パウロは、聖霊の導きによって、結婚というこの制度について時間をかけて研究し、研究し比較した後、キリストと教会の間に存在する関係と照らし合わせて、彼はそれを「偉大な神秘」とであると結論づけました。彼が何を言ったか見てみましょう。

「これは偉大な奥義です。しかし、私はキリストと教会について話しているのです。」（エペソ5:32）

この偉大な神秘とは何なのか、と問う人もいるかもしれませんが。それは、夫と妻が結婚によって結ばれることであり、キリストとその体である教会が結婚によって結ばれることと比較することができます。さて、結婚という制度における神聖な真理を明らかにするために、聖霊がパウロにこの言葉を限定的に用いることを許したので、神秘という言葉が何を表しているのかを見てみましょう。神秘という言葉はギリシャ語で「ムステリオン」で、ムーステイ/リーオンと発音され、秘密または神秘（宗教儀式への入会によって課せられる沈黙の概念を通して）を意味します。しかし、チェンバース辞典は、神秘を、古代の宗教儀式などにおける秘密の教義、秘儀参入者のみが知るもの、説明できない状況や出来事、不可解な人物や物（つまり、精査したり、探究したり、理解したりできないもの）、謎（つまり、推測すべき隠された意味を持つ言葉）、不明瞭なもの（つまり、暗い、容易に理解できない、明確でない、未知の、隠されたもの）、神から授けられた真理などと定義しています。使徒パウロが聖霊の導きによって言おうとしていたのは、「神秘」という言葉には、価値ある利益をもたらす知識の形を示す宗教的な連想があるが、それは宗教的慣習によって結ばれた特別な集団に厳密に限定されていたということです。この知識にアクセスするには、この集団に秘儀参入しなければなりません。そして、この集団への秘儀参入は契約と呼ばれます。これを解説すると、パウロが結婚を神秘と結びつけたのは、結婚を成功させる隠された知識の形があり、特定の試練を理解し、特定の条件を満たすことによるのみ、この知識を得ることができるということを意味しています。だからこそ神は結婚を三者の契約として定め、この三者からなるグループに加わり、彼らの試練を乗り越え、契約と言える特定の条件を満たさなければならないことを示しました。アダムを創造した後、神は毎晩、他の生き物がパートナーと眠る中、アダムが一人で眠りにつくのを見守っていました。そして、アダムに心を打たれ、憐れみを感じ、多くの聖書訳で「伴侶」と表現されている「配偶者」ではなく、「助け手」をアダムのために造ることを決意しました（創世記 2:18）。「助け手」とは、助手、援助者、資格のある、あるいは適切な助手を意味します。

神がアダムを眠らせ、彼の12本の肋骨のうちの1本を取って女性を創造したとき、アダムは眠りから目覚めてこう言った。

「これこそわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。これを女と呼ぶ。男から取られたからである。それゆえ、男はその父母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」（創世記2:23-24）

「Leave」はヘブライ語で「âzab」であり、「aw-zab」と発音されます。これは、緩める、すなわち放棄する、許可するなどの意味を持ちます。つまり、身を委ねる、失敗する、見捨てる、強化する、助ける、去る（困窮する、離れる）、拒否する、などです。

チェンバース辞典は、「leave（離す）」を「放棄する、辞任する、辞める、離れる、遺贈する、決定や行動などに委ねる、許可する、または引き起こす、残る、やめる、やめる、出発する」と定義しています。一方、「cleave（離す）」はヘブライ語で「dâbaq（突き刺す）」を意味し、「突き刺す」、つまり「しがみつくとくっつく」（比喩的に）、つまり「追いかけて捕らえる」（固執する、くっつく、密着する、密着する、くっつく、など）を意味します。一方、「cleave（離す）」はギリシャ語で「prskilla（接着する）」を意味し、「接着する」（比喩的に）、付着する、くっつく、結合する、一体化する、結合する」という意味です。ヘブライ語とギリシャ語の両方で説明されている「cleave unto（離す）」という言葉の意味を注意深く研究すれば、それがまさに契約について語っていることが分かります。

契約はどのようにして可能になるのでしょうか？

男が両親や親族の家、支配、影響力、支配から完全に離れ、解放され、放棄され、見捨てられ、辞任し、見捨てられ、あるいは離れ、そして妻と契約関係を結ぶか、あるいは固く結ばれることで、二人は一体となる。これが結婚の契約の根底にある象徴、あるいはしるしである。主が妻の別居について言及されなかったのは、結婚が成立した瞬間、妻は男だけの所有物となり、自分の民とは一切関係を持たなくなるからである。彼女は夫の許可を得て、よそ者として彼ら（自分の民）を訪問するのみであり、自分の民の所有物に何の権利も相続権も持たない者として出かける。しかし、これは聖書が命じているように、妻が夫の許可を得て、できる限りの援助を行うことを妨げるものではない。ラバンの二人の娘の口から、このことをはっきりと聞き取る。彼女たちはイスラエルの子らの母であった。夫ヤコブが父の家で父と口論した時、彼女たちはまさにそのように言われたのである。

「ラケルとレアは答えて言った。『私たちの父の家にはまだ私たちの分、あるいは相続地があるのでしょうか。私たちは父に寄留者とみなされているのではないのでしょうか。父は私たちを売り、私たちの金まで食い尽くしてしまったのですから。神が私たちの父から取り去られたすべての富は、私たちと私たちの子孫のものなのです。ですから、神があなたに命じられたことは何でも行ってください。』（創世記31:14-16）

結婚において神の原則に従うために神と妻と契約を結んだ男性が直面する最大の問題の一つは、妻がこの聖句を理解していないことです。今日では、妻にこの聖句を守るように命じることは忌まわしいこととされています。彼らはこれを絶対的な悪と信じているのです。しかし真実は、キリストを土台として築かれる結婚は、神の御心にかなうものであり、平和な家庭を築くために、この聖句を守らなければならないということです。伝道者の書4章9節から12節で、主は説教者ソロモンを通して、結婚のあるべき姿について明確な洞察を与えました。彼はこう述べています。

二人は一人よりも優れている。なぜなら、彼らはその労働に対して良い報酬を得るからである。もし彼らが倒れたなら、一人は仲間を助け起こすだろう。しかし、倒れた時に一人にいる者は悲惨である。助け起こす者がいないからである。また、二人（夫婦）が共に寝る（共に主を待つ）なら、彼らは暖かさ（油注ぎ）を得るが、一人でどうして暖まることができるだろうか？  
そして、もし一人（サタン）が彼に勝ったとしても、二人（夫婦）は彼（悪魔）に立ち向かうであろう。そして三つよりの紐（神と夫婦の契約）は容易には切れない。」

神は「人が独りであるのは良くない」と言われた時、ソロモンを通して人間に対する本来の計画を明らかにしました。なぜでしょうか？独りでは、労働に対する良い報酬が得られず、攻撃されてもどこからも助けが得られないからです。独りでは、油注ぎは容易に流れません（注：これが私たちが共同の油注ぎについて語る理由です）。独りでは悪魔に容易に打ち負かされる可能性があります。適切な助け（妻）があれば、神は遺言者であり、「三つよりの紐」に宿る活力の力によって、そして女性との新しい契約によって、悪魔に抵抗することができます。そして、主が来られる時、主は決して戦いに負けません。妻や女性が契約の自分の側の部分を守ろうとしない場合、男性にとって唯一の救いは、主とその言葉に**しっかりと従う**ことです。そうすれば、主は女性を容赦なく罰せられるでしょう。ですから、ソロモンを通して私たちは次のことを理解します。

コメント [hrm1]: 代わりに stuck を使用できるかどうか、Bro. John に尋ねてください。

結婚は水平的（すなわち、夫と妻の間）であるだけでなく、神、夫、妻の三位一体の垂直的な結びつきでもあります。イスラエルはこの主の律法を捨て、この神聖な制度を軽蔑し始めました。彼らは結婚を明日入ってすぐに出て行ける一時的なものだと信じ、結婚しては配偶者を送り出すことを繰り返していました。しかし神は預言者マラキを用いて、イスラエルの民に、彼らの行いは配偶者に対する不貞行為であることを示しました。マラキは彼らに、彼らは宗教活動を利用して妻への暴力や不貞を覆い隠し、ワニの涙を流すことにしか興味がなく、神はもはやそのような涙には興味がなく、彼らから善意を持って受け取ることもない、と告げました。イスラエルの民がその理由を尋ねたとき、マラキは彼らにこう言いました。「あなたたちはこの結婚制度を軽蔑し、妻があなたの伴侶であり、契約のパートナーであることを忘れて、妻に不誠実（欺瞞的）に接してきたのです。」さらに彼は、あなたの妻はあなたの霊の残りの部分、あるいは失われた部分であり、神はあなたたち二人を一つにし、敬虔な子孫を求めるようにされた、と語られました。これは、夫婦として契約関係にある男女が一つになることで、サタンとその支配者たちを第二の天から追い出す敬虔な子孫が生まれることを示しています。主はついに、マラキによれば「人は衣で暴力を隠すのを好む」ので、離縁（つまり離婚）を憎むと言われました。これは単に、救いを妻と離婚する許可証として使うことを意味します（マラキ2:13-16）。この領域は非常に繊細な部分であり、後ほど明らかにすることで、これに関する神の完全な御心を見ていきたいと思えます。結婚においてこのような失敗が生じるのは、イスラエルと同じように、人々が結婚を自分たちの基準で定め、自分の条件で始めたり終わらせたりできる関係と見なしているからです。しかし、神は今日私たちに思い出させているように、彼らにも思い出させています。結婚は神が定めた契約であるということです。だからこそ、神は多くの預言者を通してイスラエルに警告し、マラキを通して結婚に対する態度や誤った信念を変えるようにという最後の警告を与えた後、イエス・キリストは結婚がどうあるべきかという本来の計画から外れたいかなるものにも妥協することを拒まれたのです。そして、神が結婚をどうあるべきかを考えてみましょう。

コメント [hrm2]: カバーすべきか

パリサイ人たちもイエスのところにやって来て、試みて言った。「人がどんな理由であれ、妻を離縁することは許されているでしょうか。」イエスは答えて言われた。「あなたがたは読んだことがないのか。創造主は初めに人を男と女に造られた。そして言われた。『それゆえ、人は父母を離れ、妻と結ばれ、二人は一体となるのだ。それゆえ、二人はもはや二人ではなく、一体である。それゆえ、神が結び合わせたものを、人は離縁してはならない。』彼らは言う。『では、なぜモーセは離縁状を与えて妻を離縁するように命じたのか。』イエスは言われた。『モーセはあなたがたの心の頑固さのゆえに、妻を離縁することを許したのである。初めからそうであったのではない。わたしはあなたがたに言う。不品行のゆえでなければ、妻を離縁して他の女をめとる者は、姦淫を行うのである。離縁された女をめとる者は、姦淫を行うのである。姦淫を犯すのです（マタイ19:3-9）。

これは神が初めから定めた基準であり、主イエスは、たとえパリサイ人がモーセが律法で彼らに命じたことを思い起こさせたとしても、その基準を下げるつもりはありませんでした。主はまずモーセを擁護されました。なぜなら、主はモーセを遣わしただけでなく、モーセと契約を結んでおり、今も結んでいるからです。むしろ、主は、彼らの反抗と心の頑固さがモーセに悪を許させたのであって、それは主が初めから定めたものではないと彼らを責められました。しかし、主は、ご自身（神）が結び合わせたものを、いかなる人も（これには神の義も含まれる）結び合わせてはならないと警告されました。

夫、妻、カップルの親族、友人、または法廷など)が引き離される。

したがって、夫婦の結びつきを終わらせるのは死だけです。先ほど述べたように、契約は犠牲を伴います。そうでなければ有効ではありません。そして、犠牲とは血を流すことであり、それによって神の前に受け入れられるのです。キリスト教の結婚の契約の基盤となる犠牲は、私たちのためになされたイエス・キリストの死です。イエス・キリストの犠牲を通して、男女は神によって定められた結婚という関係へと入ることができるのです。キリスト教の結婚の契約は十字架で結ばれます。男と女は人間の伝統、この世の初歩、人間の哲学、そしてむなしい欺瞞を主イエスの足元に捨て、自分たちのためになされたイエスの死を通して、全く新しい命と全く新しい関係へと入っていくのです。この死なしにはあり得なかったでしょう。基本的に、この結婚関係を成功させるには3つの段階があります。第一段階は、夫婦が互いのために命を捧げることです。夫は十字架でのキリストの死を自分の死とみなし、妻にこう告げます。「私は十字架で自分の命（意志）を明け渡した。今はもう自分のために生きているのではなく、私のために死んでくださった主イエスと、私の契約のパートナーである妻のために生きている」。一方、妻は十字架でのキリストの死を自分の死とみなし、夫にこう告げます。「私は十字架で自分の命（意志）を明け渡した。今はもう自分のために生きているのではなく、私のために死んでくださった主イエスと、私の契約のパートナーである夫のために生きている」。その瞬間から、お互いに何も隠し立てをしなくなります。夫の持つものはすべて妻のものであり、妻の持つものはすべて夫のもので、何の留保も、何の隠し立てもあつてはなりません。彼らの関係はパートナーシップに基づくべきではなく、完全な融合（つまり、より大きく優れたものに飲み込まれたり吸収されたりする、融合する、何か他のものにアイデンティティを失う、失われる、浸る、飛び込むなど）であるべきです。これはどういうことかと言うと、夫は意志を失い、アイデンティティは神の言葉に飲み込まれ、権威は神の霊に沈められ、そして夫は神の手の中のロボット（つまり機械人間、複雑な物理的作業を行うことができる、今では特にコンピューター制御されている機械）になるということです。コンピューター制御とは、夫が神の霊に制御されるようになったことを意味します。妻も同様に意志を失い、アイデンティティは夫に飲み込まれ、権威は夫の霊、つまり夫の権威に沈められ、そして妻は夫の手の中のロボットになります。これこそが、主イエスを遺言者とする夫婦の契約、三つ擦りの紐が語っていることです。キリストと教会の関係に関する偉大な神秘であるこの結婚の契約のゆえに、パウロはこう言いました。

---

妻たちよ、主に従うように、自分の夫に従いなさい。夫は妻の頭（主）であり、キリストは教会の頭（主）であり、御体であるキリストの救い主です。ですから、教会がキリストに従うように、妻もすべてのことにおいて夫に従いなさい。（エペソ 5:22-24）

---

本書の読者の皆さん、少し立ち止まって下線部を比較してみてください。イエスが教会（イエスの体）に対してどのような存在であるかは、夫が妻、子供、家事手伝い（イエスの体）に対してどのような存在であるかと同じであることに気づくでしょう。例えば、イエスは教会の頭、主、所有者であり、夫は妻に対して同様の存在です。イエスは教会の救い主であり、夫は妻、子供、家事手伝い（家事手伝い）に対して同様の存在です。イエスは教会を霊的にも物質的にも養っておられ、夫も妻に対して同様の存在です。

ですから、聖書は、妻であるあなたがたが、教会が主イエスに従っているように、すべてのことにおいて夫に従い、従うように命じています。教会は

わたしの主であるイエスを畏れ、畏敬し、礼拝し、ひざまずき、あるいはひざまずくことによって、わたしたちも主を敬います。聖書は、妻であるあなたたちに、自分の夫に対しても同じようにするように命じています。

しかし、あなたがたはそれぞれ、自分の妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬うように心がけなさい。\_\_\_\_\_

割礼の長使徒ペテロはまた、妻たちにこう告げました。

昔、神を信頼する聖なる女たちも、このように身を飾り、夫に従いました。サラがアブラハムを主と呼んで従ったように。あなたがたは、正しく行い、何事にも恐れを抱かない限り、アブラハムの娘なのです。(ペトロの手紙—3:5-6)

神に従いたいと願う者にも、私を異端者と決めつける者にも、聖書の言葉は極めて明確です。もしあなたが聖なる女性であるならば、あるいは聖なる女性になろうと努力しているならば、そしてもしあなたが神を少しでも信頼しているならば、あなたはあらゆることにおいて、自分の夫に完全に従わなければなりません。あなたは夫を主イエスのように敬い、恥じることなく「私の主」と呼ばなければなりません。

実りある結婚生活への第二段階は、夫婦がそれぞれの意志を十字架、あるいは主イエスの足元に委ね、互いに相手を通して生きる新しい人生を始めることです。これはつまり、夫と妻が互いに「私の命は主にあるように、あなたの中にもあります。私は主イエス・キリストの信仰によって、そしてあなたを通して生きています」(ガラテヤ2:20)と言うことを意味します。夫は、主のために(つまり、主を喜ばせるために)生きているように、妻のためにも生きていることを知るでしょう。同様に、妻は、夫と主イエスの両方を喜ばせるために生きていることを知るでしょう。

結婚におけるこの実りある関係の3番目の段階は、肉体的な結合による結婚の完結であり、これによって子宮の果実への扉が開かれ、それぞれが相手と共有したい新しい命が継続されます。

契約は命と生殖の共有へと繋がります。なぜなら、共有されない命は不毛で実りのないままだからです。しかし、今日の世界における結婚に対する考え方は、神の契約から現代の人間の文化や伝統へと移行しています。今日の若い男性は、「私と私の人々はこの関係から何をすることができるのか?」という思いで結婚に臨みます。この関係において、私たち(私と私の人々)は何を受け継ぐことができるのでしょうか?そのために、私は自分の家族を捨て、別の家族の幸福を求めてそこへ行くのでしょうか?

このような関係は、三つよりの綱の契約に基づいていないため、崩壊します。結婚を三つよりの綱の契約として捉えるなら、あなたは「この関係をうまく機能させるために、この関係に関わる人々に何を与えることができるだろうか」という問いに直面するでしょう。そして、その当事者とは神、夫、そして妻です。この問いへの答えは簡単です。夫は妻にこう言うでしょう。「私は主イエスに私の人生を捧げ、明け渡します。妻よ、私はあなたを愛し、喜ばせ、養い、大切にし、あなたのあらゆる必要を満たすために、この命もあなたのために捧げます」(参照:コリント人への第一の手紙7:33、エペソ人への第一の手紙5:25-30、ペトロへの第一の手紙3:7、コロサイ人への第一の手紙3:19、箴言への第一の手紙5:15-19)。妻は夫にこう言うでしょう。「私は主イエスに私の人生を捧げると同時に、夫であるあなたにも私の命を捧げます。すべてにおいてあなたに従い、あなたに仕え、あなたを敬い、あなたを愛し、私の生涯を通じてあなたに尽くし続けます。」

(参照 エペソ5:22-24,33節、コロサイ3:18、ペテロ第一3:1-6、箴言14:1、箴言12:4、箴言31:10-12)。

これは、神の基盤や三つよりの紐の契約の上に築かれたものではなく、肉欲や世俗的な結婚とは無関係であり、ナンセンスであり狂気の沙汰です。預言者イザヤが終末の日の教会の状態について預言したように、結婚を一時的な恥辱の軽減とみなすカリスマ的な神の聖職者や、多くのサイケデリックな女性でさえ、この筆者は狂っていると言うでしょう。そのような人々に私は言います。

そして、イザヤの預言は彼らの中に成就した。「あなたたちは聞くには聞くが、理解せず、見るには見るが、悟らない。」この民の心は鈍くなり、耳は聞こえなくなり、目は彼ら（悪魔とその使いたち）によって閉じられている。それは、彼らが目で見、耳で聞き、心で理解し、悔い改めて、わたしが彼らを癒すことのないためです（マタイ13:14-15）。

## 第8章

### 夫婦の契約における互いの義務

---

#### 結婚

新約聖書の中で、夫婦間の契約上の義務について述べている箇所において、筆者は常に妻の特別な義務から始めていることは注目に値します。これは、妻がこの関係の成功の柱となるからです。妻が自分の役割を十分に果たさなければ、夫は関係をうまく機能させることはできません。なぜなら、妻は夫の船であるだけでなく、エレミヤ書31章22節にあるように、神との契約関係にある者であり、神から夫に成し遂げ、達成し、獲得し、変化をもたらす権威を授けられているからです。妻が自分の役割を果たさなければ、結婚生活は破綻します。夫の船であるということは、夫の財産、金銭、知識、知恵などすべてが妻の内にあることを意味します。夫は商人であるため、妻は服従と従順を通して夫の財産を管理し、大切に守ります。妻が夫の商品を運ぶ船としての役割に問題を抱えれば、夫は計り知れない苦難を味わうことになるでしょう。ですから、妻は常に生き方と言葉遣いに細心の注意を払わなければなりません。妻には結婚生活を築く力があると同時に、それを破壊する力もあるのです。

#### 妻の夫に対する契約上の義務

---

妻が夫に対して果たすべき契約上の役割は、箴言31章10節から31節に要約されています。

徳の高い女性を誰が見つけられるだろうか。彼女の価値はルビー（赤い宝石、深紅、霊的には血）よりもはるかに高い。彼女の夫の心は彼女を信頼し、略奪（攻撃）に遭うことはない。彼女は生涯、夫に善を行い、悪を行わない。彼女は羊毛（つまり、聖さを求める象徴）と亜麻（リネンの代用として用いられ、義に歩むことを象徴する）を求め、喜んで自分の手で働き（喜んで服従し、従う）。彼女は商人（夫たち）のようだ。

彼女は船を運び、遠くから食物を運んでくる（天にある神の倉庫）。彼女はまだ夜のうちに起き、家族の者たちに食物（霊的食物と物質的食物の両方）を与え、侍女たちにも分け与える。彼女は畑を検討してそれを買ひ（彼女は王国のビジョンを持ち、それを追い求める）。彼女は自分の手の成果でぶどう畑を植えた（彼女の愛と従順さで、彼女は夫の奉仕を確立する）。彼女は力で腰を締め、腕を強くする（真実は彼女の力であり、彼女は真実で子供たちを強くし、家を助ける）。彼女は自分の商品が優れていることを知り、彼女の家畜は夜も外に出ない（彼女は夫のために運んでいる商品が良いものであることを確認し、彼女は夜に主と共に時間を過ごす祈りの女である）。

彼女は糸車に手を置き、糸巻き棒を握っている（彼女はすべてを回転させる糸車のようであり、主との関係を方向転換させ、繁栄させる）。彼女は貧しい人々に手を差し伸べ、困っている人々に手を差し伸べる（彼女は貧しい人々にとって祝福であり、また困っている人々を助ける）。彼女は家族のために雪（霊的な攻撃）を恐れない。彼女の家族は皆、緋色の衣（血）を着ているからだ。彼女はタペストリーで覆いを作る（彼女は恐れと震えをもって救いを成し遂げる）。彼女の衣服は絹と紫色（王族の衣装）である。彼女の夫は

国の長老たちの間で座るとき、門で知られるようになる（夫はキリストの体の中で、そして神の奉仕者たちの間で座るとき、権威ある人として知られ、認められる）。彼女は亜麻布を織って売り、周りの人々に義のうちを歩ませる。そして帯（真実）を商人（夫）に渡す。

力と名誉が彼女の衣服であり、彼女は後の時代に喜びに満たされるであろう。彼女は知恵をもって口を開き、その舌には慈悲の法則がある（彼女は非常に慈悲深い）。彼女は家のことに気を配り、怠惰の糧を食べない（彼女は怠惰や怠け者になることを信じない）。彼女の子供たちは立ち上がり、彼女を祝福し、彼女の夫もまた彼女を称える。多くの娘たちが徳を積んできたが、あなたはそのすべてにまさっている。好意は人を欺き、美しさは空虚である。しかし主を畏れる女は称賛されるであろう。彼女に彼女の手の実を与えよ。そして、彼女自身の行い（服従と愛を通して）が門（キリストの体）で彼女を称えるようにせよ。

これはまさに、神がご自身の契約の真髄を理解している女性や妻に期待しておられることです。この聖句を一つ一つ読み進めると、本書の読者はキリスト教世界がどれほど欺瞞に陥ってきたかに気づくでしょう。聖書は、神が徳の高い女性を求めており、その代価はルビー（象徴的には血）よりもはるかに高いと述べています。無知な信者の中には、「どうしてこの人は徳の高い女性の代価は血よりもはるかに高いと言えるのか」と尋ねる人もいます。確かに神は御言葉の中でそう仰っていますが、もし疑問に思われるなら、お電話かメールでご連絡ください。詳しくご説明いたします。まずは本書の読者のために、「徳の高い」の意味を詳しく説明させていただきます。

「徳のある」という言葉はヘブライ語で Chayil と発音され、人、手段、またはその他の資源の力、軍隊（すなわち、服従している場合は神の軍隊、反逆している場合は悪魔の軍隊）、富、美德、勇気、強さ、勇敢な、などを意味します。Chambers Dictionary では、「徳のある」は virtue の形容詞で、美德がある、道徳的に良い、非難の余地がない、正しい、貞潔な、などを意味します。しかし、この単語の由来である名詞の virtue は、卓越性、価値、道徳的卓越性、固有の力（すなわち、持続する、または分離できない力）、有効性（すなわち、効果を生み出す力）、優れた性質、などを意味します。Valour または valiant は、積極的に勇敢である、英雄的、勇敢である、強い、などを意味します。

軍隊とは、戦争のために武装し軍事指揮下にある大勢の人々の集団、特別な目的のために結集した人々の集団、大勢、多数、多数を意味します。

「徳」という言葉の意味を全て見てみると、神が女性に授けた力は恐るべきものであることが分かります。箴言31章10節の終わりを注意深く研究すると、徳の高い妻の究極の功績は夫にあることが分かります。夫以外で彼女が成し遂げたことはすべて、二次的な価値しかありません。彼女は自分の功績を夫の成功で測るべきです。なぜなら、彼女の命は今や夫の中に隠されているからです。夫の成功は、彼女の成功の表れです。夫が成功すれば、彼女も成功し、夫が失敗すれば、彼女も失敗します。

11節でソロモンは、「夫の心は彼女に信頼を置くので、彼は略奪の必要がありません」と言いました。「安全に」という言葉はヘブライ語で betach (betach) と発音され、避難所、安全を意味します。事実（安心）と感情（信頼）の両方、安全、確信、大胆、自信、希望、安全、安心、確実です。妻が自分の人生でこのような役割を果たしているなら、夫は他にどのような確信や自信、安心感を必要とするのでしょうか？妻の承認こそが、夫に必要なすべてです。多くの場合、男性はビジネスで成功するために限界を超えて努力し、中には詐欺や犯罪行為、取引に手を染めたり、秘密結社に加入して自己証明しようとする人もいます。しかし、彼らの多くが抱える問題は、妻からの承認という確信を一度も持ったことがないことです。妻を喜ばせたり、承認を得たりするために、これらの男性は、夫がいないなら決してしないことを何でもします。

通常の状況では、真に徳の高い妻を持つ男性は、他の誰の承認や保証にも頼りません。他の誰もが彼を誤解し、裏切ることさえあるかもしれませんが、彼は完全に信頼できる人が一人いることを知っています。それは彼の妻です。なぜ彼は妻に絶対的に頼るのでしょうか？その答えは12節にあります。「彼女は一生の間、夫に善を行い、悪を行わない」。彼女は一生、夫に対して悪を企てたり、考えたりすることはありません。意見の相違や、特定の問題に関して異なる見解を持つ時期があるかもしれませんが、それは長くは続きません。なぜなら、この契約関係の頭である神が男性を通して決定したことは、最終的に成就するからです（箴19:21）。女性の性格は箴31:23で公に示されており、「彼女の夫は国の長老たちの中に座しているとき、門で知られる」とあります。

これは、夫が権威ある人物、あるいは自分の民、あるいは神の民の間で認められた指導者として知られ、栄誉ある地位に就き、深く尊敬され、成功し、自信に満ちていることを意味します。しかし、夫のこの崇高な地位の大部分は、妻の成功の現れです。妻の支えがなければ、夫はいかなる名誉ある地位や権威も得ることはできなかったでしょう。妻の最大の功績は、28-29節にある家族の反応に見ることができます。「子供たちは立ち上がり、彼女を祝福し、夫もまた彼女を称え、彼女を称賛する」とあります。夫への称賛の言葉には、「多くの娘が徳の高い行いをしましたが、あなたはそのすべてに勝っています」という一節があります。徳の高い妻が夫から得られる最大の報酬の一つは称賛です。もしあなたの妻がここで描かれているような女性であるなら、あるいはそうならと努力しているなら、彼女を絶えず称賛すること以上に報いとなるものはありません。彼女の料理の味や美味しさ、どれほど楽しんでるかなど、たっぷり褒めてあげましょう。彼女が家をきれいにしているのを見るとどれほど幸せを感じるか、どれほど美しいか、どれほど彼女を愛しているかなどを伝えましょう。

妻のこれらの契約上の義務はどうすれば可能になるのでしょうか？

1. まず第一に、夫に全てにおいて従うことです。あなたの人生（つまり妻）において、夫に従わないべき領域などありません。夫が下すどんな決断についても、決して口論をはいけません。そうしなければ、悪魔に扉を開けてしまうでしょう。あなたは夫の柵であり、その柵が崩れれば、家は猛攻撃にさらされることを忘れないでください。不満がある時は、祈りを通して神に頼り、神が行動してくださるよう少し辛抱強く待ちましょう。もしかしら、神はあなたに何かを教えようとしている、あるいはあなたから何かを取り除こうとしているのかもしれませんが。そのために、夫が一時的にそのような振る舞いを許したのかもしれませんが。あるいは、夫の神に仕える牧師／羊飼いに謙虚に報告するのも良いでしょう。

そして、もしそのような牧師／牧者が、神の契約の観点から結婚とは何かを理解しているなら、双方にどう助言すべきかを知るでしょう。この基準は非常に難しいものですが、あなたが従順さを満たし、あるいは神があなたの忍耐と謙遜さを男性、あるいはあなたの夫を通して試し、証明した時、神はそれらの厳しい基準や厳しい決断の一部を緩め始め、あなたは流れ始めるでしょう（参照：ペトロの手紙—3章1節）。

6、ペトロ第一—2:19-25、テモテ第一—2:11-15、箴言14:1）。主が今や確信を抱かれていますので、その権威のほとんどをあなたに委ねられることも分かるでしょう。

2. 第二に、妻として夫を支えなければなりません。聖書はコリント人への第一の手紙11章3節でこう言っています。「しかし、あなたがたに知ってほしいのは、すべての男の頭はキリストであり、女の頭は男であり、キリストの頭は神であるということです。当然のことながら、最終的な決定や指示は頭である夫によって下されますが、頭は自らを支えることはできません。頭は常に体の他の部分、特に首に依存して支えられています。体からの支えがなければ、頭だけではその機能を果たすことはできません。妻は頭である夫を支える首です。彼女は夫に最も近い存在であり、夫は妻を支えなければなりません。」

常に頼りにしています。彼女が彼の行動を支えてくれなければ、彼は本来の力を発揮することはできません。「成功した男の陰には女性がいる」という言葉がありますが、私が付け加えたいのは、それは単なる女性ではなく、高潔な女性の存在だということです。

女性。

3. 3つ目の解決策は、夫を励ますことです。男性は常に妻に励ましを求めます。「常に」と強調したのは、私がここで言う励ましは、物事が順調に進んでいる時や、妻であるあなたが望むことを夫がしている時だけに行うべきものではないからです。特にプレッシャーや困難に直面している時に誰かを励ますことは、誰にとっても最も難しいことのひとつです。ましてや、誰よりも苦痛と失望を感じている妻は言うまでもありません。励ますよりも、批判したり、非難したり、不平を言ったりする方が簡単です。女性が神から与えられた力を知るなら、妻が夫を励ますことに同意さえすれば、うまくいかない結婚生活も妻を通して成功へと導くことができることを理解するでしょう。しかし、そのためには妻は多くのことを犠牲にしなければなりません。これが、この契約が語っていることの全てです。あなたは今、自分のためではなく、夫のために生きているのです。

#### 夫の妻に対する契約上の義務

夫と妻の契約上の義務について学び、教える際に、ある聖句は他の多くの分野への扉を開くため、覚えておくことが非常に重要です。パウロは結婚という制度について学んだ後、こう述べています。

「男は神のかたちであり栄光であるから、頭に覆いを着けるべきではない。しかし、女は男の栄光である」（コリント第一11:7）。

「栄光」はギリシャ語でdxa（ドクサ）と発音され、尊厳（すなわち人格の向上）、名誉、賞賛、崇拝を意味します。しかし、チェンバーズ辞典によると、栄光とは、名声、高揚した栄誉、輝かしい、あるいは勝利に満ちた栄誉、広く称賛されるもの（すなわち、妻はどこへ行っても賞賛を集める。人々は、妻が夫の姿を映し出しているため、妻と同一視したり、妻を知りたがりたりする）、至高の誇り、美しさ、壮麗さ、まばゆいばかりの輝き（月のように輝く）、達成の頂点（最高点）、繁栄または満足（すなわち、宗教的象徴において）、月の周りの光の輪または輝き、自慢げな、あるいは自己満足的な精神（古語）、神の臨在、天における祝福された者の顕現、開かれた天の象徴、誇らしげに歓喜すること（すなわち、大いに喜ぶ、あるいは勝利すること）、歓喜することなどを意味します。

これが指し示すものは、妻、つまり夫の成功と同じです。

聖霊はここでパウロを通して、夫の成功は妻に現れることを指摘しています。妻は夫の名声、高い地位、広く称賛される賞賛、栄誉、繁栄、神の臨在、輝かしい輝きなどを反映します。これらの定義をすべてまとめると、妻は夫の最大の功績と言えるでしょう。夫婦の関係は「月と太陽」に例えることができます。月は太陽の栄光であり、これは月自体に栄光はないという意味です。月の美しさは太陽の輝きを反射することから生まれます。太陽と月の間に何も挟まない限り、月は太陽の輝きを反射し続けます。同様に、妻は月であり、夫は太陽です。ですから、誰かが夫と妻の間に割って入ってくると、もし夫が真に霊の中にいるなら、妻が夫から受け取るはずの反射は薄れ、妻はその光を失うこととなります。あなたの妻は、あなたの霊の中の姿を反映しているので、あなたの完璧な姿なのです。夫は時々、夫の弱点をチェックすると良いでしょう。

なぜなら、ほとんどの場合、それはあなたが知らない間に忍び寄ってきた、あなた自身の対応する問題の反映だからです。

夫が契約上の義務を果たしていることを証明するために、妻にどのような証拠を見るべきでしょうか？

答えは8文字の言葉、「安心」にあります。妻が真に安心しているとき、つまり感情面（怒り、喜び、恐れ、悲しみなど、感情の揺れ動き、心の動揺）、経済面（金銭面での援助、金銭による支援）、社会面（組織化された共同体での生活、その共同体における福祉など）、霊面（神の国の真のビジョンを持ち、家族と共にそれを追求している）において安心しているとき、それは妻と夫の関係が良好であり、夫が契約上の義務を果たしていることを示す十分な証拠です。しかし、妻がしばしば不安を感じているなら、2つの理由が考えられます。夫が妻への義務を果たしていないか、あるいは何か、あるいは誰かが妻の間に割って入り、夫が妻に与えるべきものを受け取ることを妨げているかのどちらかです。夫が契約上の義務を果たすための実際的な方法は、妻を「守り、養う」ことです。妻は、夫がどんな攻撃やプレッシャーからでも、それがどこから来るものであろうと、自分の間に割って入ってくれと分かっていると、幸せで安心感を覚えます。どんな問題や危険にも耐えられる、頼りになる男性が必要なのです。妻は、あなたが困難に立ち向かい、それを乗り越えて成功する姿を見たいのです。権威ある男性として、家庭においてもそれを行ってほしいのです。そして、あらゆる外部からの攻撃から、自分と子供たちを守ってほしいのです（男性が妻の霊的な保護を必要とするのと同じように、妻も夫の肉体的な保護を必要とするのです）。男性のもう一つの義務は、妻を養うことです。この点について、パウロはこう述べています。

「しかし、自分の親族、特に自分の家の者を顧みない者がいるなら、その人は信仰を捨てたことになり、不信者よりも悪いのです。」（テモテ第一 5:8）

これは、未亡人の世話をする方法を聖徒たちに教えるパウロの訓戒の一部です。

これは、テモテへの第一の手紙5章3-16節に記されているような状況にある60歳までの未亡人が、まさにあなたの家の一員であることを示しています。もし聖徒の中に、神の基準にかなうそのような未亡人がいるなら、彼女の必要を満たすのはあなたの義務です。だからこそ、イエスは十字架上で死を覚悟していた時、ヨハネにマリアの世話を命じたのです。

ここでポールが言及している「備える」という言葉はギリシャ語でPrnで、発音はpron--eh-oで、事前に考慮する、つまり事前に（実際には他人の扶養、用心深さ、用心深さ、あるいは自己吟味によって）注意を払うことを意味します。チェンバース辞典は、provideを「供給する、提供する、譲る、特に実際に空く前に恩給地を任命または権利を与える、規定する、事前に準備する（廃れるようにする）、将来の使用に備える、備えをする、物資、手段、あるいは望ましいまたは必要な物資を調達する、（賛成または反対の）措置を講じる」などと定義しています。これは、彼女が現在抱えているニーズがなくなる前に、彼女と家全体のニーズを満たす準備をするという意味です。もし彼女が、重要でないものにお金を惜しみなく使ったり無駄遣いしたりして、家族にとって本当に大切なものを買ってあげないような浪費家なら、あなたが彼女にお金を渡した物の購入を監督し、さらに彼女が自分の物を買うためのお金を与えるべきです。いつ、そしていつ、どのように、そして ...

妻の、そして家族全体の必要をどのように満たすかに気を配らなければ、夫は家庭における権威を自動的に失ってしまいます。妻の必要が、肉体的、感情的、社会的（つまり聖書の言葉によれば）、霊的、経済的のいずれであっても、あなたが満たさないものがないようにしなければなりません。あなたは妻の「目の覆い」である以上、すべてをカバーしなければなりません。妻はこれらの必要を満たすために他の誰かに頼るべきではありません。あなたがこれらすべてのことを行っているなら、妻だけでなく、彼女の友人や親戚からも大きな尊敬を集め、多くの人々が「あなたの夫はあなたをよく世話してくれている」と言うでしょう。なぜでしょうか？それは、女性がどこでも得るべき誇りや尊敬は、教育やお金や美しさではなく、夫にあるからです。結婚という契約関係における互いの義務を要約すると、夫は妻を守り、養うべきであり、妻は夫を支え、励ますべきです。二人がこれを行うには神の恵みが必要であり、この恵みは二人が厳粛な契約関係に身を捧げることによってのみ得られるのです。

## 第9章

### 契約は知識への扉を開く

この章を扱うには、結婚と知識の意味を理解する必要があります。なぜなら、男性と女性が互いへのコミットメントを通じて結婚の契約を結ぶとき、他の方法では不可能な、お互いを深く知ることになるからです。チェンバーズ辞典によると、結婚とは、男性と女性が夫と妻になる儀式、行為、契約、つまり男性と女性が夫と妻として結ばれることを意味します。一方、知識は動詞「知る」の名詞です。したがって、知るという言葉はヘブライ語で yâda であり、yaw-dah と発音され、観察、配慮、認識、承認、知り合い、知覚、内々、理解を意味します。しかし、チェンバーズ辞典は、知るを「知らされる、または保証される、知り合いである、学んだり経験したりして親しい、認識する、注目する、承認する、知識を有する（霊的に性交する）」と説明しています。しかし、知識とは、知られているもの、情報、教え、啓示、学問、実践的な技能、確信、知り合い、認識（法）、性的親密さを意味します。結婚、知る、知識の意味を見てみると、多くの人が結婚とは何かを理解していないことが明白です。聖書の観点から見ると、知る、あるいは知識とは、互いに性交または親密になることを指します。旧約聖書の著者たちは、神と結婚の契約を結んだ夫婦による道徳的または合法的な性交と、結婚の契約を結んでいない者による不道徳または違法な性交を区別していたことに留意することが重要です。したがって、神に認められていない不法、違法、または不道徳な性交の場合、聖書は「彼は彼女と寝た」と結論付けていますが、神と契約を結んだ夫婦による道徳的または合法的な性交の場合、聖書は「彼は彼女を知っていた」と述べています。いくつかの例を挙げます。

「アダムは妻エバを知り、彼女は身ごもった。」（創世記4:1）

「カインは妻を知った。彼女はみごもってエノクを産んだ。」（創世記4:17）

「そしてアダムは再び妻を知った。彼女は男の子を産み、その名をセツと名付けた。」  
（創世記4:25）

「エルカナは妻ハナを知った。そして主は彼女を覚えておられた」（サムエル記上1:19）。

「その夜、彼女たちは父に酒を飲ませ、長女は家に入って父と寝た。」（創世記19:33）

「その夜も、彼女たちは父に酒を飲ませ、弟は起きて父と寝た。」（創世記19:35）

「ヒビ人ハモルの子でその地方の君主であったシケムは彼女を見て、彼女を捕らえ、彼女と寝て、彼女を汚した」（創世記34:2）。

「ダビデは使者を遣わして彼女を連れて行った。彼女はダビデのもとに来て、彼は彼女と寝た。」(サムエル記下11:4)

これは、男性が女性を知らずに、不法または不道徳な性交をすることができることを示しています。聖書がこの種の性交や関係を述べているのは、死刑に処される姦淫です。パウロが主の霊感によってどのようにそれを描写したかを見てください。

「あなたがたは知らないのか。不義なる者は神の国を受け継がない。惑わされてはならない。不品行な者、偶像を拝む者、姦淫する者、男娼、男色にふける者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、ののしる者、ゆすり取る者は、神の国を受け継がない。」(コリント人への第一の手紙6章9-10節)

「不品行を避けなさい。人が犯す罪はすべて、肉体から出るものではありません。しかし、不品行を犯す者は、自分の肉体に対して罪を犯すのです。あなたがたは知らないのですか。あなたがたの体は、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは代価を払って買い取られたのですから、あなたがたの体と霊によって、神である神の栄光を現しなさい。」(コリント人への第一の手紙6章18-20節)

神と夫婦として契約を結んだ男女間の性交、あるいは性的な関係は、二人の結びつきの肉体的な現れです。この合法的、あるいは道徳的な親密な関係においてこそ、二人は真に一つの肉となるのです。それは、神に自らの意志を捧げる契約のクリスチャンが、真の、あるいは親密な神への礼拝に入る時、キリストが彼らと一つの霊となるのと同じです。これは、互いから得られる感情的、肉体的な満足とは別に、イエスの血、すなわち契約の血によって聖化された血を交換しているからです。

だからこそ神は血を非常に重視するのです。エイズをはじめとする多くの病気が血を通して感染するのは、その交換が不道徳だからです。旧約聖書における不道徳な性関係の記述は、多くの女性と知らないまま寝ることができることを示しています。なぜでしょうか？それは、知識は契約から生まれるからです。

聖書が結婚と知識をどのように関連づけているかを説明してきたので、知識と結婚を人間の観点から、または辞書の定義から見て、この神聖な契約を軽蔑してきた人々に警告するのが適切です。

まず、チェンバース辞典によれば、結婚とは「男と女を夫と妻として結びつける儀式、行為、または契約」と説明されています。パウロはヘブライ人への戒めの中でこう言いました。

結婚はすべての人にとって尊ばれ、寝床は汚れのないものである。しかし、淫行者と姦淫する者を神は裁かれる(ヘブライ13:4)。

名誉ある(honourable)という言葉はギリシャ語でティミス(Timis)で、tim/-ee-osと発音され、貴重な、すなわち(対象)高価な、あるいは(主語)尊敬される、尊重される、(比喩)愛されるという意味です。親愛なる、名誉ある、尊敬される、(さらに、最も)貴重な、評判の良い。チェンバース辞典は、honourableを「名誉に値する、輝かしい、名誉の原則に従う、善良な、正直な、名誉を与える、高貴な身分の人にならざるを得ない」と説明しています。一方、汚れのない(undefiled)という言葉はギリシャ語でアミアントス(amiantos)で、am-es/-an-tosと発音され、汚れていない、すなわち(比喩)純粋な、汚れていない、汚染されていない、侵害されていない、腐敗していないという意味です。異邦人の使徒パウロは、

ユダヤ人が異邦人に対して、結婚を含むあらゆる面で差別的な態度をとっているのを目の当たりにしました。ユダヤ人の慣習に従わない限り、それは結婚ではない、改宗前に結婚していた者は、配偶者が悔い改めを拒むなら、主のもとで再婚すべきだ、といった考えです。これは割礼の場合も同様で、異邦人の信者は割礼を受けなければ救いは不完全だと彼らは言っていました。そこで聖霊は、ユダヤ人だけでなく全世界に、少年ではない男と少女ではない女が、二人または三人の証人によって証明され、夫婦として結ばれる、あるいは誓約するあらゆる慣習、律法、儀式、契約、行為は、神の前に尊ばれ、受け入れられるものである、と警告するように彼を導きました。そして、そのような人々は、結婚していないと信じて婚外交渉を始めてはいけません。たとえ配偶者が悔い改め、改宗することを拒否したとしても、再婚すべきではありません。なぜなら、そのような絆や誓約から当事者を解放できるのは死だけだからです。信仰を失うかもしれないと感じて別れたいならどうしても構いませんが、再婚したり姦淫を犯したりしてはいけません（参照：ローマ7:1-3、コリント第一7:10-15）。

パウロが何を意味していたのか、今日のキリスト教世界、そして世界全体で行われていることと関連して詳しく説明しましょう。世界の多くの国々では、男女が夫婦として生活するためには、それぞれの村、町、あるいは国における伝統的な結婚慣習を守らなければならないと信じています。もし守られなければ、彼らは夫婦とはみなされません。この点に関して、私と神の立場は、聖書の律法の一部さえ守られればそれで良いというものです。なぜなら、世界のすべての国の慣習は神の言葉に従っているからです。例えば、男性が結婚に適うためには、次の聖句を守らなければなりません。

それゆえ、人は父母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。（創世記2:24）

この本ではこの聖句を何度も様々な角度から説明してきましたが、もう一度説明します。父と母のもとを去るということは、彼らの家を出て自分の家を借りたり買ったり建てたりすることではなく、むしろ彼らの支配や影響からすべてにおいて自分を解放し、彼らのすべての慣習や伝統（霊的、結婚生活、物質的、経済的、社会的、文化的など）を放棄し、捨て去り、辞め、出発し、放棄し、辞任することです。彼らを離れなければ、完璧なパートナーは見つからないでしょうし、たとえ見つけても、彼らは常にあなたの決断に影響を与えるので、彼女と固く結びつくことはできないでしょう。この説明を裏付けるために、次のことを見てください。

「人が主に誓願を立てたり、誓いを立てて自分の魂を縛り付ける場合、その約束を破ってはならない。すべて自分の口から出ることを行わなければならない。」  
（民数記30:2）

これが意味するのは、男性は自分自身に影響を与える決定を下すのに父親の承認を必要としないということです。だからこそ、利害の衝突を避けるために、父親のもとを離れることが期待されているのです。つまり、男性は両親に相談したり承認を得たりすることなく、出身州や国を離れ、別の州や国に帰化することを決断できるのです。帰化した州や国で結婚することを選択した場合、その州や国の市民と結婚するかどうかに関わらず、彼は帰化した州や国の慣習に従うことになり、出身州や国の慣習に従うことはありません。しかし、多くの親はこれを快く思っていないかもしれません。彼らは、自分の子供はまだ結婚していないと主張します。なぜでしょうか？それは、子供たちがその慣習に従っていないと彼らが信じているからです。

彼らは父祖の教えを守り、また、自分たちの結婚に同胞が介入することを許さなかった。こうして彼らは、あらゆる伝統と慣習を統べる神の言葉、そして20歳以上の男子が望むならば両親から離れることも、あるいは両親から救い出されることも許す神の言葉を、無知にも攻撃し続けている。例えば、この問題に関する神のモーセへの戒めを見てみよう。

「イスラエルの子らの全会衆を、氏族ごとに、父祖の家ごとに、名の数を数え、イスラエルのうちで戦争に出ることのできる二十歳以上の男子をすべて数えなさい。あなたとアロンは彼らを軍隊ごとに数えなさい。」(民数記1:2-3)

---

これは聖書において、若者が父親の支配や影響から解放される、あるいは分離されるべき年齢です。実際、民数記第1章全体と出エジプト記第30章11-16節は、この分離、あるいは救済の時代について語っています。この時代にも、多くの若者が法廷で結婚することを選択するかもしれませんが、そして、これもまた結婚として受け入れられます。では、もしその若者が主イエスの弟子であり、伝統、慣習、そしてこの世のあらゆるシステムから切り離されているとしたらどうでしょうか？これは、私がこれまで述べた他のすべての状況よりも、神の前に受け入れられ、より尊ばれることです。なぜでしょうか？それは簡単です。彼が神にとっての分離の意味を理解し、アブラハムのように、あるいはこの聖書にあるようにそれを守るならば、です。

「これらの人々は皆、信仰をいじめて死んだ。約束のものは受けなかったが、はるかにそれを望み見て確信し、それを抱きしめ、そして、自分たちが地上では寄留者であり寄留者であることを告白した。このようなことを言う人たちは、自分たちが故郷を求めていることを明らかに示している。もし彼らが出て来た故郷のことを心に留めていたなら、帰る機会もあったであろう。しかし今、彼らはさらに良い故郷、すなわち天の故郷を望んでいる。だから神は彼らの神と呼ばれても恥とはならない。神は彼らのために都を備えておられるからである。」(ヘブライ人への手紙 11:13-16)

そして神は、彼を、分離の知識を持つだけでなく、彼自身と同様に分離している若い女性へと導きます。もし彼らが、分離の意味を理解している二、三人の証人によって証言されているように、分離の中にある神の油注がれた人によって、教会や交わりの中で結び合わされるかもしれません。これは、この聖句を通してパウロによって明らかにされています。主イエスの弟子である、分離された器は、天にある別の国の市民であり、それゆえ、地上のいかなる伝統や慣習にも縛られません。これがイエスの血が払われた代価であり、だからこそ、贖いの血（分離）と呼ばれるのです。それは、あなたがたをこれらすべての伝統や慣習、そしてこの世のあらゆる体制から贖い、あるいは分離し、神の御心のみを行うようにするのです。では、どのようにして、女性は父の家や支配、影響力から離れ、神に対して罪を犯すことなく、また、自分の民の伝統や慣習に反することなく、このような結婚をすることができるのでしょうか。この質問に正しく答えるには、旧約聖書では不可能だったことが、新約聖書ではイエスの血によって可能になったという事実を指摘することが非常に重要です。例えば、パウロが書いたこの手紙にはこう記されています。

---

「キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは皆、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つなのです。」(ガラテヤ3:27-28)——

この聖句について説明したいのは、神の聖職者の中には、男性と女性の区別はもうないはずだと信じ、女性を牧師、伝道者、教師、預言者、使徒、司教などに任命し続けることで、神への反抗を隠すためにこの聖句を利用している者がいるからです。これは大きな霊的誤りです。なぜなら、新約聖書では、神は主にあって年老いた、あるいは成熟した女性のみを、教会のしもべ（神のしもべではない）か、ある人が名付けたように女性執事となることを許しているからです。パウロがここで言おうとしたのは、旧約聖書では、イスラエル人ではない者、奴隷である者、そして女性は軍隊（今日の弟子であることと同じこと）に入隊できず、幕屋で働くことも許されなかったということです。しかし今、あなたが再び生まれ、水と聖霊のバプテスマを受けたなら、どこから来たかに関わらず、あなたはキリストを身にまとったのです。ですから、主のぶどう園で弟子として登録したり、働いたりする資格を得ます。これは、若い女性が20歳になる頃には、男性と同様に、贖罪か別離の年齢に達しており、それゆえ、自分の民族、州、あるいは出身国を捨て、他の州や国でより豊かな牧草地を求め、あるいは神のもとに身を捧げることを決意する可能性があることを示しています。モーセは民数記の中で、神からこのことを明確に教えられました。神はこう言われました。

「女が若い時、父の家にいる間に、主に誓願を立て、誓約を交わし、父がその誓願と、彼女が身を縛った誓約を聞いて、父が黙っているならば、彼女の誓願と、彼女が身を縛ったすべての誓約は有効である。しかし、父がそれを聞いた日にそれを禁じるならば、彼女の誓願も、彼女が身を縛ったすべての誓約も有効ではない。父が彼女を禁じたからといって、主は彼女を赦すであろう。」（民数記30:3-5）

もし彼女が両親と暮らしていて、20歳の時に父親の支配、影響、または優位性から抜け出すことを決意し、父親がその決意を聞いて止めなかった場合、彼女がそうすることを望むなら、彼女はすべての伝統と慣習から自由になったこととなります。そして、この彼女の新しい自由な状態で、彼女が住んでいる州または国に帰化することを決意し、おそらくは好きな若い男性と結婚することを決意したり、神が彼女を導くかもしれないとしても、その結婚における父親の伝統を守るという法律上の拘束はありません。この基準は、私たちの主イエスの真の弟子であり、父親の家、支配、影響、または優位性から離れた未婚の若い女性にも当てはまります。彼女たちが祈りの気持ちで契約のパートナーを見つけたのであれば、父親の伝統や慣習に縛られるべきではありません。これは、娘たちにより良い仕事や事業を営ませ、両親の面倒を見させようとする親にとって、教訓となるはずですが、彼らは娘たちに対して神から与えられた権威を失い、結婚という局面を迎えると、それを取り戻そうとします。しかし、聖書は、権威を一度失えば、娘たちとの絆は自動的に確立され、二度と取り戻すことはできないことを証明しています。聖書において、男性と女性がそれぞれ男と女とみなされる年齢、そしてチェンバース辞典によれば、夫婦となるための結婚行為、儀式、契約を行うことができた年齢について述べた後、人間的な視点、あるいは辞典の定義から、知識について説明し、結婚と関連付けたいと思います。「知る」または「知識」は、何かまたは誰かを注意深く観察すること、誰かまたは何かに気づく、認識する、理解する、または知り合いになること、誰かまたは何かを学んだり経験したりして、その人または何かに精通していることを意味します。これは、実際には、若い男が若い女性に近づいて結婚を申し込むことを意味します。

結婚は、女性の性格や生活習慣を注意深く観察し、注目し、理解し、あるいは熟知した上で行われるべきであり、若い女性は、若い男性を知り、経験することで、その行動をよく理解した場合にのみ、男性のプロポーズに応じるでしょう。多くの結婚は、夫婦が結婚前に互いを知らず、あるいは時間をかけて自分自身を研究し、互いの性格を熟知しようとしなかったために破綻し、あるいは破綻寸前です。私は、いかなる形の不道徳または違法行為、あるいは多くのカリスマ的な神の聖職者が説き、多くの不道徳を助長するようなデートや求愛を勧誘しているわけではありません。多くの好色な若い男性が、これらの聖職者の無知につけ込み、結婚の名の下に、しかも結婚することなく、多くの姉妹を墮落させているからです。結婚が完了する前に婚約者が若い女性と肉体関係を持つことは、いかなる形の不品行であれ、死刑に処されるべき姦通です。これは聖書に非常に明確に記されています。なぜなら、結婚がうまくいかなかった場合、男は誰のために女を捨てるのでしょうか？今日、多くの親が、金銭的・物質的な利益のため、あるいは何の利益にもならない長年の伝統や慣習のために、子供を奴隷として売り渡し、永遠の後悔や悲しみに陥れています。中には、娘をまだ支配したり、夫を選んだりできるうちに、早く結婚を強要する親もいます。このような結婚はたいして失敗に終わります。なぜなら、娘たちは成人した時に、自分がその男を愛していなかったこと、あるいは最初からその男の行動に全く注意を払っていなかったことに気づくからです。しかし、真実は、娘が人生の伴侶を選ぶことを許されていなかったということです。箴言18章22節で、主がソロモン王を通して「妻を得る者は良いものを得、主の恵みを得る」と言われた時、主は真剣にそうされました。多くの親が今、成功していないことを、主は試みたのです。神はアダムを創造しました。アダムはエバが連れて来られたことに喜びに満ちていましたが、神に罪を犯し、求めてもいない女性を与えたとして神を責めました。ですから、神はこの探し求めるという問題を当事者の手に委ねておられます。若い男たちは、自分にぴったり合うと分かっている欠けた肋骨を見つけなさい。若い女性は、自分が正しい選択をしているかどうかを知るために静かに祈りなさい。あるいは、自分がふさわしい相手かどうかを知るために、辛抱強く自分自身を研究しなさい。親は、子供たちの妻や夫を選ぶことには手を出さず、伝統や慣習で子供たちの障害となるようなことはやめるべきです。あるいは、同じ中学校や高校に通い、後に同じ大学に進学し、9年から10年以上かけて自分自身を研究し理解し、ついに結婚という長年の関係を結ぼうと決心した二人の同級生（男女）について、何と言えるでしょうか。突然、若い男の親か若い女性の親が、息子や娘が婚約者と結婚しないよう強く主張し、障害となるのです。その代わりに、息子や娘が知らない、あるいは一生を共に過ごす覚悟もない相手を手配するのです。こうした操作に耳を貸すと、若い男女の悲しみや破滅の始まりとなります。そして、海外で真に、あるいは合法的に結婚した人、つまり、市民権カードを取得するための見合い結婚や契約結婚（つまり、夫婦間の結婚）ではなく、後にアメリカや母国に戻り、おそらくは母国の市民と再婚する人は、姦通を犯していることとなります。

そして、もし悔い改めなければ、彼らは地獄の火で滅びます（マタイ19:3-11参照）。姦淫を犯した者たちがそこから学び、悔い改めるように、ここで私が言っていることの一つの例を挙げたいと思います。

ナイジェリアに帰国する前に、長年アメリカ合衆国で暮らしていた男性がいました。彼はアメリカで出会ったヨーロッパの国出身の女性と結婚し、二人の間には男の子と女の子の二人の子供がいました。

妻と子供たちはまだ米国にいましたが、男性はナイジェリアに定住する計画を立てていました。そしてナイジェリアに戻ったとき、彼は主を見出したのです。これは 1989 年頃のことでした。彼は、妻と子供たちがまだナイジェリアに同行する準備ができていないため、どうすればよいかと、当時私が参加していた交わりの主任牧師に相談しました。私は解放の牧師の一人だったので、牧師は私たちの意見を求めるためにこの件を私たちに持ちかけました。主任牧師を含むすべての兄弟たちは、妻がナイジェリアへの同行を拒否した場合、男性が再婚できると無知にも支持しました。彼らは、自分たちの主張を補強するために、いくつかの理由を挙げました。(a)男性は未信者のときに妻と結婚し、主を見出したので、主との新しい契約に入り、今や主にあって結婚することを決意できる。(b)聖書にはコリント人への第一の手紙 7 章 15 節にこう書いてある。「しかし、もし信じない者が離れるなら、離れなさい。兄弟や姉妹はそのような場合には束縛されるものではありません。神は私たちを平和へと招いてくださったのです。」

私は彼らに、当時私が神の言葉について知っているわずかな知識から、夫婦を引き裂くのは死だけだと伝えました。妻の姦淫も、男性が主イエスへの新たな信仰を持つことも、離婚や再婚の原因にはならないと述べました。また、男性は独りで主に従い、主がお望みなら妻を再び彼のもとへ連れ戻すこともできると伝えました。すると同僚たちは私に尋ねました。「妻が彼のもとへ戻る準備ができていないのに、どうすれば姦淫を抑制したり避けたりできるのですか？」と。私は彼らに、もし断食を続け、神の恵みを祈り続けることができないのであれば、アメリカに帰って妻と子供たちのもとへ戻ればいい、しかし信仰を捨ててはいけない、そうすれば神は彼に慈悲を与え、定められた時に彼の人生を正しい方向へ導いてくれる、と答えました。しかし、同僚たちは、その男性が再婚するように導かれたため、当時の私の意見は根拠のないものでした。神は私をその奉仕の場から連れ出し、私を訓練するために御自身のもとへ引き離されたので、その後の出来事は私には分かりません。

このような事例は世界中だけでなくキリスト教世界にも数百万件あり、多くの牧師や聖職者たちが、この尊い契約制度の破壊に加担してきました。だからこそ使徒パウロは聖霊の導きによって、世界のいかなる地域にあっても、少年や姦夫ではなく男を、あるいは少女や姦婦ではなく女を夫と妻とする伝統、慣習、儀式、行為、契約は、神の前に受け入れられ、荣誉ある、尊敬すべき、高く評価されるべきであると主張しました。そして、当事者は婚外交渉を行うべきではありません。なぜなら、それは姦淫だからです。

最後に、私は主に代わって人々に警告しなければなりません。女性は夫を見るのと同じように他の男性を恋愛感情を持って見るべきではなく、同様に夫も異性からそのような視線を受けたり、異性をそのような目で見たりしてはいけません。なぜなら、それは誘惑行為だからです（創世記20:1-16）。

## 第10章

### 主イエス・キリストと教会との契約

神と教会との契約は、アダムが妻イブの助言によって神との契約を破り、善悪を知る木の禁断の実を食べた時に生まれました。この時、神は降臨し、契約を破ったすべての器を呪いました。神は女に、彼女の子孫がサタンの頭を砕き、サタンは女の子孫のかかとを砕くであろうと告げました。

---

(創世記3:15)神はアブラハムという名の男を選び、彼に自分の国、親族、父の家を離れ、後に神が示す異国の地へ行くように告げた時、この奥義を解き明かし始めました。神はアブラハムを大いなる国民とし、その名を大いなるものとされとおっしゃいました。また、アブラハムを通して地のすべての民族が祝福を受けるように、彼を祝福すると約束されました(創世記12:1-3)。アブラハムが甥のロトを連れていた後、カナンの地でアブラハムの牧夫とロトの牧夫との間で争いが起こり、ロトと別れた時、神はアブラハムに語りかけ、彼が住んでいる地の東西南北を、神(アブラハム)とその子孫に与えるとおっしゃいました。注目すべきことに、神はアブラハムがロトと別れるまで、彼に相続地のビジョンを一度も示さなかった。これは多くの信者、特に家族への執着によって神の国へのビジョンを徐々に失いつつある、離別した器である者たちにとって、教訓となるべきである(創世記13:14-17参照)。神はアブラハムとの契約を終えた後、サラにイサクという息子を産ませた。神はこのイサクを通してアブラハムと契約を結ぶと約束していた(創世記17:16-21)。アブラハムは神からハガルとその息子イシュマエルを追い出すよう指示され、イサクだけが残された。そのため、イサクが成人すると、神はアブラハムの信仰を試された。

神は、アブラハムがまだイシュマエルを身近に持っていた時に、彼の信仰を試しませんでした。そうでなければ、イシュマエルが控えとして存在していたからこそ、彼(アブラハム)は神に従ったということになります。これは、神がアブラハムへの愛を証明するために、アブラハムに要求されたことの厳しさを示しています。創世記22章1-14節によると、アブラハムがこの大きな信仰の試練を乗り越えた後、神はアブラハムへの約束の内容をはるかに明確に明らかにされました。そして神はこう言われました。

---

「主は言われる。『あなたはこの事を行い、あなたの子、あなたのひとり子を惜しまなかったから、わたしは自分をさして誓う。わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やす。あなたの子孫は敵の門を打ち破り、あなたの子孫によってすべての国々は祝福される。あなたはわたしの声に従ったからである。』(創世記22:176-18)

---

「わたしはあなたの子孫を天の星のように増やそう」と言われた神は、アブラハムの霊的な子ら(すなわち神の子ら)が、キリスト・イエスにおいて彼らと結ぼうとしていた契約を通して召されるであろうことを意味していました。これは、アブラハムが「海辺の砂」が意味する肉体的、すなわち生来のイスラエルと多くのアラブ諸国の父であるだけでなく、世界中の聖徒、すなわちキリスト・イエスを信じる者たちの父でもあることを示しています。したがって、神がアブラハムを召されたとき、彼と契約を結ぶ前と後に、そしてアブラハムの孫ヤコブの子孫であるイスラエル人にも、90歳になる前と後に、どのような経験を経てきたかがより明確になります。

シナイ山で彼らと結ばれた契約（出エジプト記24:1-8参照）は、主イエスを通してアブラハムの子孫（すなわちキリスト・イエスを信じる者）が、アブラハムがあらゆる面で祝福されたように（創世記13:2、24:34-36参照）、霊的なカナン<sup>2</sup>の地を相続するために、神がその道を歩むことを要求しているのです。アブラハムとその子孫が神に従うために謙虚になった後、物理的なカナン<sup>2</sup>の地を相続したのと同じように（申命記8:1-5）。

ちなみに、「カナン」という言葉はヘブライ語で「ケ・ナエ・アン」と言い、これはカナ語に由来し、「カウナ」と発音されます。これは「ひざまづく」、つまり「屈辱を与える、打ち負かす」、つまり「低くする、服従させる、下に、謙虚にする、服従させる」という意味です。神はここで、霊的なカナン<sup>2</sup>の地（すなわち、上にある新エルサレム）を受け継ぐ者たちは、神の言葉への服従と従順を通して屈辱させられた者たちである、ということの意味しています。この理由から、神はイザヤ書9章と11章、そしてエレミヤ書33章でこう述べています。

「ひとりの子供が我々に生まれ、ひとりの子が我々に与えられた。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。その主権と平和は増し加わり、ダビデの時代にはその王国に限りなく及び、今より永遠に、公正と正義によってこれを治め、これを堅くする。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる」（イザヤ書9:6-7）

「エッサイの根から一本の杖が出て、その根から一本の若枝が生え出る。主の霊が彼の上に宿る。それは知恵と悟りの霊、計りごとと力の霊、知識と主を畏れる霊である。彼は主を畏れて、悟りを開いた者となる。彼は目で見ず、耳で聞いて責めない。正義をもって貧しい者を裁き、公平をもって地の柔和な者を責める。彼は口の杖と唇の息をもって地を打つ。

彼は悪者を殺し、正義を彼の腰帯とし、誠実を彼の心帯とする。（イザヤ11:1-5）

「見よ、主は言われる。わたしがイスラエルとユダの家に約束した良いことを行う日が来る。その日、その時、わたしはダビデに正義の若枝を生やさせる。彼はこの地に公正と正義を行う。その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住む。そして、エルサレムは『主はわれらの正義』と呼ばれる。」

主はこう言われる。「ダビデにはイスラエルの家の王座に座する人が決して不足することはない。また、レビ人の祭司にも、わたしの前に立って全焼の供え物をささげ、穀物の供え物を火でたき、絶えず犠牲をささげる人が不足することはない。」（エレミヤ書 33:14-18）

ダビデから出た枝、アブラハムの子孫である主イエスは、アブラハムから42代目（マタイ1:1-17）にあたります。父なる神は、アブラハムと結ばれた永遠の契約を継ぐために主イエスを遣わされました。ですから、初期の使徒たちを通して教会と結ばれた最初の契約を拒む者は、キリストをも拒んでいるのです。なぜなら、キリストには教会と新たに結ぶべき契約がないからです。イエスが再び結ばれる唯一の契約は、生来のイスラエルとの契約です。

なぜでしょうか？それは、モーセがシナイ山で神を代表してイスラエルとの契約を結んだことが、イエスの再臨の際に神が彼らと結ぶ新しい永遠の契約の象徴だったからです。興味深いことに、神がこの契約を結んだのは

アブラハムは、預言者イザヤを通して警告を与えた主イエスにおいてそれを成就させたいと願っています。

「義を追い求め、主を求める者たちよ、わたしに聞き従え。あなたたちが切り出された岩（キリスト・イエス）と、あなたたちが掘り出された穴（地獄、あるいはこの世とその体制）の穴に目を留めよ。あなたたちの父アブラハムと、あなたたちを産んだサラに目を留めよ。わたしは彼を一人だけ召し、祝福し、増やしたからだ。主はシオンを慰め、その荒れ果てたすべての所を慰め、その荒野をエデンの園のように、その砂漠を主の園のようにされる。そこには喜びと楽しみ、感謝と賛美の声が聞かれる。」（イザヤ書 51:1-3）

神はなぜ私たちに、ご自身に聞き従うことを望まれたのでしょうか。それは、それが契約を守り、義のうちを歩む唯一の方法だからです。神は、肉体を持っていた時代に父（神）の御心に聞き従い、そのみを行っていたイエスに私たちが目を向けることを望んでおられます。イエスは、この世とその体制から自らを切り離し、神への奉仕に身を捧げ、死に至るまで神に従うことにより、地獄の門（あるいは権威）と世の体制を支配する力を克服されました。以下の聖句における主イエスの言葉を注意深く読むと、主がこの地上に来られる前に、既に天に御心を捨てておられたことが分かります。ですから、十字架上のイエスの死は、主が既に捨てておられた御心の現れなのです。

「わたしは、自分からは何事もすることができない。わたしは聞くとおりに裁く。そして、わたしの裁きは正しい。わたしは自分の意志ではなく、わたしをつかわした父の意志を求めているからである。」（ヨハネ5:30）

「わたしが天から下って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしを遣わした方のご意志を行うためである。」（ヨハネ6:38）

「今後、わたしはあなたがたに多くを語るつもりはありません。この世の君が来るからです。彼はわたしの内に何も持っていないん。」（ヨハネ14:30）

「彼らも世の者ではなく、わたしも世の者ではない。」（ヨハネ17:16）

これらの聖句や神の言葉にある多くの箇所は、イエスが天に御心を捨て、ただ一つの目的、すなわち父の御心を行うことだけを持って降臨されたことを証明する証拠です。イエスが「この世の君主が来るが、わたしには何も持たない」と言われたのも不思議ではありません。この文脈における「持つ」という言葉はギリシャ語でchで、「ekh/-o」と発音され、「保持する」（文字通りまたは比喩的に）、所有物、能力、近接性、関係を意味します。しかし、チェンバース辞典は「保持する」を「保つ」、持つ、把握する、所有物、保持または権力を持つ、支える、首尾よく守る、維持する、権威を持って主張する、考える、信じる、占有する、称号を継承する、縛る、収容する、などと説明しています。主が自信を持ってこう言うことができたのは、御自身の中にこの世の君主に属するものを何も持たなかったからです。主は教育制度の一部ではありませんでした。

イエスはこの世の知恵を決して持ちませんでした。イエスはこの世の制度に従った結婚には一切関与しませんでした。天国で花嫁（教会）と結婚されます。イエスはユダヤ教にも、この世の制度における他のいかなる宗教にも属していませんでした。イエスはこの世の日々の営みには一切関与せず、神の福音を宣べ伝え、来たるべき神の王国を世に告げ知らせることがイエスの使命でした。イエスはこの世の制度の文化や社会生活には一切関わりませんでした。神の召命に応じて以来、イエスはいかなる助言や指示にも耳を傾けませんでした。

母マリアを含め、誰からも来られたわけではありません。実際、イエスは汚れも、非難されるところもありませんでした。これはまさに、神との契約を結ぶだけでなく、それを守ることに同意した聖徒たちに神が期待していることです。そして、神が再び私たちに頼るように言われた私たちの父祖アブラハムは、父の家、親族、そして祖国を離れ、神への奉仕に身を捧げ、死ぬまで神に従いました。神は彼（アブラハム）を見捨てることなく、あらゆる点で彼を豊かに祝福しました。例えば、この世で選挙に立候補する人は、まず現職の政府を辞任しなければなりません。これは、弟子が新エルサレムの選挙に立候補するためには、まず現職の政府を辞任し、体制から抜け出さなければならないのと同じです。先ほども述べたように、イエスはアブラハムから数えて42代目にあたり、神の人類との新しい契約は彼にかかっているはずで、そのため、神はその世代まで待たれました。なぜなら、神の数え方において42は主イエスの再臨を意味するからです。

神は、イエスが地上に二度来られることを示しておられました。一度目は、世界中に散らばっているアブラハムの霊的な子孫を集めるためです。イエスは初期の使徒たちと全キリスト教世界のために結ばれた契約を通して、彼らを花嫁とし、イエスは彼らの花婿となります。二度目は、神が散らしたすべての国々から生来のイスラエルを集め、神の妻として、そして以前約束されたように、神に代わって彼らと新たな契約を結ぶためです（参照：『新共同訳』）。

（エレミヤ書31:31-34、エレミヤ書32:37-42、ヘブライ人への手紙8:8-13）。このため神は、創世記3章15節でサタンに下された呪いを成就するために、ヨセフの婚約者であるマリアという処女に天使ガブリエルを遣わしました。創世記3章15節には、「わたしは、あなたの子孫と彼女の子孫との間に敵意を置く。彼らはあなたの頭を砕き、あなたは彼のかかとを砕くであろう」と記されています。マリアは神のこの計画を成就するために用いられることを受け入れ、天使ガブリエルから告げられた御言葉を宿し、後にその御言葉を私たちの主イエス・キリストという御方として産み落としました。ですから、時が満ちた時（すなわち、成人した時）、イエスは私たちの父祖アブラハムが神の召命に応えたように、養父の家、親族、そして故郷を去ったのです。イエスが神の召命に応えたのは30歳、つまり血の数字であったことは特筆に値します。血は贖罪、あるいは別離を意味します。多くの人が言うように、イエスは養父の家や祖国を物理的に離れたわけではありません。無知な信者や世の人々は、イエスが幼い頃、養父ヨセフと母マリアに従っていただけでなく、ここに見られるように、民の伝統も守っていたことに気づいていません。

さて、両親は毎年過越祭の時にはエルサレムへ行っていました。ヨセフが十二歳になった時、彼らは祭りの慣例に従ってエルサレムへ上って行きました。祭りの期間が過ぎて帰る途中、幼子イエスはエルサレムに留まっていた。ヨセフと母はそれを知りませんでした。彼らは、イエスが仲間の中にいると思い込み、一日かけて旅をし、親族や知人の間を捜しました。しかし、見つからなかったため、再びエルサレムへ引き返し、捜しました。三日後、彼らはイエスが神殿で学者たちの真ん中に座り、彼らの話を聞いたり質問したりしているのを見つけました。

そこでイエスは彼らと共に下ってナザレに行き、彼らに従っておられた。しかし、母はこれらのことばをことごとく心に留めておられた（ルカ2:41-51）。

しかし、神の召命に応えた瞬間から、イエスはこれらの慣習や伝統から自らを切り離し、神の国の福音を宣べ伝え始めるにあたり、それらの慣習に反対する説教を始めました。イエスは新たな分離の立場において

イエスは、親、兄弟、姉妹、親戚、そして全世界とそのシステムから離れて、神への奉仕に自らを捧げ、自分と同じことをすることに同意する人々を呼び始められました。最終的に使徒と呼ばれる12人の弟子を選んだとき、イエスは彼らを別々に山に連れて行き、マタイによる福音書第5章、第6章、第7章に見られる神の国の律法、つまり原則を与えました。イエスが山で弟子を選ぶということは、シオンで祈りの気持ちで神の御顔を尋ね、神の御心を知り、それを行うことができる者だけが、イエスが弟子として選んだ者であるということです。なぜなら、召される者は多いが、選ばれる者は少ないからです。そして、これらの人々は苦難の炉（キリストと福音のために経験する激しい苦しみを意味します。参照イザヤ48:10）で選ばれます。先ほど申し上げたように、マタイ伝5章、6章、7章は、神との関係や従順さだけでなく、互いにどのように関係を築くべきかについても教えています。モーセがシナイ山で神に代わって、教会の模型であるイスラエル人に律法を与えたように、出エジプト記20章、21章、22章、23章は、神の律法だけでなく、互いにどのように関係を築くべきかを包括的に教えています。その後、主イエスは弟子たちと共に働き始め、敵に抵抗するためにどのように主に従うべきかを教えながら、御国の律法に対する彼らの従順さを試し始めました。イエスは3年数ヶ月の間、弟子たちと共に過ごし、聖化と聖潔の意味を教え、自らの行いを通して模範を示しました。そして死の前夜、弟子たちは最後の晩餐を綿密に計画しました（参照：マタイ25:20-29、ルカ22:1-22、ヨハネ13:1-13）。この最後の晩餐において、イエスは使徒たちと契約を交わされました。使徒たちは全人類を代表する者となり、彼らを通して福音を聞き、イエスのようにこの世のあらゆる体制から離れ、神への奉仕に身を捧げ、弟子たちのように真に神に従うことを約束されました。

契約後、ユダはイエスを裏切り去りました。

「裏切る」という言葉はギリシャ語で「Paradidmi」と言い、発音は「par-ad-id-o-mee」で、降伏、つまり譲り渡す、託す、伝える、裏切る、持ち出す、投げ出す、託す、引き渡す、譲る、危険にさらす、牢に入れる、推薦するという意味です。チェンバース辞典によると、裏切るとは、（敵に）裏切りまたは欺瞞的に情報を伝える、信頼を裏切って漏らす、（無実または信頼している人を）欺く、誘惑する、期待を裏切る、意図せず暴露または示す、兆候を示す、と定義されています。一方、「伝える」とは、送る、渡す、手渡す、伝える、子孫に伝える、（ラジオ、信号、番組などを）送信または放送する、転送する、通過させる、媒体として機能する、無線信号を送信する、という意味です。この定義によれば、ユダは主にに関する裏切りの情報を、救世主イエスの敵に漏らしたことになります。キリスト。彼はイエスの最も近い親族として寄せられた期待を裏切りました。なぜなら、彼だけがイエスと同じ部族出身だったからです。あなたが信者であるあなたが、火の試練（信仰）に耐えられなかったために、不信者が私たちの主イエスとその真の弟子たちを攻撃し、悪く言うための媒介として行動し始めるとき、あなたはユダの精神で行動し、自分自身に災いを招いているのです。あなた方弟子にとって、この終わりの時に最も大きな動揺や戦いは、身を売ったクリスチャンの親しい友人や親戚から来るでしょう。彼らは依然としてあなたの信仰を支持するふりをしています。あなた方は非常に、非常に注意するように警告されています。ユダが去った後、イエスは残りの弟子たちに、新しい戒めと呼んだものの中で、自分が教えたことにどのように従うことができるかを示しました。

主が弟子たちに与えた新しい戒めをもう一度聞いてください。

「新しい戒めをあなたがたに与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」（ヨハネ13:34-35）

この新しい「愛」という戒めこそが、律法を成就させるのです。ですから、ヘブライ人への手紙9章15-17節の成就として、こう記されています。「そして、このために、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約のもとにあった罪の贖いとして、死によって召された者たちが永遠の相続の約束を受けるためです。遺言があるところには、必ず遺言者の死がなければなりません。遺言は人が死んだ後に効力を持ちます。そうでなければ、遺言者が生きている間は全く効力を持たないからです。」(ヘブライ人への手紙9章15-17節)

聖書において、遺言と契約は同じ意味を持ちます。そのため、旧約と新約、つまりその成立手順が聖書に記されている契約は、一般的に旧約聖書と新約聖書と呼ばれています。そして、ここで言っているのは、契約が締結される際は、その契約が有効になるためには、遺言者または被遺言者が必ず死ななければならないということです。そのため、二つのグループまたは二つの当事者によって契約が締結される際は、主たる行為者、あるいは神が代償を払うことを許した代理人が必ず死ななければなりません(例えば、アブラハムとの神の契約では、イサクは死ぬはずでしたが、イサクの代わりに代償の雄羊が用いられました)。そうすることで、残された人々が現実的に契約を履行し始めるのです。したがって、契約は花婿である主イエスと、花嫁である世界中のすべての弟子を代表する使徒たちとの間で結ばれたものであったため、契約が有効になるためには、双方から誰かが死ななければなりません。神の側ではイエスは死に、弟子たちからは

一方、滅びの子は他の弟子たちが契約を守るように道を譲りました。ですから、イエスが弟子たちと分かち合ったこの杯は、彼らをイエスとの縦の関係に導いただけでなく、互いの横の関係にも導いたのです。だからこそ聖霊は、パウロを通して教会に主の晩餐の意義について訓戒する際に、一つのパンと一つの杯にあずかるすべての人々の間に存在すべき兄弟愛の関係をより強調したのです。イエスは何と言われたか、よく聞いてください。

「わたしたちが祝福する祝福の杯は、キリストの血の交わりではありませんか。わたしたちが裂くパンは、キリストの御体の交わりではありませんか。わたしたちは大勢いますが、一つのパン、一つの体です。わたしたちは皆、一つのパンにあずかっているのです。」(コリント第一10:16-17)。

パウロが言いたかったのは、聖餐は兄弟愛の契約があるところに存在すべき一致の象徴であるということです。本質的には、一つのパンを共に食べるすべての人々は、通常は真摯な契約の民ですが、キリスト・イエスにあって一つの体なのです。ですから、彼らは滅びを避けるために慎重に歩むべきです。なぜなら、このことのために、聖霊はパウロを通してさらにこう言われたからです。

「あなたがたはこのパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。ですから、ふさわしくないままにこのパンを食べ、主の杯を飲む者は、主の体と血に対して罪を犯すこととなります。しかし、人は自分を吟味し、それからこのパンを食べ、この杯を飲むべきです。ふさわしくないままに食べたり飲んだりする者は、主の体をわきまえずに食べたり飲んだりするのです。このため、あなたがたの中には弱い人や病人が多く、また眠っている人(死んでいる人)も少なくありません。」(コリント人への第一の手紙11:26-30)

聖餐は外庭にいる人々のためではなく、聖所と至聖所の両方において兄弟愛の契約を理解している人々のためです。献身的な兄弟たちと契約関係で結ばれたなら、契約を結んだ兄弟たちに恥辱を与えるようなことは、考えたり、言ったり、したりしてはいけません。

だからこそ聖書は、主のパンとぶどう酒を共に食べる兄弟姉妹を悪く言ったり、彼らに悪事を働いたりした後に、それを食べたり飲んだりする者は、聖餐（すなわち主の体と血）の罪を犯し、神の裁きを自ら招くことになる、と述べています。パウロは聖霊の導きによって、信者たちが主のパンとぶどう酒をふさわしくないまま（すなわち悪意や罪をもって）食べたり飲んだりする邪悪さのために、クリスチャン家庭の中に霊的に弱り、神の苦しみにによってほとんど治癒不可能な深刻な病に苦しむ人が多くいる、と述べています。この裁きによって、多くの人が霊的にも肉体的にも死に、あるいは死の淵に立たされています。契約が結ばれる瞬間には、極度の注意が求められます。なぜなら、その時、死の霊が他のどの時よりも契約破り者を滅ぼそうと、遍在しているからです。

だからこそ、兄弟姉妹と既に契約関係にある人々、あるいは他の献身的あるいは真摯なクリスチャンと交わりを持ち、聖餐を互いの一致の印として、あるいは主イエスの死と復活を示す機会に恵まれた人々は、互いを、そして主を裏切らないよう、信仰において非常に慎重に歩むべきなのです。なぜなら、信仰を捨て始めると、やがて兄弟姉妹を裏切ることになるからです。そして、ひとたび信仰を捨てると、人は裏切りと冒険へとまっすぐに進んでいくのです。

ペテロの手紙には、「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王なる祭司、聖なる国民、神の所有する民です。それは、あなたがたを暗闇から驚くべき光へと招き入れてくださった方の栄光を、あなたがたが宣べ伝えるためです。あなたがたは、かつては民ではありませんでしたが、今は神の民です。かつては憐れみを受けなかったが、今は憐れみを受けました」（ペテロ第一2:9-10）と記されています。ペテロは、キリスト・イエスにおける新しい契約が、神がイスラエルと以前に結んだ契約と同じ効力を持つことを示そうとしていました。さらにペテロは、この契約は、それに入るすべての人を集約的な「神の民」として確立すると述べています。ペテロは、彼らを選ばれた種族、王なる祭司、聖なる国民、神の所有する民と表現しています。したがって、この契約は、主が教会と結ばれた契約を通して、私たちをご自身の祭司として、また、ご自身に固有の者として聖なる生活を送るように選ばれたことを示しています。イエスは弟子たちと新しい契約を結んだ後、ヨハネによる福音書14章、15章、16章に記されている長く親密な教えを弟子たちに授けられました。この教えの中で、イエスはご自身が何者であるかを明らかにされました。そしてついに教えを終えると、ヨハネによる福音書17章で彼らのために祈ったように、大祭司としての役割を果たされました。それは世のためではなく、使徒たちの福音を通して世のあらゆる体制から離れ、神への奉仕に身を捧げ、聖なる生活を送ることに同意し、最後まで主に従うことによってこの契約に入る弟子たちと全世界の人々のために祈られたのです。イエスが弟子たち全員に求めたことは何でしょうか？それは、彼ら皆がイエス（そして父なる神）と一つとなり、また主のいる所に共にいて、主の栄光を仰ぐことです。これは、契約の目的が、父と子の間に存在するものと同じ性質と質において、私たちが真に主と一つになることであることを示しています。ヨハネによる福音書第17章にある主の祈りを読み進めていくと、契約が何を意味するのか、また主イエスが神の大祭司としてどのような役割を果たしているのかが分かります。

3節にはこうあります。

「永遠の命とは、唯一のまことの神でいますあなたと、また、あなたが遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」

これは、私たちの主イエスの口から語られた永遠の命の意味です。私たちの信仰の創始者であり完成者であるイエスによれば、永遠の命とは、父なる神と主イエスを深く知ることです。これは、神を知り、学んだり経験したりすることで、神を知るようになるという意味です。この経験こそが、神の知恵と知識が語るものであり、主との長く親密な関係、すなわち、主のために多くの迫害、苦難、非難、飢餓、苦悩、徹夜、断食などを経験した後にのみ得られるのです。

6節、14節、16節で主はこう言われました。

「あなたが世から選んで私に与えてくださった人々に、私は御名を現しました。彼らはあなたのものであり、あなたは彼らを私に与えてくださいました。彼らはあなたの約束を守りました。私は彼らにあなたの約束を与えましたが、世は彼らを憎みました。なぜなら、私が世のものではないのと同じように、彼らも世のものではないからです。私が世のものではないのと同じように、彼らも世のものではありません。」

この箇所を注意深く研究すると、イエスに弟子たちを与え、イエスのために訓練したのは父なる神であることが分かります。第二に、彼らは救い主イエスのように世の組織から離れ、神の御声を聞き従うことができました。第三に、彼らはイエスのように世の組織に属していなかったため、世とその組織から憎まれました。

ここで学ぶべき教訓は、神が主イエスに契約の兄弟として与えた者たちは、世界のシステム全体から分離されるか、あるいは呼び出されなければならないということであり、彼らは世界の悪の一部ではないので、システム内の者たちは彼らを憎むだろうということです。

主は9節と20節で、すべての人にはっきりとこう言われました。

「わたしは彼らのために祈ります。わたしは世のために祈りません。あなたがわたしに与えてくださった人々のために祈ります。彼らはあなたのものだからです。わたしは彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも祈ります。」

主がここで言っているのは、世の体制から離れ、主の言葉を聞いてそれを実行し、主との契約を守っている弟子たちだけのために祈っているということです。また、弟子たちを通して主の言葉を聞いた、あるいは聞き続け、従う意志を持つ人々のためにも祈っておられます。主の言葉を聞く意志も、体制から抜け出す意志も持たない人々については、主は気に留められません。なぜなら、彼らは訪れの時に体制と共に滅ぼされるからです。

主は祈りの中でこうも言われました。

「あなたの真理によって彼らを聖別してください。あなたの言葉は真理です。あなたが私を世に遣わされたように、私も彼らを世に遣わしました。彼らのために、私は自分自身を聖別します。それは、彼らも真理によって聖別されるためです。」(ヨハネ17:17-19)

この「聖化」という言葉は、キリスト教世界で多くの論争を引き起こしてきました。この論争の原因は、多くの人々がそれが神学的に何を意味するのかを知らず、その意味を理解しているごく少数の牧師でさえ、信者を失うことを恐れて説教や教えをためらっているからです。信者たちは、聖霊に身を委ねて聖化されるという大胆な一歩を踏み出すかもしれません。さて、聖化とは、この世とその体制から自発的に離れ、神の御心を通して、神への奉仕に献身し、奉獻することです。

聖霊はあなたを、神の油注がれた人の下に置いてくださいます。そうすることで、あなたは神の力強い御手の下に、あるいは神の御前に出ることになり、最終的には主のために日々聖なる生活を送ることになるでしょう。覚えておいてください。あなたが主のために生きることをやめたり、この世の体制に戻ったりした日には、あなたは聖化を失ってしまいます。これらの聖句でイエスが言ったことに立ち返れば、イエスが神によって聖化され、この世に遣わされたことが分かります。ですから、イエスの言葉と生き方により、イエスの話を聞く人々は聖霊に従い、聖化されるようになるのです。本書の読者がここで学ぶ教訓は、神はご自身が聖化していない者を、御言葉を宣べ伝えるためにこの世に遣わすことはないということです。

そして、この聖化を受けずに去った人々、あるいは去ろうとしている人々は、真理を持っていません。主が父なる神への祈りの中で願われたのは、すべての弟子が一つになること（言葉、思い、行いにおいて一つになること）です。どうすればそれは達成できるでしょうか？その答えは、「聖化」と呼ばれるこの14文字の言葉の中にのみ見出されます。もし主イエスの弟子全員が、言語、部族、国籍、肌の色に関わらず、主の願いどおりに聖化されるなら、私たちは真に一つになることができます。それは、神によってバベルで散らされる前の人類の姿です。そして、もし私たちが真に一つになるなら、22-24節で主が語られたように、主の栄光を目にし、主と分かち合うことができるのです。主がどこにいても主とともにいるというこの願いのために、主は、使徒たちと、主と一つになる契約を結ぶことを望む志ある弟子たちに、ルカ14:26-33、マタイ10:32-42、マルコ10:17-31、ルカ12:49-53、ヘブライ13:11-14、II テモテ2:3-4 などに見られる基準を常に与え続けたのです。

主がルカの福音書で何を言っているかを見れば、主が要求する他の基準が明らかになる。

「もしだれでもわたしのもとに来る者が、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも憎まないなら、わたしの弟子となることはできない。  
自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。同じように、あなたがたのうちのだれでも、自分の持ち物を全部捨てない者は、わたしの弟子になることはできません。」（ルカ14:26-27,33）。

キリスト教世界の大多数の人々、特に神の聖職者たちは、「憎しみ」という言葉を聞き手に都合よく言い換え、神の言葉は本心ではないと人々に信じ込ませようとしてきました。しかし、真実は、これらの無知な信者たちは、神が感情的な存在ではないことを理解していないということです。神は御言葉で語られたことを真摯に受け止め、人々の感情に関わらず、御霊にそのすべてを成就するよう命じておられます。だからこそ聖書はこう述べています。

「なぜ神に敵対するのか。神は自分の事柄を何一つ説明されないからだ」  
（ヨブ記33:13）

主はまたパウロを通してこう言われました。

「それであなたは私に言うでしょう、『なぜ神はなおも非難するのか？ 誰が神の意志に逆らったのだろうか？』  
いや、人よ、神に言い逆らうあなたは何者か。造られたものが、造った者に向かって、「なぜ私をこのように造ったのか」と言えるだろうか。

人々は、時宜を得た正しい決断を下すために、聖書に記されている真実を知らされるべきです。イエスは、誰かに従うように懇願したり、説得したりしているわけではありません。イエスは「もし」と言いました。つまり、あなたがイエスの弟子になりたいかどうかを決めるのはあなた自身であり、もしそうしたいのであれば、その基準を守らなければならないということです。「憎む」という言葉は、単に彼らの伝統、慣習（例えば、社会、霊的、文化的、結婚、葬儀など）、そして両親や兄弟、妻や子供、あるいはあなた自身が行っている、クリスチャンとしての歩みを妨げる可能性のあるあらゆることに対する、極度の嫌悪、あるいは激しい嫌悪を意味します。だからこそ主は、あなたが御言葉に従って聖なる生活を送るためには、彼らを捨て、憎むべきだと言われたのです。

あなたが彼らを見捨てることは、悪行ではありません。むしろ、神があなたを通して彼らを救うための窓口となるのです。もしあなたが彼らを見捨てないなら、あなたは神の弟子となることはできません。そして、主と契約を結ぶ者、あるいは主と契約を結んでいると信じていながら犠牲を捧げることが拒む者は、神の弟子となることはできません。なぜなら、あなたが世俗の快楽を捨て、神への奉仕に身を捧げ、神に従うことで聖なる生活を送る覚悟ができない限り、あなたはまだ神に受け入れられる犠牲を捧げていないからです。神の繁栄には迫害がつきものであるということを心に留めておくことは非常に重要です。そうでなければ、それは神からのものではありません。イエスが教会と結ぶ契約は、彼らをこの世のシステムから連れ出すことであり、一部の頑固な信者が言うように、システムを変えるために彼らをシステムに留めておくことではない。それがイエスの血が身代金として流された理由であり、それが「贖罪（分離）の血」と呼ばれる理由である。

パウロはローマ人への手紙の中でこう述べています。

「兄弟たちよ、神の慈しみによって、あなたがたの体を神に受け入れられる、生きた、聖なる、生きた供え物、これこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を一新して自分を変えなさい。そうすれば、神のみこころが何であるか、何が善で、神に受け入れられ、完全であるかをわきまを知ることができるようになります。」（ローマ12:1-2）

「コンフォーム」という言葉はスーシュマティス（suschmatiz）と発音され、スース・カイ・マツト・イツ・ゾー（soos-khay-mat-id-zo）と発音されます。これは、比喩的に言えば、同じ型に合わせる、つまり同じ型に合わせる、従う、従うという意味です。チェンバース辞典では、コンフォームを「似たものを作る、同じ形や型にする、採用する、従う、服従する」と説明しています。一方、チェンバース辞典によると、「変革する」とは、形を変える、特に変える、根本的に、あるいは徹底的に別の形、外観、本質、または性質に変える、形を変える、などを意味します。パウロは主と共に長く働き、主のために見守る者たちに自分の人間的な意志や弱さを押し付けないように主によって矯正されました。その矯正の一部には、部下に食糧を得るために組織の中で働くように命じることが含まれていました。その後、ローマ人への手紙第7章で、パウロは主イエスの弟子たちに、証の中で、分離を保ち、組織に汚されないように警告しました。

パウロはローマ人への手紙7章1-4節を例に挙げ、既婚女性は夫が生きている限り夫に律法によって縛られているが、夫が死ねばその律法から解放されると述べています。使徒パウロはこの例を用いて、私たちはキリストの体の中に生まれたことで肉の律法に対して死んでいるのだから、死者の中から復活したキリストと結婚し、キリストのために生き、キリストもまた私たちを死者の中から復活させてくださるようになりべきだと述べています。パウロは12章1-2節で続けて、神に受け入れられる聖なる生ける供え物（つまり、死んだ動物のように、何の意志も欲望もなく、神への奉仕のために捧げられる祭壇に供えられた命、神への絶対的、あるいは無条件の服従の心構え）を捧げるためには、他人に合わせて、他人に似せたり、あるいは他人に似せたりしてはならないと述べています。

同じ型に倣ったり、世の体制に従ったり、服従したりしてはいけません。しかし、あなたは自分の心、容姿、性格などを、根本的に、そして徹底的に、キリスト・イエスの姿に変えなければなりません。あなたはキリストと契約関係にあり、この世とその体制とは全く関係がありません。だからこそダビデは祈りの中でこう言ったのです。

「主の秘密は主を畏れる者たちと共にあり、主は彼らに契約を示される」。  
(詩篇 25:14)

これは、世界中の大多数の信者が主と契約を結んでいると主張しているにもかかわらず、実際にはそうではないことを意味します。詩篇作者は、主の御言葉すべてに従い、主を畏れる者だけが主の秘密を知り、主の御言葉に従える者だけが主の契約を示され、共に働くことができると述べているからです。また、同じ章の10節でダビデはこう言っています。

「主の道はすべて、主の契約と証を守る者にとっては慈悲と真実である」。

これら二つの聖句をさらに説明すると、神は契約と呼ばれる秘密文書に記された秘密を、神を畏れ従うだけに明らかにし、そのような人々は主の道を慈悲と真実と見なすということが証明されました。詩篇50章5節に記されているように、聖霊に導かれた天使たちによって、よく語られる聖徒の携挙において主のもとに集められると主が言われたのは、まさにこの人々であり、普遍的な信者たちではありません。

最後に、主イエスが教会と結ばれた契約の象徴は、花嫁が休息、すなわち恵みの中にあることです。これは、ヘブライ人への手紙4章1-11節でパウロを通して主の御霊が語っている聖なる安息日です。もしあなたが今休息の中にいない、あるいは休息の中いようと努力していないなら、あなたは主の契約を守っておらず、それゆえ主のもとに集められる準備ができていないのです。

## 第11章

### 聖約関係における弟子または聖徒の責任 主イエス・キリストと共に互いに

本書の第6章で、神がシナイ山でイスラエルと結ばれたのと同じ契約が、彼らを一つの民として結ばせたと述べました。実際、神は出エジプト記21章、22章、23章において、互いに対する責任を概説されました。神との契約を結んだ国民として、彼らは互いに特別な責任を負っていました。それは、神との契約関係を持たない他の国民に対する責任とは異なります。同様に、新約聖書は、世界のあらゆる場所からキリスト・イエスとの新しい契約を結ぶすべての人々に対し、契約を結んだ兄弟たちとどのように関わっていくべきかを具体的に示しています。これらの責任の一部は以下のとおりです。

a. 互いに足を洗い合うこと。これは互いに仕えることを意味します。主は弟子たちに訓戒する際に、このことを何度も明確に述べられましたが、ここでは二つの例を挙げます。「イエスは彼らに言われた。『異邦人の王たちは、人々の上に君臨し、権力を振るう者たちは恩人と呼ばれている。しかし、あなたたちはそうであってはならない。あなたたちの中で一番偉い者は、一番年下の者のように、上の者は、一番仕える者のように仕えなさい。食卓に着く者と給仕する者と、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く者が偉いのではないのでしょうか。しかし、わたしはあなたたちの中で、給仕する者と同じようにいるのです。』(ルカ22:25-27)

「主であり師である私が、あなたがたの足を洗ったのなら、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。私があなたがたにしたように、あなたがたもするようにと、私は模範を示したのです。」  
(ヨハネ13:14-15)

世の人々にとって、奉仕する者は社会で最も低い存在とみなされますが、聖書によれば、他の人々の中で最も偉大で、指導者となる最もシンプルな方法は奉仕することです。だからこそ主は弟子たちの足を洗うことで教え、模範を示し、私たちに同じようにするようにと命じられたのです。

異邦人の偉大な使徒パウロはこう言いました。「兄弟たちよ。あなたがたは自由を得るために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」(ガラテヤ5:13)互いに足を洗い合うこと、すなわち互いに仕え合うことは、主によって高く評価され、聖徒の真剣さを証明する方法の一つとされています。パウロはここでそれを指摘しただけでなく、教会の肩に重荷を負うことになる未亡人を見分ける条件の一つとして、テモテへの指示として与えました(参照：テモテ第一5:10)。

b. 私たちは互いに愛し合うべきです。そして、これは他のすべての責任を体現するものです。なぜなら、「愛」は根、あるいは木そのもののようなものであり、他の責任は枝のようなものだからです。実際、愛こそが他者への可能性への扉を開くのです。だからこそ、主イエスは新約聖書の中で愛を唯一の戒めとして与え、その重要性を示しました。「わたしは新しい戒めをあなたがたに与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになるのです」(ヨハネ13:34-35)。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。これがわたしのいましめである。(ヨハネ15:12)

愛とは一体何を意味するのでしょうか。主の言葉によれば、愛とは神の言葉に従うことであり、主が互いに愛し合うべきだと言った時、主は互いに神の言葉に従うべきだという意味でした。つまり、それぞれの時点で聖書が命じているように、互いに接し、接するべきなのです。これは、互いに助け合い、互いの重荷を負い合うといったことは別に、兄弟姉妹が淫行や姦淫を犯したり、秩序を乱したりした時、主が残りの兄弟たちにその人を破門したり、場合によっては停職処分にするよう導かれたとしても、それはやはり彼らがその人に対して示している神の愛であるということを示しています。なぜなら、聖書によれば、そのような行為は、その人が最終的に回復された時に同じ罪を繰り返さないようにするための矯正措置だからです。

c. 互いに徳を高めるとは、単に互いの精神を向上させ、信仰と聖潔に向けて霊的に強め、互いの信仰を築き上げ、互いを築き上げ、強めることを意味します。パウロは聖霊の導きによって、この二つの聖句の中でこう言っています。「ですから、平和に役立つこと、互いに徳を高めることを追い求めましょう。」

(ローマ14:19)

ですから、あなたがたが今しているように、互いに励まし合い、励まし合いなさい。(テサロニケ第一 5:11)

パウロが指摘しようとしていたのは、主イエスのすべての聖徒は、他者の信仰を築き上げ、互いに信仰と聖潔へと向かうよう努めるべきであるということです。そうすることで、彼らは利己的になったり自己中心的になったりすることを避けるべきです。

d. 聖徒たちは互いに、権威として、あるいは真理として受け入れ、受け入れ、認め、あるいは体の中に取り入れるべきです。パウロはユダヤ人と異邦人、そして割礼を受けた者と受けていない者の間の溝を埋めました。どのようにでしょうか？彼はユダヤ人でしたが、異邦人に説教するために遣わされました。また、割礼を受けた者でしたが、割礼を受けていない者をイスラエルの共同体に導き入れ、聖徒たちと共に神の家族の一員となるために遣わされました。異邦諸国で長年にわたる使徒的活動の後、ユダヤ人として生まれたパウロは、自分が監督していた教会の一つにこう書き送りました。「ですから、キリストが神の栄光のために私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れ合いなさい」

(ローマ15:7) 。パウロはなぜこのようなことを述べたのでしょうか。それは、異邦人とユダヤ教徒の両方から来た多くの信者が、割礼の有無によって互いの関係において差別していたからです。そして、初期の聖徒たちのこの行為は、今日のキリスト教家族に深く浸透し、蝕んでいます。たとえあなたが新しく生まれ、水と聖霊のバプテスマを受けても、彼らはあなたと交わることも、共に祈ることもせず、そうすることで、イエスの名による別の水のバプテスマを受けない限り、あなたを受け入れないと信じ、説教するキリスト教徒のグループがいます。彼らは、マタイによる福音書28章19-20節で、イエスが死と復活の後、使徒たちに父と子と聖霊の名によって人々にバプテスマを施すように命じたことを例に挙げています。イエスはまだ地上にいたので、天に昇っていません。彼らは続けて、イエスが天に昇られたとき、弟子たちはイエスが父なる神であることを知り、イエスの名において洗礼を受けることを決意したと述べている。この理由から、もしあなたが神の名において洗礼を受けたならば、

悔い改めと回心の後に、正統派教会や白衣教会ではなく、イエスの名において洗礼を受けなければなりません。これは異端であり、欺瞞です。幼児洗礼ではなく、水の洗礼（浸礼）を受けてください。イエスの名においてであれ、父と子と聖霊の名においてであれ、神はそれを受け入れます。

第二に、弟子たちは、この箇所にあるように、イエスが死ぬ前からイエスが父なる神であることを知っていた。

「もしあなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたはずですが。今からでも、あなたがたは父を知っており、またすでに父を見ているのです。ピリポはイエスに言いました。『主よ、父をわたしたちに示してください。それで十分です。』」イエスは彼に言われました。『こんなに長い間あなたがたと一緒にいたのに、ピリポ、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は父を見たのです。それなのに、どうしてあなたは、わたしに父を示すと言うのですか。わたしが父にあり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに話している言葉は、わたし自身から話しているのではなく、わたしに内住しておられる父が、これらのことをしておられるのです。』（ヨハネ14:7-10）

唯一のことは、主が地上におられた間に彼らが理解できなかったいくつかの事柄について、主は復活後、彼らの中に聖霊を吹き込まれた時に理解できるように理解力を開いてくださったということです。キリスト教世界に蔓延しているこの欺瞞を止めるために、人々は自分が受け取る啓示やメッセージが何であれ、それを書き記したり説教したりする前に、神の言葉で判断するように努めるべきです。そして、この嘘や、サタンが世界中の神の牧師や信者たちに語った他の多くの嘘のせいで、彼らは、新しく生まれ、水と聖霊のバプテスマを受け、ほとんどの場合、主によって聖化された仲間のクリスチャンの兄弟たちを受け入れることを拒否してきました。そして、自らを裁き人としたこの一団の信者たちは、大きな欺瞞の中にいるのです。

e. 私たちは互いに喜ばせるように命じられています。これは、喜びを与えること、喜ばせること、満足させること、（何かをする）意志や選択となること、喜びを与えること、好むこと、適切だと思うこと、選ぶことを意味します。パウロはローマ人への訓戒の中で、教会にこの助言を与えました。「ですから、私たち強い者は弱い者の弱さを担うべきであり、自分自身を喜ばせるべきではありません。」

わたしたちはみな、隣人を喜ばせ、その益を求めて徳を高めなさい。キリストでさえご自身を喜ばせようとはなさいませんでした。聖書に書いてあるとおりです。「あなたをそしめる者のそしりが、わたしに降りかかったのです。」（ローマ15:1-3）bear（負う）という言葉は、単に運ぶ、持つ、伝える、支える、堪え忍ぶ、容認する、認める、主張する、などを意味します。ここで言っているのは、信仰の強い者は、自分たちの中にある弱い兄弟（つまり、信仰が弱い者）の弱さや脆さを、彼らの信仰が成長し、主に関することに確立されるようなことを行うことによって、容認したり支えたり、耐えようと努めるべきであるということです。これは単に、信仰の弱い者が後退したり離れ去ったりしないように聖徒たちを導く最も重要な方法の一つです。

f. 神は私たちが互いに戒め合うことを望んでおられます。それは、警告し、穏やかに叱責し、注意し、助言し、忠告するなどを意味します。パウロは教会にこう言いました。「兄弟たちよ、わたし自身もあなたがたについて確信しています。あなたがたもまた善意に満ち、あらゆる知識に満たされ、互いに戒め合うこともできる者です。」（ローマ15:14）パウロがこのように言うことで、神は私たちが善意に満ち、神についてのあらゆる知識に満たされ、互いに警告し、戒め、助言し合うことを期待しておられる、ということの意味しています。例えば、もしあなたが神の言葉に従わなかったり、霊的な事柄に関する知識を持っていなかったりするなら、誤りを犯している兄弟姉妹を助言したり忠告したりすることは不可能です。

g. 私たちは互いに重荷を負い合うべきです。重荷とは、荷、重荷、苦しいもの、抑圧的なもの、あるいは負にくいもの、義務、人や財産などに影響を与える制限、制約、あるいは負担を意味します。聖霊は使徒パウロを通して、ガラテヤ人への手紙6章2節で「互いに重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を全うすることになります」と述べ、互いに義務を負い合うよう私たちに促しました。私がここに下線を引いたのは、互いに重荷を負い合うことによって、互いに愛し合うこと、すなわち律法の成就へと歩み始めることができることを示したいからです。

h. 私たちは互いに忍び合うように求められています。忍ぶとは、自制すること、控えること、忍耐や抑制を働かせること、自発的に避けること、惜しむこと、差し控えることを意味します。パウロは異邦人の使徒として与えられた恵みを通して、教会にこう勧めました。「ですから、主の囚人である私は、あなたがたに勧めます。あなたがたは召された召命にふさわしく歩みなさい。あらゆる謙遜と柔和と寛容をもって、愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて、御霊の一致を保つように努めなさい。」(エペソ4:1-3)聖霊はパウロを通して、愛をもって互いに忍び合うことについて特に言及されました。なぜなら、私たちが自分自身を忍ぶことができなければ、誰も御霊の一致を保つことはできないし、一致がなければ平和のきずなについて語ることはできないからです。

i. 互いに許し合うことは私たちの義務です。ストロング聖書全訳によると、「許す」とは、送る、送り出す、見捨てる、脇に置く、残す、放っておく、放っておく、行く、持つ、省略する、片付ける、免除する、我慢する、譲る、譲歩する、といった意味です。しかし、チェンバーズ辞典では、赦す、見過ごす、負債や罪を許す、諦める、慈悲や同情を示す、などと定義されています。パウロはエペソ人への手紙の中で、「互いに親切にし、思いやり深く、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい」(エペソ4:32)と述べています。赦さないことは、神が容易に見過ごすことのできない大きな問題、あるいは罪の一つです。神が赦しを非常に重要視していたため、主イエスは弟子たちに赦しについて教えるために時間を割かれました。イエスの教えを通して、許しにおいては、何度傷つけられたかを記録したり、残したりすべきではないことが明らかになりました。なぜなら、本当に許す、つまり手放す、脇に置く、離れる、片付ける、追い払うなどした時、相手はあなたとの関わりを拒むという点を除けば、問題が起こる前の状態、つまり相手との好意や関係を取り戻すからです。主イエスはまさにこのように私たちと関わってください。イエスがあなたの罪を赦す時、あなたがかつて主の前に得ていた好意をすべて回復し、何もなかったかのようにあなたと関わり始めてください。

j. 私たちは互いに従うべきであり、これは自分の意志を互いに譲り合うことを意味します。割礼を受けた使徒ペテロと割礼を受けていない使徒パウロは、教会に次のように教えました。「若い者たちも同じように、年長者に従いなさい。みな互いに服従し合い、謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだった者に恵みを与えられるからです。」(ペテロ第一 5:5)

「神を畏れて互いに従いなさい」(エペソ5:21)。

互いに服従し合うという行為は、私たちが謙虚にするだけでなく、神を畏れる気持ちにもさせます。なぜなら、民主主義国家において、行政、立法、司法の三権が相互に牽制し合うように、すべての聖職者、あるいは兄弟たちは、救い主イエスとは別に、誰かが自分たちの活動を監視しており、神の言葉を用いて誤りを正そうとしていることを意識するからです。例えば、ガラテヤ人への手紙1章11節から14節では、パウロは聖霊によって、ペテロの異邦人に対する差別的な行為を牽制し、正すように用いられました。ペテロは、兄弟たちの生活の様子を見るために、ユダヤ人たちと共にアンティオキアに行き、そこでいくつかの料理を振る舞われました。

しかし、使徒ヤコブから遣わされた兄弟たち（ユダヤ人）が訪ねてきた時、ペテロは身を引いたり、異邦人を避け始めたりしました。そして、彼と共に来た他のユダヤ人の兄弟たちも、同じ行動に加わりました。ペテロのような偉大な使徒のこの偽善的な行為は、アンティオキアだけでなく、パウロと共に多くの異邦人の国々で働いていたバルナバにも影響を与えました。この行動を見たパウロは立ち上がり、皆の前でペテロを叱責し、この邪悪な行為をやめさせました。ここで起こった出来事を利用して神の権威の経路を攻撃しようとする教会内の反逆者たちのために、パウロがなぜペテロに立ち向かう勇氣と霊的な権威を持っていたのか、ここで話したいと思います。第一に、二人は使徒であったため、霊的な長老でした。第二に、パウロは、パウロの使徒的居住地で広がるであろうペテロの偽善的な行為を止めるための地域的な権限を持っていました。ペテロは自分の行いが間違っていたことを自覚しており、教会への訓戒の言葉からも分かるように、喜んでその戒めを受け入れました。彼は牧師、教師、伝道者といった若い聖職者たちに、使徒や預言者といった長老たちに従うように、特に教会の柱である使徒たちに従うようにと告げました。そして、使徒や預言者といった長老たちに対しても、互いに従順に従うように、そして皆が謙虚になるようにと説きました。

k. 私たちは神の僕として教えることに熟達しているだけでなく、謙虚で教えを受け入れる精神を持ち、自分が他の人よりも得意とする分野で互いに教え合うことが求められています。パウロがここで述べているように、「キリストの言葉を、あらゆる知恵にあふれて、あなたがたのうちに豊かに住まわせなさい。詩篇、賛美歌、霊的な歌をもって、互いに教え戒め合い、心から主にむかって、感謝を込めて歌いなさい」（コロサイ3:16）。神の言葉の歩く啓示があなたのうちに豊かに住まうなら、あなたは他の聖徒たちを教えることができます。

l. 欺瞞を避けるために、主イエス・キリストの再臨の時期や時期について語るべきではないという一部の牧師の信念とは対照的に、使徒パウロは聖霊の導きによって、テサロニケ第一4章15-17節でそのことについて教えただけでなく、18節で「ですから、これらの言葉をもって互いに慰め合いなさい」と言いました。どのような言葉でしょうか？パウロは15-17節で主イエスの再臨と聖徒たちの天への移送について語ったすべてのことを意味していました。彼は、聖徒たちが主を待ち望む希望、すなわち天に引き上げられて主と共にいるという希望がむだではないことを常に思い起こすならば、彼らは慰められるということを示そうとしていたのです。ですから、聖徒たちは互いに慰め合うような行いや言葉を交わすように促されているのです。

m. 私たちは互いに勧め合うべきです。ストロングズ・エクスカーション・コンコーダンスによると、この「勧める」という言葉は「近くに呼ぶ」、すなわち「招く、呼び求める、懇願する、求める、懇願する」などの意味ですが、チェンバース辞典では「強く、熱心に促す、互いに助言し合う、助言し合う」と定義されています。聖書には、「信仰は聞くことから始まり、聞くことは神の言葉から始まる」とあります。

そのためにパウロはこう言いました、「兄弟たちよ、あなたたちのうちに悪人が出ないように気をつけなさい

生ける神から離れ去る不信仰の心を持つ者となってはならない。しかし、きょうと呼ばれる間に、日々互いに励まし合いなさい。そうすれば、あなたがたのうちのだれも、罪の惑わしによって心をかたくなにすることがなくなるであろう。」(ヘブライ3:13-

14)聖徒たちは皆、罪や不信仰によって心を頑なにし、墮落することがないように、日々互いに励まし合う必要があります。

n. 私たちは互いに愛と善行に励むよう促されています。「互いに励まし合い、愛と善行に励み合しましょう。ある人々のように、集まりをやめたりせず、むしろ互いに励まし合しましょう。かの日が近づいているのを見て、なおさらそうしましょう。」(ヘブライ10:24-25)。「励ます」とは、単に(感情や願望などを)呼び起こす、喚起する、召喚する、呼びかける、挑発する、行動を起こさせる、刺激する、扇動する、もたらす、などを意味します。ここで言っているのは、あなたが神にささげる善行や奉仕を通して、他の人々が刺激を受けたり、そのような善行に倣うようになるということです。また、主の指示に従って、真に献身的な聖徒たちと交わりの中で時折集まり、互いに助言し合い、教え合い、慰め合い、啓発し合うべきです。

o. 私たちは互いに過ちや罪を絶えず告白し合い、互いのために祈らなければなりません。使徒ヤコブは、主イエスの肉親であり兄弟であったため、私たちの主であり救い主イエス・キリストの生き方を学ぶことに時間を費やし、宣教活動の終わりごろ、教会にこのヤコブの手紙を書き送りました。この手紙は、神の国の奥義と実践的な聖潔に満ちており、彼はこう述べています。「互いに過ちを告白し合い、互いのために祈りなさい。そうすれば、癒されるでしょう。義人の熱心な祈りは大いに力があります。」(ヤコブ5:16)使徒ヤコブのこのメッセージは、キリストの体である教会の共同体としての存在にとって非常に重要です。そして、無知にも頑固にもこのメッセージを無視してきた多くの人々は、滅ぼされて今地獄にいるか、あるいは大きな欺瞞の中にあって破滅を待っているかのどちらかです。もし人々が、密かに犯した罪を、同胞に告白せずに主に告白すれば、祈ってもらえるだろうと考えたり、信じているなら、それは時間の無駄です。なぜでしょうか？それは、神に赦され、密かに罪を犯させる原因となった霊に打ち勝つためには、神の言葉の完全な基準を満たさなければならないからです。その基準とは、同胞に罪や過ちを告白し、もしそれが主イエスに代わって教会から罰を受けるべき罪であれば、苦しみを受けた後に祈ってもらうことです。しかし、もしそれが教会からの罰に値しない罪であれば、残りの同胞はあなたの問題や過ちを祈りの対象とみなし、あなたがそれらの攻撃の背後にある霊に打ち勝つことができるまで、集団としてだけでなく、祈りの部屋で個人的にもあなたのために祈り始めるでしょう。聖書によれば、これらのプロセスは、あなたの問題の背後にある悪魔を暴き、すべての兄弟たちから攻撃を受けるためのものです。これはいわゆる「共同の油注ぎ」です。第二に、これはあなたを謙虚にし、プライドと自己中心性を取り除くプロセスでもあります。第三に、パウロは聖霊の導きによってローマ人と教会に訓戒を与えながら、「あなたがたは知らないのか。あなたがたは、だれの奴隷として服従するかによって、あなたがたもその奴隷となるのである。罪に服従して死に至るのか、それとも従順に従って義に至るのか。」(ローマ7:16)と語りました。聖霊がパウロを通して与えたこの訓戒によって、あなたがたが悪魔に身を委ねて隠れた罪を犯し、それを悔い改めて告白し、祈ってもらえるようにしないなら、あなたはそれらの霊の奴隷となることが明白に分かります。なぜでしょうか？それは、沈黙を守り、罪を告白しないことは、あなたがたの行いや行いを隠そうとする悪霊に直接従うことと同じだからです。

罪を告白して兄弟たちに罪を告白するようにとあなたに命じた神に背くのは、あなたがたがすでに奴隷となっており、新しい主人である悪魔と戦うことができないからです。主のこの戒めに従うことを露骨に拒否した人々は、今でも同じ罪を繰り返し犯していることに気づき、多くの人が信仰を失い、中には悪魔によって神は救えない、あるいは救いたくないと信じ込まされたために信仰を失いかけている人もいます。もしあなたが今そのような秘密の罪を犯している、あるいは以前犯していたのであれば、あなたが通っている交わりの場か教会の兄弟たちに罪を告白してください。彼らがあなたに与えるのが適切と考える罰が何であれ、それを受け入れ、実行してください。そうすれば、彼らはあなたのために祈り、あなたを立ち直らせてくれるでしょう。しかし、そうしないなら、あなたは自分自身を神の敵、悪魔のしもべにしたこととなります。こうした隠れた罪を犯してしまった牧師たちは、長老、執事、教会員、そして、自分が従っている権威がそうするように要求するなら、おそらく教会全体にもその罪を告白すべきです。

o. 私たちは互いに親切に接するべきです。親切とは、互いに親切で、歓迎し、寛大であることです。ペテロは教会に手紙を書き、「互いに惜しみなくもてなさない」（ペテロ第一 4:9）と言いました。なぜペテロは特にこれらの言葉を用いて、惜しみなくこのような発言をしたのでしょうか。それは、霊的にも肉体的にも老齢となったペテロがこの手紙を書いたことで、主イエスが教え、弟子たちに歩むように命じられた愛が完全に衰退していくのを目の当たりにしていたからです。この愛こそが、人々が彼らを主の弟子として見分けるためのモットーとなるものです。神の戒めに従うことにおけるこの衰退こそが、パウロがほとんどの手紙の中で、単に見せかけの、偽りの、想像上の、架空の、偽善的な愛を意味する偽りの愛について警告し続けている理由なのです。キリスト教徒たちが神のアガペーの愛を偽りのないものから偽りのものに変えてしまうと、不信者たちは真の光を示してくれる信者たちを頼りにするため、世の邪悪さはますます増大していくでしょう。神の使者を大多数とする多くの人々は、裕福な人々や重要な人物が訪ねてくると、非常に親切に接し、時には駆け足で対応するほどです。中には、持てる限りの財産を惜しみなく使い果たしてでも彼らをもてなす人もいます。しかし、貧しい人々や兄弟たちが訪ねてくると、彼らはしぶしぶ、あるいは渋々ながらドアを開けてあげます。中には、貧しい兄弟たちにドアを開けることさえせず、金銭的、物質的などいかなる援助も与えない人もいます。多くの人は、親切心や寛大さを示します。

友人、家族、そして感情的に結びついている人だけに。しかし、これは主が契約の兄弟たちに、互いに、そして見知らぬ人に対してさえも行うように命じていることは全く逆です。

p. 聖徒たちは互いに謙虚であるように命じられています。チェンバース辞典によると、「謙虚」とは、低い、卑しい、慎ましい、気取らない、自分自身や自分の主張を低く評価する、卑しい、地に落とす、下げる、卑下する、辱める、貶める、などを意味します。しかし、ストロング聖書全集によると、「謙虚」とは、意気消沈した、すなわち（比喩的に）（状況や性質において）屈辱を受ける、卑しい、落胆する、卑しい、身分の低い、卑しいという意味です。評判の良い、裕福な家庭出身の信者、あるいは裕福であったり、教養が高かったり、あるいはもっと良い信仰を持つ多くの信者は、

他の人よりも世俗的な志向を持つ人々は、しばしばこの世俗的な態度で主に導かれ、他の兄弟を見下す傾向があります。彼らの多くは、自らを卑しめることを拒まず、神の言葉を自分の中に受け入れる覚悟がありません。そして、彼らの大多数は、神の言葉に従うことで辱められ、卑しめられ、低くされ、打ちのめされた兄弟たちと、同じ境遇に置かれたがりません。しかし、聖書は、謙虚な兄弟たちこそが神によって高められ、高慢な者や自尊心の高い者は低くされるということを明確に示しています。救い主イエス・キリストの御言葉です。「おおよ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」（マタイ伝 23:12）。ですから、主イエスはあなた方を低くして用いるように、ご自身を低くされたように、あなた方を低くしたいと願っておられます。そして、身分の低い兄弟たちにへりくだり、定められた時に高くされるよう、彼らと共に歩んでください。

最後に、主イエスの聖徒、弟子である私たちが、これらの責任、そしてここには記されていないが聖書に記されている多くの責任を果たしている限り、私たちはキリスト・イエスとその教会、あるいは私たち同士と結んだ新しい契約の条件を満たしているのです。重要なのは、これらのすべての責任は、私たちが人間の意志をすべて捨て、主イエスの御心を行うだけでなく、その契約関係にある人々のために命を捧げることによって、キリストと共に真に死ぬことによるのみ可能になるということです。だからこそ、パウロはヘブライ人への手紙の中でこう言っているのです。9:16-17 「遺言があるところには、必ず遺言者の死がなければなりません。遺言（契約）は人が死んだ後に効力を持ちます。そうでなければ、遺言者が生きている間は全く効力を持ちません。これは、キリスト・イエスと契約関係にある者は、洗礼によってキリストの死に一体化することによって死ぬだけでなく、互いの関係においても人間の意志に対して死ぬことで、契約が有効になることを示しています。これは、彼らが支払うべき、あるいは払うべき代価、あるいは犠牲の一部です。なぜなら、もし彼らが依然として人間の意志を求めるなら、契約は何の力も持たないからです。あなたの人間の意志が私たちの主イエスの足元に、そして兄弟たちのために捧げられる時、それはあなたが主と兄弟たちのために命を捧げたことを意味します。神と契約が結ばれると、その契約を結んだ者のうちの一人が、契約が有効になるために、霊的にも肉体的にも死ななければなりません。だからこそ、あなたは神と兄弟たちとの契約を果たすために、死のしるしとして人間の意志を捨て去るべきです。

## 第12章

### キニア、光の中を歩くことの利点 コヴナントパートナーズ

この本の興味のある読者に意味を説明せずに、キニアについて話し始めるのは間違いでしょう。このギリシャ語のキニアは、コイノクニー/アーと発音され、別のギリシャ語の形容詞キンスから派生した名詞で、協力、すなわち（文字通り）参加、または（社交）交流、（金銭的、すなわちお金に関連する、またはお金からなる）慈善、つまり（伝える）、交わり、分配、親睦を意味します。一方、ギリシャ語のキンスはコイノスと発音され、共通の、すなわち（文字通り）全員または複数で共有することを意味します。これは単に、物事を共有していることを意味します。2人以上の人が物事を共有するところはどこでも、彼らにはコイノニアがあります。そのため、ルカは使徒言行録で、初期の弟子たちがコイノニアを歩んでいた方法を正しく記述しています。しかし、これは、互いのために真に命を捧げることなしには不可能です。使徒ヨハネがここで概説したのは、兄弟姉妹のために自分の命を真に捧げることである。

神が私たちのために命を捨ててくださったことから、私たちは神の愛を知っています。私たちも兄弟のために命を捨てるべきです。しかし、この世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、同情の心を閉ざすなら、どうして神の愛がその人のうちに宿るでしょうか。子どもたちよ、言葉や舌で愛するのではなく、行いと真実をもって愛しましょう。（ヨハネの手紙一 3:16-18）

使徒が「私たちはそうすべきだ」と言ったのは、契約の兄弟姉妹が怠ってはならない責任として、明らかにそう言っていたからです。つまり、これは単に肉体の死や、兄弟姉妹に降りかかる苦しみや迫害にあずかることではなく、命を捧げるということは、契約の兄弟姉妹と、私たちが何者であるか、そして何を持っているかを分かち合う用意があることを意味すると、使徒は明確にしました。だからこそ使徒は、物質的、金銭的など、この世の財産について特に言及したのです。もしあなたが、真に必要とされている契約の兄弟姉妹に、自分の世俗的な財産を提供する用意がないなら、その契約におけるあなたの献身は本物ではありません。この聖句に見られるように、初期の弟子たちは共有するものをすべて分かち合っていたのではないのでしょうか。

---

信者の群れは心を一にし、思いを一にし、持ち物を自分のものだと言う者は一人もいなかった。かえって、すべてのものを共有していたのである。（使徒行伝 4:32）

なぜこれが可能だったのでしょうか。それは、彼ら全員が一つのビジョン、一つの信仰、そして一つの主を持っていたからです。彼らは皆、精神的にも肉体的にも、体制から切り離されていたのです。皆が自分の持っているものを手放し、あるいは差し出し、必要に応じて分かち合い、不足することはありませんでした。初期の弟子たちのコイノニアの行為に関するルカの記述はここに見られます。「信者たちは皆、一緒にいて、すべてのものを共有し、持ち物や持ち物を売り、それぞれの必要に応じて皆に分け与えた。そして、毎日心一つにして神殿に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心から食事を共にした」（使徒言行録 2:44-46）。

彼らの中には、乏しい者は一人もいませんでした。土地や家を持っている人は皆、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足元に置きました。そして、それぞれの必要に応じて分配されました。(使徒行伝 4:34-35)

彼らは皆同じものを信じていたので、あらゆるものを共有していました。彼らの間には信じられないほどの一体感があり、決して不足することはありませんでした。神がすべてを支配していたので、皆の必要は満たされていました。彼らは聖書の言葉に従っていました。

見よ、兄弟たちが一致して共に住むのは、なんと良いこと、なんと楽しいことか。それは、頭に塗られた貴重な香油が、アロンのひげに流れ落ち、その衣のすそにまで達するようなものです。ヘルモン山（パレスチナ山、あるいはシオン山）の露のように、またシオンの山々に降り注ぐ露のように。主はそこに、永遠の命という祝福を命じられたからです（詩篇 133:1-3）。

---

この詩篇を書いた詩篇作者ダビデ王は、忠実な勇士たちや、荒野でサウルとその忠実な者たちの猛攻に打ち勝つためにダビデのもとに集まってきたガド人らと共に、城壁の中で暮らしていた時、この祝福を経験したに違いありません。兄弟たちが一致して共に暮らすとはどういうことか、彼は例を挙げながら述べました。そして、神はそこに（つまり、一致して共に暮らす兄弟たちの中に）神の祝福が流れ、それに従う者たちには永遠の命が与えられと命じたのです。私は、傲慢で利己的で、ビジョンがなく、反抗的で、怠惰で献身のない兄弟たちと共に暮らすことを勧めているわけではありません。彼らは聖霊の働きに従わず、偶像を主イエスの足元に置くことができないため、誰も一致して共に暮らすことはなく、また決してできないのです。私が語っているのは、ヘブライ人への手紙11章13-16節を真に信じ、地上では寄留者であり旅人であることを告白する人々です。自分がどこから来たのかを気に留めない人々（つまり、故郷とこの世を真に捨て、天にあるより良い国を求めている人々）のことで。私が語っているのは、神に試され、自分たちが何者であるか、あるいは持っているものを、契約を結んだ兄弟たちと分かち合うことを心から望んでいる人々のことです。そのような人々にとって、神は彼らの神に答えることを恥じません。なぜなら、神は彼らのために都を用意しておられるからです。これは、神がご自分の民が到達することを待ち望んでおられた領域、領土、領地です。そして神は、神と契約を結んでいるだけでなく、神に試され、忠実であることが証明され、主イエスの足元に最後の意志を捧げ、兄弟たちのために命を捧げる覚悟のある人々を動かすための舞台を整えておられます。詩篇133章1-3節に従い、一致のうちに共に暮らす用意ができています。契約を守るこの兄弟たちは、自分たちの資源と必要なものすべてを、天にある神の倉庫から直接得るでしょう。そして、彼らは決して不足することはありません。なぜなら、コイノニアは真の一致の実現だからです。

---

コイノニアは神の正確かつ精密な命であり、キリスト教における最高の領域です。

だからこそ、アナニアとサツピラが別の霊を招き入れようとした瞬間、聖霊は彼らを打ち殺しました。神の命が人々に与えられたばかりなのに、彼らはそれを阻止しようとしていたからです。コイノニアの完璧な例は、「わたしたちと父とは一つである」（ヨハネ10:30）という聖句に見出すことができます。

彼はわたしの栄光を現すであろう。わたしのものを受けて、それをあなたたちに示してくれるからである。父が持っておられるものはすべてわたしのものである。だから、わたしは言った。『彼はわたしのものを受けて、それをあなたたちに示してくれるであろう。』」（ヨハネ 16:14-15）

「わたしのものはみなあなたのものであり、あなたのものはわたしのものである。わたしは彼らによって栄光を受ける。」（ヨハネ17:10）

これらの聖句や聖書に記されている他の多くの聖句の中で、主イエスは、ご自身が父と一つであるだけでなく、父との一体性、すなわちコイノニアによって、父の持つすべてのものがご自身のものであると述べられています。なぜでしょうか？それは、イエスが父の御心を正確に実行されたからです。イエスは父を喜ばせること、そして父の栄光を現すことをすべてなさったのです。使徒パウロは、コイノニアという言葉を深く研究した後、コリントの教会にこう告げました。

「私は、あなたがたのために、イエス・キリストを通して与えられた神の恵みについて、いつも神に感謝しています。あなたがたは、すべてのことにおいて、すべてのことにおいて、すべての知識において、キリストによって豊かにされています。キリストの証しがあるあなたがたの中で確認されたように、あなたがたはどんな賜物においても欠けることなく、わたしたちの主イエス・キリストの来臨を待ち望んでいます。主は、あなたがたを最後まで強め、わたしたちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者としてくださいます。神は真実な方です。あなたがたは、神によって、御子イエス・キリストとの交わりに召されました。兄弟たちよ、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたに懇願します。あなたがたは皆、同じことを語りなさい。あなたたちの間に分裂が起こらないように、ただ一つの思い、同じ考えで完全に結び合わされなさい。」（1コリント1:4-10）

パウロはコリント人への訓戒の中で、神が彼らをあらゆることにおいて、あらゆる言葉において、あらゆる知識において豊かにしてくださただけでなく、彼らの中にあるイエス・キリストの証しを確認し、彼らがいかなる賜物においても欠けるところがないようにしてくださったと述べました。それゆえ、パウロは彼らに、主イエス・キリストの来臨を待ち続ける間、主は彼らを最後まで確認し、主イエスの日に責められるところのない者となられるので、彼らは同じことを語るよう努め、彼らの間に分裂が起こらないように、むしろ同じ思いと判断において完全に一つになるように勧めました。「終わり」という言葉はギリシャ語で *telos*、*-telos* と発音され、明確な点や目標、限界として目指される点、すなわち行為や状態の終結（終結）などを意味します。しかし、チェンバース辞典によると、「終わり」は最後の点、あるいは

部分、終了または終了、死、結果、結論、終わらせる、停止する、破壊する、終了する、など。パウロが実際に言いたかったのは、彼らはすべてのことにおいて豊かになった後、彼らがコイノニアを歩み始めたかどうかを確認する主イエスの啓示を待つべきだということでした。なぜなら、これが彼らを非の打ちどころのない者にするからです。

したがって、コイノニアは、すべての価値あるキリスト教活動の最高の目的、最終点、結論、または終結です。

コイノニアに入り、その中で完全に歩むなら、あなたは天と天の階層構造をこの地上にもたらしたことになります。使徒ヨハネが教会への第一の手紙の中でこう述べたのは、このためです。

「わたしたちが見聞きしたことを、あなたがたにも伝えます。それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、父と御子イエス・キリストとの交わりです。わたしたちがこれらのことを書き送るのは、あなたがたの喜びが満ちあふれるためです。」（ヨハネ第一 1:3-4）

ヨハネが彼らの見聞きしたことを宣言したのは、キリストと使徒たちがコイノニアで共に生活し、共に働いていた様子を彼らが目撃しただけでなく、使徒たちもコイノニアで互いに共に生活し、共に働いていたということです。イエスは弟子たちと共に生活し、共に食事をし、共に働いていました。そして、真の弟子たちも同じようにしていました。彼らは共に生活し、共に食事をし、共に働きました。ヨハネは弟子たちに、父と互いの交わり（コイノニア）を持つために、光の中を歩むようにと励ましていたのです。もしあなたがこれを見たり読んだりして、それを実践しようと努めるなら、あなたの喜びは満たされ、それを実践している聖徒たちと交わりを持つことができます。なぜなら、それが天国のライフスタイルだからです。

#### コイノニアを歩むために採用すべきステップ コイノ

ニアを歩むために採用できる主なステップは2つあります。

1. 他の献身的な兄弟たちと交わっている契約に全面的に従うこと。
2. 聖書が「光の中を歩む」と呼ぶ永遠の生き方。

コイノニアを歩むには、大きな代価を払わなければなりません。それは、単に契約関係にあるということではなく、無条件で全面的に契約を交わすことです。

私が言いたいのは、神と主イエス、夫と妻、主イエスと教会の間に見られるような、惜しみない献身のことです。これこそが真の一致に至る唯一の道だからです。そして使徒ヨハネがヨハネの手紙一1章6-7節で述べているように、

「もし私たちが神と交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行っていません。しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを持ち、神の子イエス・キリストの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

これは神が受け入れる唯一の基準であり、あなたが神に従う意志があるなら、神はあなたを光の中を歩む神のレベルまで引き上げることができますが、神の基準を守る準備ができていない罪深い男女や不信心な信者のために、神はその基準を下げるつもりはありません。

使徒が述べた「光の中を歩む」という言葉は、コイノニアの中を歩む兄弟たちの間では共有できないものがあることを示しています。

神の言葉に道徳的に反するいかなるもの、いかなる律法も、光の中にあるのではなく、闇の中にあります。例えば、夫婦間の性交や性関係は神によって許された道徳律であり、「光の中を歩む」行為でもあります。しかし、未婚の兄弟姉妹、あるいは夫婦ではない既婚男女間の性交は、不道徳であり、神の言葉に反します。また、悔い改めて捨て去らなければ死に至る闇の中を歩む行為でもあります。ですから、「光の中を歩む」とは、神の言葉に導かれ、コイノニアにいるすべての人々の間で、絶対的、全面的、そして継続的な開放性と誠実さを示す契約関係です。コイノニアを歩む人々の間では、何事も隠したり、歪曲したり、隠したりしてはなりません。彼らの関係は、夫婦間に存在する関係、つまり互いの人格を他者に完全に、そして遠慮なく開く関係のようであるべきです。自分を他の人に親しく知らせる（つまり、あなたと契約関係にある人々に自分の人格を明かす）準備ができていないなら、あなたは光の中を歩んでおらず、したがって他の兄弟たちや主イエスとのコイノニア（交わり）は築けていません。あなたがこのような秘密主義、不誠実、不誠実、そして利己的なためらいの状態にある限り、あなたの光は薄れ続け、ついには完全な闇の中を歩み始めるでしょう（エペソ5:1-13参照）。そして、あなたは憎しみの中で歩み始め、光の中を歩む人、あなたに真実を告げる人、あなたを叱責する人を避けるようになるでしょう。

したがって、コイノニアは現在の真理（健全な教義）と完全な誠実さによって支配されていることを理解しなければなりません。光はいかなる妨害や制約もなく、しっかりと輝いていなければなりません。そうでなければ、コイノニアはもはや神の言葉に基づいていません。コイノニアを歩む器の中に何らかの障害や暗闇があっても、その障害や暗闇が取り除かれるか、器が停止されるか破門されるかすれば、神の祝福は増し加わります。なぜでしょうか？それは、神が祝福を光の中でのみ現されるので、暗闇は常に神の祝福の妨げとなるからです。

ソロモン王はこう言いました。

「銀から不純物を取り除けば、より精巧な器が出てくるでしょう。」  
王の前から悪人を排除すれば、王の王座は正義によって堅く立つであろう。（箴言 25:4-5）

ですから、闇の中を歩む者が、光の中を歩む者の中から取り去られると、彼らのすべての行いは光に満たされるでしょう。互いに交わりを持ち、コイノニア（神の義なる交わり）を結びたいと願いながらも、その必要条件を満たそうとしない、いわゆるクリスチャンは、霊的な淫行に陥っています。なぜでしょうか？それは、性的な関係を持ちたいと願いながらも、結婚の必要条件を満たそうとしない男女に似ているからです。多くのクリスチャンが陥っている、そして私が先ほども述べたように、このような不義で献身のない関係は、間違った性関係に陥った男女の間に生じる関係と似ています。そして、それは通常、苦々しさ、傷つき、憎しみ、壊れた関係、満たされない欲望、そして果たされない約束に終わります。だからこそ、今日の世界の体制の中にあるあらゆる宗派やグループには、コイノニアが完全に欠如しており、霊的な淫行の証拠が想像を絶するほど多く見られるのです。

#### 光の中を歩んでいないというこの悲劇的な状態をどう解決するか

多くの人々がこの悲劇的な状況の解決策を求めてきましたが、何の成果も得られていません。多くの人が祈り、断食し、救いを求め、多くの神の聖職者に助言を求めてきましたが、問題は変わらず、あるいは悪化するばかりです。なぜこの問題が未解決のように思われるのか、それは解決策を求める多くの人々が、神の原則を告げられても受け入れないからです。彼らは、この状況から抜け出す方法や、神の基準に至る近道があるはずだと信じています。しかし、答えは次の聖書にあります。「北に向かってこれらの言葉を宣べ伝えよ。『背教したイスラエルよ、立ち返れ』と主は言われる。わたしは怒りをあなたたちに下さない。わたしは慈悲深いからだ。わたしは永遠に怒りを留めない。ただ、あなたの罪を認めよ。あなたはあなたの神、主に背き、あらゆる青木の下で異邦人（悪霊）に道を散らし、わたしの声に従わなかったのだ。主は言われる。『背教した子らよ、立ち返れ。わたしはあなたたちと結婚した。町から一人、家から二人を取って、あなたたちをシオンに連れて行く。わたしはわたしの心にかなう牧者をあなたたちに与え、知識と悟りをもってあなたたちを養う』と主は言われる。」（エレミヤ書3:12-15）多くの無知な人々はこう尋ねるかもしれませんが、「教会と光の中を歩むことと、これはどう関係があるのですか？」と。私は、両方に深く関係していると答えます。旧約聖書のイスラエルは、新約聖書の教会の複製です。神が彼らと契約を結び、彼らに期待していたように

コイノニアの中を歩むこと、それは神が教会と契約を結び、そのキリスト教活動全体が最後まで確認されるようになるためです。これが神が教会に期待しておられることです。教会はコイノニアの中を歩むのです。教会はコイノニアの中を歩むのです。教会はコイノニアの中を歩むのです。教会と契約を結び、そのキリスト教活動全体が最後まで確認されるようになるためです。光の中を歩むこととの関連は、神がイスラエルに与えた、交わりのうちに神のもとに戻るための基準は、神が教会に与えた、つまり光の中を歩むことへの基準と同じです。教会は神のもとに戻り、光の中を歩み、神と、そして光の中を歩む真の聖徒たちとコイノニアを持つためです。とはいえ、この聖句が指し示しているのは、神の基準への回心、自分の罪の認識と告白、認め告白した罪の悔い改め、罪からの完全な回心、そして自分自身、自分の欠点、自分の弱さを互いに惜しみなく打ち明け、祈りによって癒され、解放されることなのです。そして、光の中を歩むことによって、ついに契約の約束を果たすことができるのです。ヤコブがこう言ったのは、まさにこのことを意味していたのです。

---

互いに罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。そうすれば、癒されるでしょう。義人の熱心な祈りは大いに力があります。兄弟たちよ、もしあなたがたのうちに真理から迷い出た者がいて、それを改心させる人がいたら、その人は知っていないなさい。罪人を誤った道から改心させる者は、魂を死から救い、多くの罪を隠すのです。

(ヤコブ 5:16,19-20)

兄弟姉妹に罪や過ちを告白しなければ、あなたのために祈ってもらうことはできません。注：ここで私が言っているのは、ローマ・カトリック教会が司祭に告白するようなタイプの告白ではありません。それは神から来たものではなく、異教のバビロニア司祭が後にローマに定住し、教皇庁が普遍教会の指導権を握った際に採用した制度です。繰り返しますが、あなたが罪の中にいる時、あなたはもはや義人ではなく、罪の奴隷であり、癒され、解放されるためには、神が聞き届けられる祈り、義人からの祈りが必要です。もしあなたが罪を告白しなかつたり、回心するための祈りを義人から受け取らなかつたりするなら、あなたは過ちから救われず、罪の中で死ぬことさえあるかもしれません。これらのすべてのステップを踏んだなら、あなたは家族のように生き、光の中を歩み、あなたと契約関係にある神の民と、あなたの人生を分かち合う準備ができていなければなりません。命という言葉

---

チェンバース辞典によると、生命とは、生から死までの期間、経歴、現在の存在の状態、生活様式、道徳的行為、活気、生き、活気、生きている様子、特に人間である生物、社会的状態、社会的活力、人間関係、人生の物語、伝記、永遠の幸福、活気を与える原理、継続的な存在が依存するもの、などを意味します。主が皆さんに聖約の兄弟たちと分かち合っしてほしいと望んでおられることについて、皆さんが理解できるように、「命」という言葉の深い意味を書き出すことにしました。この競争で独りで進もうとする人は、必要な真の霊的充足感を決して得られないことに気づき、ほとんどの場合、欺瞞に陥ります。皆さんは、この世のシステムから離れ、神への奉仕に献身した他の器と献身的な関係を結ぶ必要があります。パウロがコリント人への第一の手紙で説明しているように、皆さんは皆、日々一つの体として聖潔のうちに生活するのです。12:12-27によれば、体のどの部分も単独では効果的に機能することはできない。苦しい時も、労苦の時も、それぞれが他の部分を必要としている。

喜びや尊敬。共に交わるという行為は、選択的なものではなく、必須の行為である。

なぜなら、ヨハネの手紙一第1章7節で使徒ヨハネはこう言っているからです。

しかし、神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、神の子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。

したがって、ここでの「もし」は、私たちが光の中を歩んでいる限り、互いに交わり、親交を深めていなければならないことを示しています。また、互いに交わりを持たなければ、光の中を歩むことはできないことも示しています。なぜなら、互いに交わりを持つときこそ、私たちの暗い部分が明らかになり、修正されるからです。そして、もし私たちがこのコイノニアの光の中を歩まなければ、私たちを聖なる生活に導くイエスの血による継続的な清めを経験できなくなってしまいます。

最後に、神が認めてくださるような交わりやコイノニアを見つけるのを妨げる唯一の障害は、あなた自身の内なる自尊心や利己心、頑固さ、邪悪な憶測などです。あなたはそれらの壁や障壁を打ち破り、最後のラッパを待ちながらコイノニアの恩恵を真に享受している聖徒たちに加わるよう努めるべきです。

## 連絡先

使徒/牧師 ジョン A. ダニエル、PO Box  
537、サテライトタ  
ウン、ラゴス、ナイジ  
エリア。  
電話/ファックス: 01 7943450.0803 3476693.08035719805.08034430659

使徒/牧師 ジョン・A・ダニエル、House  
2, D Close, 4th  
Avenue,  
Festac Town,  
Lagos, Nigeria.  
[www.harmabitrac.org](http://www.harmabitrac.org)

## 著者について

使徒としての召命を受けたジョン・A・ダニエルは、1989年に聖霊によって陣営（すなわち世界組織化された宗教システム）から離れ、仕事、親族、友人たちから引き離され、聖霊の権威（服従）のもとに置かれました。使徒パウロがアラビア砂漠に移され、そこで肉親と協議しなかったように、筆者も1989年4月22日に主イエスと契約を交わした後、聖霊によってナイジェリア、エヌグのアクブオガ・エメネにある荒野、あるいはアラビア砂漠のような農場集落へと導かれました（イザヤ書59章21節参照）。

その後、彼は厳しい訓練を受けさせられました。主が彼の中で純粋な神の言葉をすりつぶすように、彼はキリストのために多くの苦難、飢饉、苦難、困窮、苦悩、鞭打ち、投獄、徹夜、断食、危険などを通して彼の肉体を火で焼くことによって、厳しい訓練を受けさせられました。彼は1992年に訓練を終え、言語、部族、人種に関わらず主イエスの弟子たちに終末の真理を伝える権威を油注がれた者として、聖霊は今も彼を用いて、この真理を聖なる言葉を求める人々の心に届けています。彼は現在、ナイジェリアのラゴス州フェスタックタウンにある援助と和解のミニストリーおよび聖書訓練大学の監督兼学長を務めています。この施設は男女を無料で訓練し、世界中で無料のキリスト教書籍を配布しています。

著者は主の貴重な贈り物であるメアリー・ブレッシングスと幸せな結婚生活を送っています。メアリーは著者の契約のパートナーとして、主から彼が得る大きな恵みの秘密でした。

そして、この結婚により、ティモシー・ジョン（ジュニア）、ベンジャミン・サミュエル、デイビッド・ジョセフという3人の愛らしく従順な息子に恵まれました。